

X4.81  
18.4

321  
42

# 九州各縣輸出重要品調查報告

附產業概說

農商務省商工局

1894  
1895  
1896  
1897  
1898  
1899  
1900  
1901  
1902  
1903  
1904  
1905  
1906  
1907  
1908  
1909  
1910  
1911  
1912  
1913  
1914  
1915  
1916  
1917  
1918  
1919  
1920  
1921  
1922  
1923  
1924  
1925  
1926  
1927  
1928  
1929  
1930  
1931  
1932  
1933  
1934  
1935  
1936  
1937  
1938  
1939  
1940  
1941  
1942  
1943  
1944  
1945  
1946  
1947  
1948  
1949  
1950  
1951  
1952  
1953  
1954  
1955  
1956  
1957  
1958  
1959  
1960  
1961  
1962  
1963  
1964  
1965  
1966  
1967  
1968  
1969  
1970  
1971  
1972  
1973  
1974  
1975  
1976  
1977  
1978  
1979  
1980  
1981  
1982  
1983  
1984  
1985  
1986  
1987  
1988  
1989  
1990  
1991  
1992  
1993  
1994  
1995  
1996  
1997  
1998  
1999  
2000  
2001  
2002  
2003  
2004  
2005  
2006  
2007  
2008  
2009  
2010  
2011  
2012  
2013  
2014  
2015  
2016  
2017  
2018  
2019  
2020  
2021  
2022  
2023  
2024  
2025

例言

本篇撰ニ局員徳永勳美松田林太郎九州各縣ニ出張シ輸  
出重要品ニ對スル生産分配ノ狀況并ニ一般商工業ニ關  
シ調査報告スル處ニ係リ同地方ニ於ケル産業ノ現況ヲ  
知ルニ便ナルヲ以テ之ヲ印刷ニ附シ以テ當業者ノ參考  
ニ資スト云フ

明治三十九年七月

農商務省商工局



九州各縣輸出重要品調查報告

目次

一、福岡縣	一頁
二、長崎縣	四十九頁
三、佐賀縣	七十九頁
四、熊本縣	百十五頁
五、鹿兒島縣	百三十九頁
六、宮崎縣	百六十一頁
七、大分縣	百七十七頁
以上	

# 九州各縣輸出重要品調査報告

(第一回)

## 福岡縣

### (一) 産業概況

福岡縣ニ於ケル生産力ハ九州各縣中之ガ首位ニ居リ其商工業ノ地位ニ於テモ福岡市ハ内國貿易市場トシテ他ノ各縣都市ニ比シ一頭地ヲ抽キ久留米市ハ特殊工業地トシテ一異彩ヲ放テリ又海外貿易港トシテ門司港ハ諸外國船舶ノ輻湊物貨ノ集散地トシテ彼ノ長崎港ト比肩ス可キモノアリ其運輸交通ニ於テ九州鐵道ハ陸上交通ヲシテ四滑ナラシメ門司、小倉若松、博多ノ各港ハ海上ノ運輸ヲシテ遺憾ナカラシム殊ニ本縣ハ工業上唯一ノ原料タル石炭ノ生産豊富ニシテ殆ント無限ノ需要ニ應ジ得ベキ要素ヲ有セリ福岡縣カ其産業上殊ニ商工業ノ上ニ於テ他ノ九州各縣ニ卓越セル所以ノモノ決シテ故ナキニアラサルナリ

本縣ノ生産力ハ全體ヲ合シテ實ニ八千二百九十四萬圓ニ達シ之ヲ他ノ九州各縣ニ比スルニ殆ント二倍若クハ三倍ノ大ニ居リ而シテ他ノ各縣ト越テ異ニセルハ農産ト工業トノ生産力ニ於テ産額ノ逕庭甚シカラサルモノ是ナリ即チ自餘ノ各縣ハ農産ノ收利ニ於テ生産力ノ十中七八ヲ占ムルニ拘ラス獨リ本縣ハ農産ト工業トノ差極メテ近接シ而カモ將來商工業ノ發展ニ伴ヒ兩者ノ生産力相對時スヘキ期亦決シテ遂達ナラサル可キヲ信ス更ニ他縣ト異レルモノ鐵業ノ收利比較的増大ナルコト是ナリ則チ現時ニ於ケル石炭ノ産額ハ生産力全體ノ第三位ヲ占メ而シテ鐵産ト工業トハ生産殆ント伯仲ノ間ニアリ且産炭豊富ノ結果トシテ縣下各地ニ大規模の工場ノ設立ヲ見ルト同時ニ各種工業ハ逐年發展ノ趨勢ニ嚮ヘリ

今本縣產業上ノ状態ヲ述ルニ先チ生産上ノ統計ヲ左ニ示サン

生 産 (三十七年調査)

農 産	三千七百三十七萬三千九百八十四圓
工 産	二千三百七十九萬九千九圓
鑛 産	千八百二十三萬八千五百九十九圓
水 産	百五十五萬二千九百九十六圓
林 産	百三十七萬四千七百九十三圓
畜 産	六十一萬八千五百三十四圓
合 計	八千二百九十四萬三千三百七十一圓

以上各生産ヲ對照スルニ農業ハ依然他ノ生産品ヲ凌駕シ之ニ亞クモノ工産及採炭業ニシテ水産、林産、畜産、ニ至ツテハ  
畝カニ下位ニ居リ到底軒輊スヘクモアラス之ヲ概言スレハ本縣ハ農工及鑛山業ニ於テ著シク進歩ノ趨勢ヲ示セルモ水産  
林産及畜産業ニ於テハ他ノ産業ト駢轡シ難キノ状態ニ在リ是レ本縣ニ於ケル地理的關係ノ然ラシムル所ナリト雖而カモ  
水産ノ如キニ至テハ未タ啓發スヘキ餘地綽々トシテ餘裕アルヘキヲ信ス果シテ然ラハ本縣將來ノ縣是トシテ獎勵スヘキ  
モノ單ニ農工業ニ止マラサルヤ知ル可キ而已

本縣ニ於ケル農業ハ其發達進歩ノ程度ニ於テ本邦中有數ノ位置ヲ占メ殆ント模範的農業地トシテ他ニ誇稱スルニ足ルモ  
ノアリ而シテ農産總額三千七百萬圓中米穀産額二千六百二十八萬圓ニ達シ全生産額ノ三分ノ二ヲ占ム然レトモ現時遺酒  
及採炭業ノ發展ニ伴ヒ其需要漸次増加シ生産者ハ良米ヲ販賣シテ粗米ヲ輸入スルノ狀況ニ在リ米ニ亞クモノ大小麥ニシ  
テ産額五百四十三萬圓ヲ算セリ多ク縣内製麵業者ノ需用ニ供セラル大小麥ニ亞クモノ櫛實ニシテ近年木蠟カ外國輸出品

トシテ海外ノ需要ヲ喚起シ前途好望ノ状態ニ在ルト同時ニ櫛實生産ノ豊凶ハ延テ木蠟ノ製産ニ影響ヲ及ホスコト鮮カラ  
ス目下生産額平均七十一萬圓内外ナルモ尙ホ需要ヲ充タシ難キノ狀況ニシテ其不足ハ熊本、大分地方ヨリ輸入ヲ仰クニ  
至レリ製鑛ハ産額十四萬七千圓ニシテ彼ノ久留米織、博多織ノ事業發展ニ伴ヒ漸次其需要ヲ増加スルノ狀況ニシテ其製  
産ノ大抵分ハ是等製織ノ原料ニ供給セラル、モノトス製茶ハ既往數年前ニ於テハ本縣ノ重要物産トシテ旺盛ヲ極メタル  
モ時代ノ變遷ニ伴ヒ販路衰へ隨テ生産亦減少スルニ至レリ元來本縣ノ製茶ハ山野ニ自生セル山茶ヲ以テ製造スルモノナ  
ルカ故ニ純然タル綠茶ノ製造ニ適セス依テ去ル明治二十八年ノ交ヨリ清國及露西亞各國へ輸出ノ目的ヲ以テ重ニ紅茶  
磚茶ヲ製造シ爾來業務ノ改良ヲ企テ現時一ヶ年ノ産額十四萬七千圓内外ヲ算セリ茶業ノ將來ハ稍多望ノ域ニ在ルモノト  
言フヘシ

本縣ノ蠶業ハ去ル明治二十年頃ニ於テハ専ラ中流農家ノ專業の經營ニ歸シ一時盛況ヲ極メタリシカ其大規模的施設ニ係  
ルモノハ年々失敗相顧キ漸次衰退ノ傾向ヲ來シ之ト同時ニ一般農家ハ副業トシテ經營スルノ有利ナルヲ悟リ明治三十年  
頃ヨリ各農家齋シク飼育ヲ試ミ且縣獎勵ノ結果トシテ汎ク是レカ普及ヲ見ルニ至リ現下漸ク啓發進歩ノ域ニ達セリ  
要スルニ本縣ノ農業ハ商工業ノ發展ト俱ニ益々進歩ノ趨勢ニ在ルハ爭フ可ラサルノ事實ナリトス願フニ農業ノ發達ハ其  
生産物カ生活の需要ニ供給セラル、或程度以外ハ總テ工産物ノ原資トシテ發達シ進歩セルモノナルカ故ニ本縣ノ農業カ  
現時ノ狀勢ニ至レルモノ亦此原因ニ外ナラサル可キヲ信ス

本縣ノ鑛業ハ全國中重要ノ位置ヲ占メ現時石炭特許鑛區數實ニ七百餘箇所其坪數壹億五千餘萬坪ニシテ一ヶ年ノ採掘高  
殆ント七百萬噸ニ達シ是ニ對スル價格貳千萬圓以上ノ巨額ニ達セリ而シテ是等鑛業ノ採掘ニ從事スル勞働者亦實ニ五萬  
人以上ニシテ則チ其生産價格ハ縣下米穀製産價額ニ匹敵シ各種工産品中第一位ヲ占ムルニ至レリ彼ノ門司若松港ノ如キ  
ハ石炭ノ集散及其搬出ヲ以テ商業上ノ基礎トシ隨テ本業ノ盛衰消長ハ直ニ縣下一般ノ經濟上ニ影響ヲ及ホスニ至レリ然

リ而シテ本縣各種商工業ノ發達モ亦實ニ産炭ノ豊富之レカ原動力ニシテ彼ノ鐵道ノ敷設及東洋唯一ノ製鐵所設立ノ如キ  
 其他大規模的工業トシテ製糖所、紡績工場及各種鐵工場ノ勃興ノ如キ殆ント本邦ニ於ケル大資本家ヲシテ縣下ニ吸收セ  
 ルニ至レルモノ要スルニ産炭ノ豊富ナルニ歸因スルモノニシテ而カモ採炭ノ前途ハ逐年増進ノ趨勢ヲ呈シ之ニ伴ヒ各種  
 ノ工業ハ益々其發展ノ狀況ニ在ルハ本縣産業界ノタメ大ニ賀スヘキコトナリトス

本縣ノ水産業ハ其地理上ノ位置ニ於テ既ニ最モ有望ノ事業タル諸要素ヲ有セリ則チ本縣ノ位地タル三面海ヲ以テ環ラシ  
 彼ノ有明、玄海及周防灘ノ如キ孰レモ好個ノ漁場トシテ年々多大ノ漁獲ヲ見漸次其漁獲ヲ増加スルノ見込ヲ有セリ殊ニ  
 淡水漁業ニ於テハ筑後川、矢部川、等ノ河川ニ乏シカラサルヲ以テ是又鮮ナカラサル漁獲ヲ見ルニ至レリ生産額ハ鹹水  
 漁業ニ於テ七十八萬六千八百六十二圓ヲ算シ淡水漁業ニ於テ六萬四千九百十六圓ヲ算セリ而シテ水産製造物ハ總額四十  
 四萬四千二百二十二圓ニシテ以上ノ内海外輸出品トシテ特ニ支那地方ニ需要セラル、モノハ鰯、鱈及有明海ニ生産セル  
 特有漁獲物タル鰹魚(俗ニ揚卷ト稱ス)ニシテ本縣ノ水産ハ將來漁法ノ發達ト水産工藝上ノ進歩ニ伴ヒ前途最モ好望ノ  
 域ニアルモノト言フ可シ

本縣ノ林業ハ既往ニ於ケル濫伐ノ餘弊ヲ受ケ緒山禿嶺相踵キ縣下ヲ通觀スルニ林相地トシテ見ルヘキモノ殆ント稀ナル  
 ノ状態ニアリシカ近來縣ノ施設トシテ専ラ殖林思想ノ喚起ニ努メタルト俱ニ縣費ヨリ毎年巨額ノ補助費ヲ支出シ且專任  
 ノ技術者ヲシテ實地指導ノ術ニ磨ラシメタル結果トシテ一般ニ殖林經營ヲ企圖スルニ至リ閱年鬱葱タル林相地ヲ構成ス  
 ルノ狀況ニ嚮ヘリ現時林産物トシテハ木材ノ生産額八十二萬四千三百餘圓ニシテ其他樟腦竹材等ノ副産物亦鮮カラス而  
 シテ木材ハ近時韓國地方へ輸出スルニ至レリ要スルニ本縣ノ林業ハ現時ニ於テ稍勃興ノ機運ニ嚮ヘルモノト言フベシ  
 本縣ノ畜産ハ近來農業ノ運用及衛生ノ進歩ニ伴ヒ漸次發展ノ趨勢ヲ見ルニ至レリ然レトモ其施設トシテハ唯僅カニ種畜  
 ノ改善ヲ謀ランタメ外國種及内國種ノ良種ヲ輸入シ又一面ニ於テハ畜産製造上ノ啓發ヲ期センカタメ製肉及煉乳等ノ事

業ヲ獎勵シツ、アルニ過キスシテ其成績未ク觀ルニ足ルモノナキノ狀況ナリトス

本縣ノ商工業ハ前段ニ概説セルカ如ク特殊工業ノ發展ト俱ニ大規模的工場ハ縣下ノ各地ニ設立セラレ漸次其啓發ヲ見ル  
 ト同時ニ由來内國の貿易品タリシ各種工藝品中或ハ外國輸出品トナリ若クハ將來輸出品トシテ大ニ望ヲ囑スルニ足ル可  
 キモノアリ而シテ是等工業ノ發達ニ伴ヒ商業上亦自然ノ發達ヲ觀彼我相須ツテ漸次進歩ノ趨勢ヲ觀ルニ至レリ今本縣ノ  
 重要工産品ニ就キ其生産ノ統計ヲ示サントス

工 産 品

清 酒	六百二十一萬四千圓
綿 糸	五百十二萬二千圓
木 蠟	百九十二萬七千四百九十九圓
織 物	百四十萬一千八百五十五圓
絹織物	十九萬三千五百七十九圓
紗 糖	百十三萬四千七百九十三圓
醬 油	八十六萬八千六百八十六圓
セメント	八十三萬七千九百九十圓
和 紙	八十萬八千四百三十圓
洋 紙	六十九萬三千四百十六圓
菜種油及洋油	五十五萬六千九十二圓
洋 油	三十萬二千三百六十五圓

花	二十七萬七千八百六十二圓
蠶糸	二十六萬四千二百五十三圓
煉瓦及瓦	十四萬六千七百六十二圓
諸器械	二十三萬五千五百九十六圓
疊表及吳蓆	二十一萬一千五百七十八圓
和傘	二十二萬八千七百五十圓
鐵製品	十九萬二千九百二十一圓
蠟燭	十五萬七千八百八十圓
玩具	十三萬二千五百五十七圓
竹器	十一萬七千七百三十圓
陶器	五萬六千八百五十六圓
漆器	一萬五千圓
合計	二千三百七十九萬九千九圓

以上工産品中海外輸出品トシテ其大部分若クハ一部分ノ海外ニ輸出セラレツ、アルモノハ清酒、綿糸、木蠟、綿布、醬油、セメント、和紙、洋紙、花苳、蠶糸、鐵製品ノ數種ニシテ將來輸出ノ見込ヲ有スルモノハ砂糖、玩具、陶磁器ノ各種ナリトス亦縣内重要工産品トシテ現ニ年産額十萬圓以上ニ上レルモノハ菜種油、油滓、煉瓦、瓦、疊表、吳蓆、諸器械、和傘、蠟燭ノ數種ニシテ其他竹器、漆器等ノ生産アルモ未タ産額僅少ニシテ數フルニ足ラス然レトモ漆器ノ如キハ

將來本縣ノ特産トシテ前途發展ノ餘地アルヘキヲ信ス

試ニ各工産品ニ就キ其生産及分配ノ狀況ヲ畧説センニ清酒ハ縣下各郡多少産出セサルナキモ特ニ筑後地方ハ其醸造最モ旺ニシテ所謂九州ニ於ケル灘ノ稱アリ本業ハ其沿革甚々遠ク去ル明治二十二年同業組合ノ設置ヲ見ルト同時ニ當業者協力一致シテ醸造法ノ改良ヲ行ヒタル結果品質良好ノ故ヲ以テ大ニ需要ヲ増加シ現下ニ於テハ全國中灘地方ニ亞クノ生産地タルニ至レリ其需用ハ内國各地及清韓地方ニシテ漸次其販路ヲ擴張スルノ狀況ニ在リ斯業ノ前途ハ頗ル好望ニシテ益々進歩ノ狀況ヲ見ルニ至レリ綿糸ハ鐘淵紡績會社ノ經營ニ係リ縣下三池、久留米、博多ノ各地方ニ分工場ヲ設ケ馬力千六百、職工二千九百餘人ヲ使用シ事業頗ル見ルヘキモノアリ製品ハ品質良好ノ故ヲ以テ需用増進シ殊ニ本縣ニ於ケル綿織物原料ハ總テ同會社ノ製品ヲ供用セリ且近年ニ於テハ清國各地方ニ販路ヲ擴張シ終始品不足ノ狀況ニ在リトス斯業ノ將來ハ會社本店ノ盛衰ト其運命ヲ共ニスルモノナルカ故ニ一概ニ斷言シ難キモノアルモ近時社運益々好況ニ在ルヲ以テ見レハ其前途モ亦多望ナル可キヲ信ス木蠟ハ一ヶ年生産殆ント二百萬圓ニ達シ外國貿易品トシテ頗ル重要ノ地位ニアルモ事業經營ノ方法幼稚ニシテ緩カニ福岡市ニ於ケル太田製油工場カ他ニ率先シテ機械力ヲ利用シ製造ニ從事シツ、アルノ外他ハ概テ家内の工業ニ過キス然レトモ近來主産地タル筑後地方ニ於テハ製蠟者、販賣者、原料仲買者一致團結シテ筑後木蠟同業組合ヲ設置シ製品ノ粗製濫造ヲ矯メ輸出品ニ對スル検査ヲ厲行シ不正品ノ驅逐ニ努メツ、アルヲ以テ漸次良品ヲ供給スルノ機運ニ嚮ヘリ現下海外ノ需用稍々好況ナルカタメ當業者亦事業ノ發展ニ傾意シ生産増加ノ趨勢ヲ見ルニ至レリ綿布ハ其製品中ノ大部分ヲ占ムルモノハ所謂久留米緋、久留米縞ニシテ彼ノ小倉織ハ近年頗ル需要ヲ減スルニ至レリ又久留米縞ノ一種トシテ吉野織ナルモノハ近年清韓輸出品トシテ大ニ好評ヲ博シ漸次其販路ヲ擴張セリ久留米縞及久留米緋ハ去ル三十三年同業組合ノ設置ト共ニ染色、尺度、量目等ニ一定ノ制限ヲ加ヘ更ニ去ル三十六年以降製品ノ鑑定及品質ノ監査ヲ爲スノ規定ヲ設ケタル以來著シク製品ノ改良進歩ヲ見ルニ至リ其ノ販路ハ主ニ内國の需要ナルモ製品

堅牢ニシテ褪色少キカ爲メ逐年需要増加ノ傾向ニシテ將來本縣特有ノ工業品トシテ益々其發展ヲ見ルヘキヲ信ス醬油ハ清酒業ノ如ク著シキ發達ヲ見ス則チ縣外輸出トシテハ僅ニ年額十萬圓内外ニ過キス然レトモ近來韓國ニ輸入試賣ヲ爲シタル結果漸次輸出増進ノ傾向ヲ來シ昨年ニ於テハ一萬圓以上ノ輸出ヲ見ルニ至レリ「セメント」ハ中央セメント株式會社分工場、九州セメント株式會社、淺野セメント株式會社分工場ノ各社競フテ業務ノ改良ヲ謀リ殊ニ近年ニ於テハ事業界稍活氣ヲ呈セルカタメ殆ント日夕ヲ分タス生産ニ從事スルノ狀況ナリシカハ露開戰ノ影響トシテ内外ニ於ケル事業概延又ハ中止ヲ見ルニ至リ一時頗ル沈衰ノ狀況ニ陥リシカ平和克復後再ヒ事業ノ勃興ニ伴ヒ商況漸クニ活氣ヲ呈シ現時盛ニ製造ニ從事シツ、アリ販路ハ縣下各炭坑及内地各方面殊ニ臺灣地方へ輸出シ又海外ニ於テハ清韓兩國及「マニラ」地方ニ輸出ヲ見ルニ至レリ斯業ノ將來ハ社會ノ進運ト俱ニ家屋、土木、橋梁等ノ建築工事逐年多キヲ加フルノ趨勢ナルヲ以テ前途最モ有望ノモノニ屬セリ和紙ハ農家ノ副業トシテ家内の工業タルニ過キスト雖モ彼ノ東洋紙ナルモノハ清國向需要トシテ頻年其輸出ヲ増加シ目下約十八萬圓餘ノ輸出ヲ見ルニ至リ其他唐紙類等亦清韓向トシテ漸次好望ヲ以テ迎ヘラル、ニ至レリ而シテ去ル三十三年築後紙同業組合ノ設立セラレタル以來大ニ製品ノ改良ヲ加ヘ需要亦高進ヲ見將來有望ノ輸出品タルニ至レリ西洋紙ハ千壽製紙株式會社ノ生産ニ係リ専ラ新聞及印刷用紙ノ製造ニ從事シ去ル明治二十八年創業ノ際ハ主トシテ内地需要ヲ目的トセシカ爾來海外ニ販路ヲ開キ清韓及香港地方へ輸出セラレ彼ノ輸出西洋紙中印刷紙ノ名アルモノ概ネ本社ノ生産ナリトス而シテ戰時以來新聞雜誌各種印刷物ノ激増スルニ伴ヒ商況益々活氣ヲ呈シ現時殆ント注文ニ追ハル、ノ盛況ニシテ本業ノ前途ハ最モ有望ノ事業タリト信ス花筵ハ主ニ輸出向トシテ製織セラレツ、アルモ是又農家ノ家内工業ニ屬シ農閑ヲ利用シテ製産スルニ過キス其輸出額ハ一ヶ年約七萬圓内外ニシテ原料ハ縣下產出ノ蘭草ヲ用非供給潤澤ナリトス本縣ニ於ケル花筵ニシテ改良ヲ要スヘキ點ハ染色、耳組、意匠ノ數項ニシテ縣ニ於テハ斯業ノ改善ヲ期スルタメ去ル三十四年以來同業組合ニ對シ毎年縣費ノ補助ヲ與ヘ以テ其製品及原料ノ統一改善ヲ圖リ

タル結果トシテ近來之レカ成績頗ル觀ルヘキモノアリ益々他ノ工業ニ比シ事業微々トシテ振ハス專業的工場トシテ見ル可キモノ總カニ數ヶ所ニ過キス殊ニ生糸ノ生産ハ極メテ僅少ニシテ比較的應線製糸ノ發達ヲ見ルニ至レリ斯業ノ前途ハ一盛一衰備倪ス可ラサルモノアリ鐵製品ハ古來ヨリ博多鑄物ノ好評ヲ得汎ク内國ニ普及シ需要亦頗ル多ク目下機械的工場トシテ福岡市ニ存在セル數ヶ所ノ工場ハ其規模觀ル可キモノアリ製品ノ内及物農具類ハ主ニ内國ノ需要ニシテ鍋釜類ハ重ニ清韓地方ニ輸出セラレ漸次其販路ヲ擴張シ殊ニ韓國方面ニハ本縣製品ノ普及ヲ見ルニ至レリ本品ノ前途ハ最モ有望ノモノト信ス

輸出重要品ニ亞キ將來海外ニ販路ヲ求メ得ヘキ工產品ハ前段ニ記述セルカ如ク砂糖、玩具、陶磁器ノ三種ニシテ砂糖ハ主ニ縣下大里精糖所ノ生産ニシテ同所ハ去ル明治三十七年神戸市鈴木合名會社ノ創立ニ係リ資金二百萬圓ヲ以テ一日百噸以上製産シ得ヘキ工場ノ裝置ヲ爲セリ原料ハ臺灣糖及外國粗糖ヲ用ヒ現時一ヶ年約百萬圓以上ノ生産ヲ見其販路ハ現時内地ニ止マレルモ將來事業擴張ノ曉ニ於テハ海外特ニ清韓方面ニ輸出スル見込ヲ有セリ又内地ニ於ケル販路ハ輸入糖ニ比シ價格低廉ナルカタメ賣行頗ル好況ニシテ將來益々發展ノ狀況ニ在リ其他縣下各部ニ於テハ農家ノ副業トシテ粗糖ノ生産ヲ見ルニ其生産費ニ多額ヲ要シ殆ント收支償ハサルノ狀態ニシテ事業萎靡トシテ振ハス常ニ大里製糖所製品ノタメ壓倒セララル、ノ狀態ナリトス玩具ハ所謂博多人形及久留米ニ於ケル吹風琴ノ二種ニシテ博多人形ハ現時其生産額三萬圓内外ニシテ古來技術ノ精巧ヲ以テ名アルモ未タ意匠及着色ニ於ケル研究全カラサルト其質脆弱ニシテ運搬上破損シ易キノ困難アルヲ免レス殊ニ其製品ハ重ニ内國の需要ニ供セラル、ノ外海外輸出品タルニ適セス然レトモ近來神戸長崎居留外人カ類々トシテ寫眞注文ヲ發シ來レルカ如キ稍注目ニ値スヘキ事柄ニシテ將來外人ノ嗜好需要ニ投シ得ヘキ底ノ意匠ヲ研究シ製作セルニ於テハ漸次輸出ヲ見ルノ機アル可キヲ信ス又久留米ニ於ケル吹風琴ハ近年ノ發明的製作品ニシテ其構造極メテ單純粗野ナルモ音律ノ調和巧妙ナルノ故ヲ以テ大ニ世間ノ好評ヲ博シ殊ニ清韓臺灣方面ニ輸出セララル、



モノ年々多キヲ加へ目下生産額實二十萬圓ノ巨額ニ上リ彼ノ博多人形ト同日ノ比ニアラサルノ好況ニシテ前途尙ホ發展シ得ヘキ餘地アルヲ信ス要スルニ本品ハ縣下ノ特有工藝品トシテ將來之レカ改善發達ヲ期スルニ於テハ海外輸出品ノ一タルヲ失ハサル可シ陶磁器ハ所謂高取燒ト稱シ征韓ノ役豊公ノ命ニ依リ恩田長政自ラ工人ヲ督シテ韓國式ノ製作ヲ爲クシメタルニ歸因シ爾來漸次生産者増加シ現時ノ狀況ヲ見ルニ至レリ然レトモ其製品ハ清酒幽趣ニシテ單ニ内地向トシテ茶人間ノ嗜好ニ投スルニ過キス隨テ生産額ノ如キ目下僅ニ一萬五千圓内外ナリトス然レトモ今後製作ニ改良ヲ加へ且廉價ニ生産スルヲ得ハ將來海外ニ販路ヲ求ムコト蓋シ至難ナラサル可キヲ信ス

縣下ノ工業品ニシテ海外輸出品若クハ輸出ノ見込ヲ有スル各生産品ハ以上縷述セルカ如シ而シテ現ニ内國ニ販路ヲ有シ年産額十萬圓以上ニ達セル重要工業品中菜種油及油滓ハ一ヶ年ノ産額八十五萬圓餘ニシテ機械力ヲ利用シ製造ニ從事セルハ福岡市ニ於ケル太田製油工場ノミ他ハ總テ家内の工業ナリトス販路ハ關西各地方及九州各縣ニ涉リ殊ニ太田製油場ノ如キハ生産ノ多大ナルト製品ノ良好ナルトニ依リ年々販路ヲ擴張スルニ至レリ煉瓦及瓦ハ一ヶ年ノ産額二十三萬圓内外ニシテ縣下ニ於ケル各種工場ノ設立漸次多キヲ加フルト俱ニ斯業ノ前途亦稍發展ノ狀況ニアルモ未タ大規模の工場ノ設立ヲ見ス縣下四百五十餘戸ノ生産者中獨リ川代煉瓦工場ハ機械工業ニ依リ耐火煉瓦ノ製産ニ從事シ其規模稍見ル可キモノアルモ他ハ總テ家内の工業ニ屬セリ燧表及與葦ハ其産額二十二萬圓内外ニシテ製造者ハ縣下ヲ通シテ八千有餘戸ニ及ヒ彼ノ輸出花蒔ノ生産ト相須ツテ農家ノ家内の工業タルニ過キス販路ハ東京、大阪及四國九州各縣ナリトス諸機械ハ本縣鐵業ノ發展ニ伴ヒ勃興セル一事業ニシテ其製品ハ鐵業用諸機械ヲ製作スルニアリ現時工場ノ數二十有餘ニ及ヒ一ヶ年ノ生産額二十萬圓以上ニシテ斯業ノ前途ハ本縣鐵業ノ盛否ニ依リ消長スルノ狀況ニアルモ鐵業ノ上進ニ伴ヒ大ニ望ヲ有スヘキ事業ナリト信ス絹織物ハ本縣特有物産タル博多織ニシテ一ヶ年ノ産額二十萬圓内外ヲ下ラス製品ハ帯地、袴地、若尺地等ヲ主トシ其他各種ノ袋物地ヲ製織セリ本業モ亦家内の工業ノ一ニ屬シ製織染色ノ如キ依然舊套ヲ脱セス其特色

ハ地質ノ堅牢ニ在ルカ如シト雖未タ製織ノ巧緻ト言フ能ハス彼ノ西陣、桐生、足利等ノ製品ニ比シ遠ク及ハサルモノアリ販路ハ單ニ内國需要ニ過キスシテ前途大ニ改善ヲ加フルニアラサレハ漸次悲運ニ陥ルノ虞ナキ能ハサルモノト信ス和傘ハ事業ノ由來甚遠ク現時一ヶ年生産額二十萬圓内外ニシテ久留米市ニ於ケル赤松合資會社ノ外ハ總テ家内の工業トシテ小規模ノ經營ニ過キス販路ハ重ニ九州中國ニシテ赤松傘ノ名ハ良品トシテ大ニ好評ヲ博シツ、アリ蠟燭ハ木蠟ノ生産ニ伴ヒ本縣ノ特有物産トシテ縣下各郡ニ産セリ一ヶ年ノ産額約十四萬圓ニシテ是又家内の工業ノ一ニ屬シ縣下ヲ通シ百戸内外ノ製造家ヲ有セリ販路ハ大阪及九州各縣ニ涉レリ然レトモ外國輸入蠟燭ノ普及ニ伴ヒ漸次販路縮少ノ狀態ニ在リ

以上ノ外工業品トシテ竹器ハ一ヶ年五萬六千圓内外ヲ産スルモ僅ニ内地需要品ニシテ未タ發達ノ機運ニ向ハス漆器ハ近來ノ事業トシテ縣下久留米市ニ於テ藍胎漆器ナルモノ、製造ヲ開始シ現時一ヶ年僅ニ二三千圓ノ生産ニ過キサルモ其品質極メテ堅牢ニシテ且一種ノ雅致ヲ有スルカ爲メ漸次一般ノ需要ヲ喚起シ隨テ産額亦増加スヘキ趨勢ヲ見ルニ至リ其前途甚好望ノ域ニアリトス

本縣ノ商工業ハ以上縷述セルカ如ク他ノ九州各縣ニ比シ工業ノ種類頗ル多ク且生産力亦比較的多大ニシテ其生産ニ於テモ大規模の工業ノ方法ヲ採用スルモノ鮮ナカラス是レ機運ノ然ラシムル所ナリト雖而カモ本縣ハ工業地トシテ唯一ノ要素タル石炭ノ豊富ナルト運輸交通ノ至便ナルカ爲メ各地生産ノ加工の原料ヲ吸收シ得ヘキ便宜ヲ有スルモノ是レカ最大原因タルハ不可掩ノ事實ナリトス而シテ本縣現時ノ工業ハ尙ホ未タ發展ノ餘地甚タ多キヲ以テ將來產業界發達ノ趨勢ニ伴ヒ更ニ長足ノ進歩ヲ見ル可キヲ信ス果シテ然ラハ本縣商工業ノ前途ハ最も多望ニシテ延テ一般産業モ亦此發展ニ隨伴シテ漸次伸張ヲ見ル可キヲ信ス

(二) 工産品

(イ) 輸出工産品

本縣産出ノ工産品ニシテ年産額十萬圓以上ニ上リ現ニ海外ニ輸出セラル、モノハ左ノ十一種ニシテ以下各品目ニ就キ製産狀況并ニ販路等ヲ詳細ニ叙述スヘシ

- 一、清酒
- 二、綿糸
- 三、木蠟
- 四、綿布
- 五、醬油
- 六、セメント
- 七、和紙
- 八、洋紙
- 九、花筵
- 十、生糸
- 十一、鐵製品

一、清酒

一、産額(三十七年調)  
 數量 二十萬七千三百三十二石  
 價額 六百二十一萬四千圓

二、主要産地

本縣ニ於テハ各郡共之ヲ産スト雖モ就中筑後ハ最モ醸造ノ盛ナル地方ニシテ三浦郡城島町ノ清酒ハ酒質醇良灘地方ノ清酒ト比較シテ殆ント伯仲ノ間ニアリト云フ之ニ次クモノハ筑前ニシテ豊前地方ハ又其次ナリト云フ

三、醸造戸數及職工數

戸數 四百二十四戸  
 職工 四千六百六十四人

四、製産狀況

近年經濟界不振ノ爲メニ一般ニ購買力ヲ減シ本品ノ如キモ之レカ爲メ需用減退ノ狀態ナリシカ増税及時局ノ二問題ハ本業ニ一層ノ打撃ヲ與ヘタルガ如ク收支相償ハスシテ廢業スルモノ多ク本業ノ狀態ハ一時頗ル窮況ニ陥リシガ昨年以來稍順潮ニ向ヒ漸次好況ニ進ミツ、アリ

五、原料ノ供給

本品ノ原料タル米ハ本縣産出ノモノヲ以テ之ニ充テ其供給ハ充分ナルガ如シ

六、製産費損益比較

本品ノ損益比較ハ原料勞銀ノ高低ニ依リ一様ナラサルモ三十七年中ニ於ケル一石ノ計算ハ概テ左ノ如シ

原料代	拾三四五拾錢
製造費	
職工賃	
雜費	
造石稅	拾六四五十錢
合計	三拾圓
賣價	三拾貳圓

差引純益金貳圓

七、販出額

産額ノ大部分ハ内地ノ需用ニシテ縣外輸出ハ總産額ノ約六割ニ當リ外國輸出ハ僅カニ明治三十七年ニ於テ貳千五百七十石ナリシト云フ

八、相場

一石ノ卸直段ハ上三十三圓、中三十二圓、下三十一圓

九、販出品仕向先及販賣手續

本品ノ販路ハ内地ニアリテハ九州各縣及四國、中國ヨリ臺灣ニ及ヒ海外ニアリテハ主トシテ清韓地方ニ輸出セララル販賣手續ハ縣外輸出ニアリテハ問屋ノ手ヲ煩シ或ハ製産者直接ニ各地特約店ノ注文ニ應シテ販出スルヲ常トス

十、荷造法及其費用、運搬費

容器ハ吉野杉製ノ四斗樽ヲ用ヒ樽上ニ菰繩掛ヲ爲スヲ以テ例トシ其費用ハ凡ソ一圓五十錢乃至二圓トス運搬費ハ仕向地ノ遠近ニ依リ一定セス

十一、内地ニ於ケル商況

經濟界ノ不振ニ加フルニ増稅及時局ノ爲メ需用減退シ一時軍用酒買上ノ爲メ多少ノ活氣ヲ添ヘタルモ全般ノ景況ハ不振ノ裏ニアリシカ近頃經濟界ノ順潮ニ復セルト共ニ本品ノ商況モ稍活氣ヲ帶フルニ至レリ

十二、改良スヘキ要點

本縣産ノ清酒ハ會テ灘ノ製法ヲ傳習シ専ラ改良ヲ加ヘタル結果トシテ今ヤ醇良ノ清酒ヲ醸造スルニ至レリ然レトモ尙ホ進ンテ學理ヲ應用シ専ラ其試醸中ナリト云フ

十三、事業ノ沿革

本縣ノ酒造ハ其由來スル處甚タ遠シト雖モ去ル明治二十二年同業組合法發布ノ時ヲ以テ是レカ改進ノ時機トナスモ不可ナキカ如シ即同年以前ニ於ケル本縣ノ製産狀況ハ他産地ト同シク舊慣醸造法ヲ墨守シ製品粗惡ニシテ醇良清酒ハ重ニ灘地方ノ醸造清酒ヲ輸入スルノ狀況ナリシカ組合法發布セラレ酒造組合設置セラレテ以來組合員ヲ灘地方ニ派遣シ同地方ニ於ケル名産地ノ醸造家ヲ歴訪シ其醸造法ヲ視察セシメタル結果ヲ組合員ニ報告シ若クハ酒造専門家ヲ招聘シ或ハ講習會ヲ開キテ實地研究セシメ爲メニ一般營業者ハ大ニ醒覺スル所アリ要スルニ一般營業者ヲシテ斯業改善ノ必要ト各縣本業ノ狀態トヲ知悉セシメタル爲メ其醸造法大ニ改良セラレ其産額從テ増加シ現時ニ於ケル本縣酒造業ハ品質産額共ニ全國中一頭角ヲ抽ンスルニ至リ年々秩序の發達ヲ爲シ前途益好望ナルカ如シ

一、綿糸

一、産額(三十七年調)

數	百九十六萬九千七百四十九貫
價額	五百十二萬二千圓

二、主要産地

三池郡大牟田町鐘淵紡績會社三池分工場

久留米市

同

久留米分工場

福岡市

同

博多分工場

三、使用馬力及職工數

千六百十五馬力

職工

二千九百十八人

四、製産狀況

時局ノ爲メ綿布カ軍需品トシテ買上ケラル、ニ至リ戰時ニアリテハ各紡績會社共頗ル盛況ナリシカ特ニ鐘淵紡績會社ノ製品ハ内地及清國ニ向テ品質良好ノ聲高ク兩三年來清國ニ向テ大ニ販路ヲ擴張シ終始品不足ノ狀況ナリシ

五、原料ノ供給

綿糸ノ原料タル棉花ハ米國産ヲ以テ纖維尤モ長ク強力尤モ強ク尤モ光澤ニ富ムトナシ從テ綿糸ノ原料トシテ好適品トナス如シト雖モ價格比較的不廉ナルカ故ニ鐘淵紡績會社ニアリテハ番手ニ應シテ清國産及印度産ヲ適宜ニ混和シテ之ヲ使用スト云フ

六、仕向先

仕向先ハ内地ニ在リテハ長崎、神戸、大阪、熊本、佐賀、山口、廣島、大分、徳島等ニシテ外國ニアリテハ清韓ヲ重ナル顧客トナス

七、販賣手續

販賣方法ハ外國輸出ニアリテハ會社直接ニ阪神兩港ニ於ケル居留清商又ハ外國商人ニ賣込ニ後此等商人ノ手ヲ經テ海

外ニ輸出スルニアリ清商ハ重ニ在荷買入ヲナシ稀ニ注文ヲ發スルコトアリト雖モ外商ハ清國ニ於テ請負又ハ注文ヲ受ケ置キ後買入輸送スルモノ多シト云フ内地ニ於ケル販賣方法ハ問屋ト取引スルヲ常例トス

八、内地ニ於ケル商況

戰時ニアリテハ一般ニ商品ハ戰爭ノ影響ヲ蒙リタル形蹟ヲ認ムレトモ本品ニアリテハ綿布ノ軍需品トシテ買上ケラル、ニ至リ却テ需用ヲ増加シ製品ノ販路ハ次第ニ擴張セラレツ、アリ

九、事業ノ將來

本縣ニ於ケル紡績業ハ本店ノ盛衰ト運命ヲ共ニスヘキモノニシテ本店鐘淵紡績會社ノ狀況ハ逐年盛況ニ益販路ヲ擴張シツ、アレハ本縣綿糸業ノ將來ハ益好望ナリト云フヘシ

三、木 蠟

一、産額(二十七年調)

數 量	百六十三萬三百二十貫
價 額	百九十二萬七千四百九十九圓

内

生 蠟	百三十四萬九千二百六十八貫
晒 蠟	百五十三萬六千九百六十一圓
	二十八萬一千五十二貫
	四十三萬五千三十八圓

二、主要産地

三井郡、山門郡、浮羽郡、八女郡、朝倉郡、鞍手郡、遠賀郡、糸島郡、企救郡、京都郡ノ十郡

戸 數  
職 工 數

四百二十二戸  
千五十五人

四、製産狀況

本蠟ハ外國輸出品トシテ有留ノ地位ヲ占メ居ルモ本縣本業ノ狀況ハ未タ充分ナル發達ノ域ニ達セス福岡市太田製油工場ニ於テ機械絞蠟ヲナスノ外他ハ所謂家内工業トシテ概テ農家ノ兼營ニ屬セリ從來當業者ハ本品需要ノ方面ヲ知悉セス爲メニ本品カ現時及將來ニ於テ有望ナルヲ覺ラス加之數年前價格下落非常ノ悲境ニ陥リシヲ以テ夫カ爲メ原料樹實ヲ採取シタル狀況ナリシカ三十八年以來價格ノ騰貴ト其需用ノ狀態ヲ知悉シタルニ依リ植樹又ハ蠟樹ノ保存ニ注意スルノ傾向ヲ呈シ來レリ

五、原料ノ供給

原料樹實ハ植樹後五六星霜以上ヲ經サレハ充分ナル收穫ヲ得難ク現今縣下ニ於ケル製産ハ充分ナル供給ニ應スル能ハス大部分ハ隣縣熊本、大分ヨリ輸入ヲ仰キ來レルヲ以テ製産地ノ豊凶ハ直ニ本縣本蠟ノ製産ニ影響ヲ及ボシ事業ノ消長ニ大ナル關係ヲ有ス

六、輸出狀況

本品ハ直輸出ノモノナク神戸、長崎ニ於ケル仲買人ノ手ヨリ外商ニ賣込ミ海外ニ輸出セラル、モノニシテ筑後製品ハ一旦久留米ニ集中シ筑前ハ博多ニ集合シ是等兩市場ヲ中繼シ神戸ニ輸送セラル筑後産ノ一部ハ長崎港ヨリ輸出セラルルモ其額僅少ナリ

七、改良スヘキ要點

從來ニ於ケル本縣産本蠟ハ製産者ニ於テ量目ヲ重カラシムル爲メ稍モスレハ蠟中ニ油若クハ灰等ヲ混滑スルノ弊アリ

シカ此等ハ機械若クハ洗料鉋付等ニ使用スルニ當リ意外ノ故障ヲ生スヘキモノニシテ近來同業組合ハ此等ノ弊害ヲ除去スルニ勉メツ、アリト云フ

八、同業組合ノ設置

本品ノ主産地タル筑後ニ於テハ製品ノ改善ヲ期スル爲メ去ル三十四年絞蠟者、販賣者、檢賣仲買者ヲ含ム筑後本蠟同業組合ヲ設置シ原料ノ精撰ヲ期シ製品ノ粗製濫造ヲ矯正シ特ニ輸出品ニ對シテハ檢査ヲ勵行シ不正品ノ市場ニ出ツルヲ防止スルニ勉メツ、アリ

四、綿 布

一、産額(三十七年調)

數 量	八十三萬一千三百六十二反
價 額	百四十萬一千八百五十五圓

内

久留米 緋	數 量	五十九萬二千八十反
久留米 緋	價 額	百二十四萬九百五十二圓
久留米 緋	數 量	十八萬九千四百二十一反
久留米 緋	價 額	十八萬六千三百二十六圓
甘木 緋 其他	數 量	四萬九千八百六十一反
甘木 緋 其他	價 額	九萬五千七百七十七圓

二、種 別

綿布類中本縣ニ於テ著名ナルモノハ久留米緋、久留米緋、甘木緋、及小倉織ノ四種ニシテ其内最モ産額ノ多キハ久留米緋ニシテ久留米緋、甘木緋之ニ次キ獨リ小倉織ハ近年頗ル衰退セリ

三、主要産地

福岡縣

工 産 品

久留米緋、久留米縞ハ久留米市ヲ中心トシ附近三井、浮羽、八女、三瀨、ノ四郡ニ産シ甘木緋ハ朝倉郡ニ産ス  
四、製造戸數及職工數

戸數 千百五十七戸  
職工數 二萬六千三百人

五、製産狀況

本縣ニ於ケル製産狀況トシテ特ニ記スヘキモノハ機業家ハ其原料ヲ各町村ノ職工ニ交付シ職工ハ製織ノ終リタル後其製品ヲ同業組合指定ノ最寄製産所ニ提出シテ鑑定ヲ請ヒ鑑定所ハ鑑定人ヲシテ其品質并ニ製織方ノ巧拙ト工賃トノ鑑定ヲナシ製品ヲ保管シ機業家ハ鑑定所ニ至リ工賃ヲ仕拂ヒ現品ヲ領收スルノ仕組ナリ

六、販賣手續

本品ノ販賣方法ハ各機業家ヨリ久米留市ニ於ケル主ナル十餘ノ販賣店ニ賣込ミ是等ノ商店ハ東京、名古屋、京都、長崎、廣島、馬關等ノ取引商店ニ向テ信用取引ヲ爲スニアリ

七、内地ニ於ケル商況

本品モ亦所謂戰時ノ影響ヲ蒙リ商況一時不振ニシテ創産者ヲ出スノ姿ナリシカ昨年未以來稍活氣ヲ帶フルニ至レリト云フ

八、輸出狀況

本品ノ販路ハ重ニ内地ニアレトモ久留米縞ノ一種吉野織ナルモノハ近年清韓地方ニ輸出シ好評ヲ得ツ、アリト云フ

九、事業ノ沿革

久留米緋ハ明治十年頃ヨリ非常ニ購買者ヲ増加シ大ニ販路ヲ擴張シ一時ハ製品不足ノ爲メ需用ヲ充タス能ハサルノ姿

トナリ之レカ爲メ遂ニ粗製濫造ノ弊ヲ生シ一般需用者ノ信用ヲ失墜シ事業之レカ爲メニ衰退ニ陥リシコトアリシカ其後當業者深ク顧ミ互ニ其回復ニ勉メタル結果漸次近年産額ヲ増加シ時ニ消長アリト雖モ最近ニ於テハ毎年平均八十萬反ヲ産スルニ至レリ

十、同業組合ノ設置

綿布類中組合ノ設置アルハ久留米緋及久留米縞ノ二種トス  
久留米緋ハ去ル三十三年七月組合ヲ設置シ以來染色尺度量目等ニ一定ノ制限ヲ設ケ製品改良ト共ニ從來ニ於ケル弊害矯正ヲ謀ル殊ニ三十六年以來組合ハ製品ノ鑑定及依託織物ノ織賃ヲモ鑑定スルニ至リタル結果獨リ弊害矯正ニ對シ著シキ效果ヲ顯ハシタルノミナラス自然ニ製品改良進歩ノ域ニ進メリ  
久留米縞ハ三十二年十月組合ヲ設置シ殆ント久留米緋組合ト同一ノ業務ヲ執行セリ但本組合ハ染工場ヲ設置シ組合員ノ使用スル色合(藍ヲ除ク)ハ組合員ヲシテ隨意ニ染色セシメス組合力認可シタルモノ、外ハ組合ニ提供セシメ組合ハ實費ヲ以テ染色スル爲メ染料ノ撰擇ニ注意スルハ勿論染色上不正行爲ナキニ依リ色糸ノ容易ニ褪色スルノ憂ナク次ニ組合ハ又染色試驗場ヲ設ケ染色及製織方法ニ關シ常ニ研究試驗シタル結果ヲ一般組合員ニ指示スル爲メ漸次品質改善ノ域ニ進メリ

五、醬油

一、産額(三十七年中)

數量 七萬七千二百四石  
價額 八十六萬八千六百八十六圓

二、主要産地

福岡縣 工産品

縣下各郡市ニ於テ之ヲ産スレトモ就中最モ醸造ノ盛ナルハ福岡市及山門、朝倉、浮羽ノ諸郡ニアリトス

三、製造戸數及職工數

戸數	四百二十八戸
職工數	三千四百二十四人

四、製産狀況

本縣ニ於ケル醬油醸造業ハ清酒業ノ如クニ著シキ發達ヲ爲サス而シテ其販路ノ如キモ縣外ニ顧客少ナク縣外輸出トシテハ僅カニ年額十萬圓内外ニ過キスシテ他ハ皆縣内ノ需用ニ充テラル、カ如キ狀況ナルカ本品ハ所謂日用必需品ナルカ爲メ時局ニ際シテモ些ノ影響ヲ蒙ラス却テ自家用醬油税法實施ノ結果トシテ各營業者ハ何レモ造石高ヲ増加スルニ至リタリト云フ

五、原料ノ供給

本品ノ原料タル小麥及大豆ハ主トシテ縣下ノ産品ヲ使用シ來リシカ大豆ハ品不足ノ爲メ近來韓國産ヲ用非ルモノアルニ至レリ韓國産ハ内國産ニ比シ價格低廉乾燥良好ナルヲ以テ製造上頗ル便利ナリト云フ

六、相場

種類、品等、時期等ニヨリ差異アルヲ免レサレトモ三十八年中ニ於ケル平均一石ノ卸直段ハ十六圓位ナリシト云フ

七、販出品仕向先

内地ハ長崎、佐賀、鹿兒島ノ各縣及大阪、臺灣地方ヲ主トナス  
外國向ハ韓國ノミトス

八、輸出狀況

本縣産出ノ醬油ハ從來ニアリテハ其販路ヲ内地ニノミ有セシカ數年以前ニ於テ初メテ韓國ニ輸入試賣シタルヨリ爾來年々少許ノ輸出ヲ同國ニ見ルニ至レリ然ルニ時局發生以來本邦人ノ彼地ニ渡航スルモノ漸ク多キヲ加フルニ至リ次第ニ本品ノ輸入ヲ多カラシメ本縣産ノ如キモ一般ノ需用ニ伴レテ販路ヲ擴張スルニ至リ昨年ニ於テハ一萬圓以上ノ輸出ヲ見ルニ至リシト云フ

九、内地ニ於ケル商況

本品ハ日用必需品ナルヲ以テ時局ノ爲メ影響ヲ蒙ルコトナク却テ軍用醬油越幾斯ノ原料ニ供セラル、ニ至リタルト自家用醬油税法實施ノ結果等ニ依リ需用増加ノ一方ニテ商況活潑アリシカ昨年末ニ至リテモ矢張好況ナリシト云フ

十、改良スヘキ要點

原料ヲ精撰スルコト醸造法ヲ改良スルコト製造費ヲ節シ廉價ニ販賣スルコト及學理上ヨリ腐敗ヲ防クノ方法ヲ考究スルコト等ナリ

十一、事業ノ將來

自家用醬油税法ノ實施等ニ依リ一般需用者ヲ増加シタルニ依リ將來益々盛況ヲ見ルヘシ

一、産額(三十七年中)

數	量	二十三萬三千九十六樽
價	額	八十三萬七千九百九十圓

二、主要産地

遠賀郡黒崎町中央セメント株式會社分工場

福岡縣 工業品

三浦郡大川町九州セメント株式會社

門司市 淺野セメント株式會社分工場

三、種類別

急結性及緩結性ノ二種トス

四、職工數及馬力數

	職工數	馬力數
中 央	二二二二	四三、八
九 州	一一三	二〇〇、
淺 野	二二二	五九、
合 計	五六九	三二二、八

五、製産狀況

日露開戦以前ニアリテハ各會社共晝夜ヲ分タス機械ヲ運轉セシカ戦時ニ入り土木事業ノ多クハ繰延又ハ中止トナリタル爲メ本業ハ著シク打撃ヲ蒙リ需用減退ノ結果夜業ヲ中止スルノ止ムヲ得サルニ至リ一時頗ル沈衰ノ狀況ニアリシカ平和克復シ事業勃興スルニ至リ商況再ヒ活氣ヲ帶ヒ夜間操業ヲ復舊スルモノアルニ至レリト云フ

六、原料ノ供給

九州セメント株式會社ニアリテハ石灰石ハ肥後大草及大島産品ヲ用ヒ粘土ハ會社所有ノ筑後川床ヨリ採取シ敢テ原料ノ不足ヲ告クルコトナシト云フ

七、販出品仕向先

内地ニアリテハ縣下各炭坑、門司、下關、四國、佐世保、長崎、吳、東京、臺灣等ニ販路ヲ有シ海外ニテハ清韓兩國及

ニラ等ニ輸出シ來リシカ時局ノ爲メ輸出途絶シ昨年未迄ハ出荷セサリシカ如シ

八、販賣手續

内地ノ販賣ハ東京、吳、佐世保、長崎、博多等ノ各代理店若クハ特約店ノ手ヲ經テ一般需用者ニ販賣シ外國輸出ハ長崎及門司港ニ於ケル外國商人ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラレ韓國向ハ製産者直接ニ輸出ヲ爲セリト云フ

九、内地ニ於ケル商況

三十七年中ハ時局ノ爲メ官營工事ヲ始メ一般ノ土木事業縮少又ハ中止セラレタルニ依リ需用減退シ商況沈衰シテ振ハサリシカ平和克復ト共ニ人氣次第ニ引立ち今春來再ヒ活氣ヲ帶フルニ至リタリ

十、相場

品質時間及製産費等ノ關係ヨリシテ一定シ難シト雖モ三十八年中ニ於テハ一樽ノ直段ハ大抵三圓二十錢乃至五十錢ノ間ニアリシカ如シ

十一、事業ノ將來

内地ニ於ケル土木、橋梁等ノ建築工事ハ年々多キヲ加フルニ至リ本業ノ將來ハ秩序的發達ヲ見ルヘキ望アルニ特ニ戰後經營トシテ滿韓地方ニ土木工事ノ起工セラル、ニ至ラハ本品ノ需用ハ俄カニ激増シ當業者ハ之レカ爲メニ忙殺セラ

七、和 紙

一、産額(三十七年中)

數 量	價 額
十五萬五千九十三束	八十萬八千四百三十七圓

福岡縣 工業品



二、主要産地

八女郡、山門郡ヲ第一トシ朝倉郡、宗像郡之ニ次ク

三、製造戸數及職工數

戸數 一千三百七十七戸

職工數 五千五百八人

四、製産狀況

三十三年筑後紙同業組合ノ設立セラレテヨリ以來同組合ニ於テハ専ラ製品ノ改良ニ留意スルニ至リタル結果トシテ品質ノ改善大ニ見ルヘキモノアリ爾來大ニ販路ヲ擴メ其産額ハ年々秩序ノニ高進シ來リタルモ家内工業ノ特色トシテ規模何レモ少ナク操業方法亦舊套ヲ脱セサルカ爲メ製産費ヲ要スルコト多キハ本業ノ爲メ惜ム所ナリ

五、原料ノ供給

原料ハ楮皮ト藁トヲ用ヒ楮皮ハ組合内ノ産出寡少ナルヲ以テ毎年熊本、大分、兩縣下ヨリ供給ヲ受ケ其額全需用額ノ七分ヲ占ム而シテ藁ハ縣内農家ノ供給ヲ仰キテ品不足ヲ感スルコトナシト云フ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ佐賀、熊本、長崎、大阪、臺灣等ニシテ海外ニ於テハ清韓兩國ニ輸出セララル

七、輸出狀況

本品ノ種別ハ三十有余色ニ分レ其用途頗ル廣汎ニ涉レトモ其販路ハ主ニ内地ニ屬シ海外ニ輸出セララルモモノハ三十七年中東洋紙ノ清國ニ向テ約十八萬圓ヲ輸出シタル外其他ハ千代紙、和唐紙、梅形紙、上白紙等ノ清韓兩國ニ少許ノ輸出ヲ見ルノミ

八、販賣手續

海外輸出ニアリテハ組合直接ニ長崎港ニ於ケル清商ト現品取引ヲ行ヒ又ハ注文ニ應シテ出荷シ清商ノ手ヨリ同港ヲ經テ清國ニ輸出セララル内地向ニアリテハ一旦問屋ノ手ニ渡リ夫ヨリ各地ニ輸送セララルト云フ

九、内地ニ於ケル商況

本品ハ日常必需品ナルカ故ニ時局ノ爲メ甚シキ打撃ヲ蒙ルコトナク賣行少シク惡シク價額七八分乃至壹割方ノ下落ヲ見シモ平和克復後ニ至リ常態ニ復シタリト云フ而シテ東洋紙ノ如キハ清國ヨリノ注文増加セシ爲メ却テ盛況ナリシト云フ

十、改良スヘキ要點

本業ニ就キテ改良スヘキコト多シト雖モ就中焦眉ノ急ヲ要スヘキモノハ、第一器械殊ニ濾器ノ改良ヲ計ルコト、第二原料ノ精選ヲ爲スコト、第三織緯ノ離解調整ニ簡便ナル方法ヲ探ルコト、第四藥劑ノ配合ヲ研究シ紙料ノ漂白ヲ期スルコト等ナリトス

十一、事業ノ將來

東洋紙ノ如キハ克ク清國人ノ嗜好ニ投セルヲ以テ此信用ノ深厚ナルニ乘シテ販路ヲ擴張セハ將來有望ノ輸出品タルヘシ其他内地向ノ紙ニアリテモ一般ニ年々需用ヲ増加スルノ傾向アリテ産額年々高進シツ、アリ

八、西 洋 紙

一、産額(三十七年中)

數 量 九百廿四萬五千五百四十六封

價 額 六十九萬三千四百十六圓

福岡縣 工業品

二、主要産地

本品ハ専ラ千壽製紙株式會社ノ製産スル所ニ係ル

三、馬力及職工數

使用馬力

二百八十九馬力

職工

百八十人

四、製産狀況

千壽製紙會社ハ明治二十八年ノ創立ニ係リ創業以來新聞用紙及印刷紙ノ製産ニ從事シツ、アリ初メハ主トシテ内地ニ於ケル需用ヲ目的トセシカ數年以前ヨリ海外ニモ販路ヲ開キ現今海外ニ輸出セララル、本邦西洋紙中印刷紙ノ名アルモノハ大抵本社ノ製品ナルカ如シ本社ノ營業ハ年ヲ逐フテ繁昌シ特ニ戰時以來内地ニ於ケル新聞雜誌ノ印刷用紙トシテ需用ヲ激増シタル爲メ一層ノ景況ヲ添ヘ來リ現今尙各方面ヨリ注文シ來リ常ニ品不足ノ狀況ナリト云フ

五、原料ノ供給

本社製紙ノ原料ニハ主トシテ綿布ノ古切通稱縹縷ヲ用ヒ本縣及九州ノ一部四國、中國等ヨリ蒐集スルカ故取テ原料ノ不足ヲ感スルコトナシト云フ

六、輸出狀況

本社ノ製品ハ從來ニ於テハ内地向ヲ主トシタレトモ其海外ニ輸出セララル、モノハ一旦神戸、大阪、横濱等ノ商人ノ手ニ渡リ夫ヨリ輸出商ヲ經テ清、韓及香港等ニ輸出セララル、カ如シ

三十七年中韓國ニ輸出セラレタル印刷料紙ノ總計ハ數量十四萬七千五百八十一斤價額一萬五千六百六十二圓ニシテ清國ニ輸出セラレタルモノハ數量八十三萬六千六百八十八斤價額九萬七百三十圓、香港ヘハ二萬一千三百三十六斤二千二百

七、販出品仕向先

三十三圓ニシテ此内半ハ阿都製紙會社ノ製品ナルカ他ハ皆本社ノ製品ナルカ如シ

内地ニ於ケル販路ハ長崎、佐賀、熊本、大分等九州ノ一部及東京、京都、神戸、大阪等ナルカ此内神戸、大阪ニ仕向ケラル、モノハ一部ハ海外ニ輸出セラレテ清韓地方ニ仕向ケラル、モノナリ

八、内地ニ於ケル商況

戰時以來新聞雜誌ヲ初メ各種印刷物ノ好況ヲ現スモノアリテ印刷紙就中新聞紙ノ需用激増セシカハ内地製紙業者ハ孰レモ繁忙ヲ極メ終始注文ニ追ハル、ノ盛況ナリシカ戰争終局後モ商況依然活潑ナリシト云フ

九、花 蕙

一、産額(三十七年中)

數 量 七萬五千九十八本

價 額 二十七萬七千八百六十二圓

二、主要産地

三藩郡、八女郡、山門郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 四千八百二十二戸

職 工 六千七百二十二名

四、製産狀況

本縣ニ於テル花蕙業ハ大資本又ハ共同計算ノ下ニ大規模ノ裝置ヲ爲ス機械工業ニアラスシテ所謂農家ノ家内工業ニ屬

農業ノ餘暇ヲ以テ各戸ノ婦女子之レカ製織ニ從事スルモノニシテ別言スレハ製造家ノ委託製織トモ稱スヘキカ如シ然ルニ三十七年以來需用地ノ不況ニ際シ恰モ軍用以ノ需用激増シタルカ爲メ製織者ノ此方面ニ轉スルモノ多ク戰時中ニ於テハ著シク製産力ヲ減殺シタリト云フ

五、原料ノ供給

原料蘭草ハ製織者ノ植付ニ係リ斯業ノ消長ニ依リ植付段別ヲ異ニスト雖モ常ニ潤澤ニシテ逐年増加ノ傾向アリ而シテ毎年殆ント剩餘ヲ生シ三備地方ニ輸送スルモノ其額三萬貫以上ニ及フ

六、製造費及損益比較

時季及相場ノ高低ニ依リ多少ノ差異アルヲ免カレサレトモ三十七年中ニ於ケル花莖一本ニ對スル製産費及收益ノ割合ハ大約左ノ如シ

蘭草代	經糸代	染代	織代	賃	計	賣上價格
一、五〇	八五	二〇	一、〇〇	三五五	三、七〇	
差引純益						二五

七、相場

三十七年中ニ於ケル花莖一本ノ平均相場ハ三四七十錢トス

八、販賣手續

製造家ニ於テ製織シタル花莖ハ一旦仲買人ノ手ニ渡リ仲買人ハ更ニ之ヲ賣込商ニ賣渡シ賣込商ハ同業組合ノ検査ヲ受ケテヲ神戸ニ送り花莖検査所ニテ検査セラレタル後外商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラル

九、販出品仕向先

主トシテ北米合衆國

十、内地ニ於ケル商況

三十七年中ハ兩三年以來ノ好況ニ伴ヒ需用地ノ情況需用供給ノ均衡ヲ失シ製品市場ニ堆積シタルト一方ニ於テハ米國關稅ノ増率アリタル爲メ輸出抄々シカラス内國市場モ殆ント活氣ナカリシカ年末ニ至リ多少ノ好況ヲ見ハシ來レリ

十一、改良スヘキ要點及改良方法

花莖ニ就テハ改良ヲ要スヘキ點多シト雖モ就中焦眉ノ急ヲ要スヘキモノハ染色及耳組并ニ意匠ノ三點ニアリトス殊ニ意匠ハ流行ヲ追ヒ新奇ヲ競フ米國向トシテ尤モ注意スヘキモノナリトス本縣ニ於テハ斯業ノ改善ヲ期スル爲メ同業組合ニ對シ去ル三十四年以來毎年縣費一千圓ツ、ヲ補助シ來リシカ組合ニ於テハ花莖攻習所ヲ設置シ徒弟ヲ收容シ製織、染色、意匠ヲ攻究セシメ而シテ製織用原料タル蘭草ノ染色ニ於テハ組合ノ專屬タル染工場并ニ染色ニ經驗アル製織業者ニ命シテ之ヲ爲サシメ以テ製織原料ノ統一、製品ノ一定ヲ期セントスルニ勉メツ、アリ

十、生糸

一、産額(三十七年)

數	量
價	額
	五千八百六貫
	二十六萬四千二百五十三圓

二、主要産地

糸島郡、筑紫郡、宗像郡、京都郡、山門郡

三、製造戸數及職工數、使用馬力

器械製糸

福岡縣 工業品

工場 八

職工 二二一八

使用馬力 二十四馬力六

座繰製糸 七千九百四十八戸

職工 不詳

四、製産状況

本縣ニ於テハ製糸業ハ他ノ工業ノ如クニ發達シ居ラス器械製糸ヲ製出スルノ工場ハ僅カニ八箇所ニシテ其規模何レモ大ナラス而シテ其他ハ多ク座繰器械ニ依リテ産出セラレ製糸業者ノ多クハ農家ノ兼營ニ屬スル家内工業ニシテ年々秩序的ニ發達ヲ爲セトモ其進歩ノ度極メテ遅々タルヲ見ル

五、原料ノ供給

原料繭ハ主トシテ縣下産品ヲ以テ之ニ充ツレトモ産繭ノ一部ハ縣外ニ輸出セラルレハ勢ヒ品不足トナリ製糸業者ハ熊本、大分、佐賀、廣島、山口等ヨリ輸入シテ之レカ填補ヲナスト云フ

六、主ナル製産者

太宰府製糸株式會社 (筑紫郡)

鎮西製糸株式會社 (同)

長島製糸場 (糸島郡)

藤崎製糸場 (同)

柳河蟹糸業傳習所 (山門郡)

宗像製糸場 (宗像郡)

三石社製糸場 (京都郡)

七、販出品仕向先

外國ニアリテハ米國、佛國

内地ニアリテハ福井、京都

八、輸出状況

三十七年中ハ戰時中ニ不拘横濱表ニ於ケル市況ハ常ニ活潑ニシテ入荷アレハ直ニ開放タレ市場ニ堆貨ヲ見ルコト稀ニシテ近年未曾有ノ盛況ヲ呈シ本縣産ノ如キモ其輸出額前年ニ比シ二割以上ノ増出ヲナシタルモ唯惜ムラクハ價格常ニ低位ニアリシ

九、販賣手續

外國向輸出品ニアリテハ製産者直接ニ横濱港ノ仲買商人ニ賣渡シ夫ヨリ輸出商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出シ内地販賣ニアリテハ一旦横濱表ニ至リ夫ヨリ京都、福井ノ機業地ニ回送スルカ或ハ直接ニ福井、京都ノ製織業者ト取引ヲ結ヒテ荷物ヲ發送スト云フ

十一、鐵製品

一、産額(三十七年調)

數量	四十四萬六千八十二個
價額	十五萬七千八十圓

福岡縣 工業品

二、種別

鑄物、刃物、農具等

三、主要産地

福岡市、朝倉郡、浮羽郡、三潯郡、八女郡、小倉市ノ二市四郡トス

四、製造戸數及職工數、使用馬力

器械工業ニ屬スルモノ

工場

五

職工

一二五八

使用馬力

十四馬力

家内工業的組織ノモノ

戸數

四百九十八戸

職工

七百十三人

五、製産狀況

鑄物工場五箇所ハ福岡市ニアリテ主トシテ鍋釜類ヲ鑄造シ其他ハ小倉市及郡部ニアリテ何レモ農具タル鋤、鍬、類ヲ製出ス鍋釜及農具共ニ年々販路ヲ擴張シ事業漸次ニ盛大ニ赴キツ、アリ

六、原料ノ供給

原料鐵ハ輸入品タル英國産ヲ用ユ

七、販出品仕向先

内地ニアリテハ長崎、佐賀、山口ノ諸縣下ニ販送シ外國ニ於テハ清韓兩國ニ販路ヲ有ス

八、輸出狀況

本縣産ノ鍋釜ハ大半輸出ヲ爲スモノニシテ初メテ清韓地方ニ販路ヲ開キタルハ遠キ以前ニ屬シ爾來漸次其販路ヲ擴張シ現今本縣産品ハ韓國全部ニ普及スルニ至リタレハ彼地ニ於ケル農業ノ發達進歩スルニ從ヒ本品ノ前途ハ極メテ有望ナルヘシ

九、内地ニ於ケル商況

時局ノ爲メ一般商況ノ不振ニ陥リタル際ニ於テモ本品ニアリテハ鍋釜ノ類ハ韓國ニ販路ヲ擴メ農具ハ一般農家ノ必需品トルカ爲メニ何レモ些ノ影響ヲ蒙ルコトナク却テ益々好況ナリシカ如シ

(ロ) 將來ノ輸出工産品

本縣下産出ノ工産品ニシテ現ニ海外ニ販路ヲ有セスト雖モ將來輸出ノ見込アルモノハ左ノ三種ニシテ以下順次各種ノ製産狀況等ニ就テ之ヲ述フヘシ

一、砂 糖

二、玩 具

三、陶磁器

一、砂糖

三十一

一、産額(三十七年中)

數量 千三百二十七萬八千九百九十八斤  
價額 百十三萬四千七百九十三圓

二、主要産地

精糖ハ企救郡大里製糖所ノ産ニシテ朝倉、浮羽、八女ノ諸郡ヨリハ粗悪ナル砂糖ヲ産出ス

三、製造戸數及職工數、使用馬力

工場	一
職工	一五〇人
使用馬力	千二百馬力
機械工業	
家内工業	
戸數	千六百九十六戸
職工	二千五百九十五人

四、製産狀況

本品ノ大部分ハ大里精糖所ノ産ニシテ製糖所ハ神戸市合名會社鈴木商店ノ工場ニ屬シ三十七年ノ創立ニ係リ當時尙創業ノ際ナレトモ一日當ク百噸以上ノ製産力ヲ有セシカ開クカ如クンハ同商店ハ最近十數日以前ニ於テ元資本金五十萬圓ヲ三百萬圓ニ増資スル爲メ既ニ二百萬圓ノ拂込ヲ爲シタリト云フ家内工業ニ屬スルモノハ所謂農家ノ副業トモ稱ス

ベク水車ノ力ヲ藉リテ操業シツ、アルモ品質粗悪ニシテ製産ニ多額ノ費用ヲ要シ常ニ製糖所製品ノ爲メニ壓迫セラレ、ノ傾キアリト云フ

五、原料ノ供給

大里製糖所ハ其原料ヲ臺灣及外國粗糖ニ取り家内工業ニ屬スルモノハ各自耕作ノ甘蔗ヲ以テ之ニ充ツ

六、販路及販賣方法

關西及九州各縣ハ現今ニ於ケル製糖所製品ノ主ナル販路ナレトモ將來事業擴張ノ曉ハ韓國方面ニモ輸出スル見込ナリト云フ製糖所製品ノ販賣方法ハ市場ノ狀況ヲ見テ商人ヲ集メ競争入札ヲ以テ販賣スルニアリ

七、内地ニ於ケル商況

本品ノ販路ハ内地ニアレトモ價格輸入糖ヨリ廉ナルガ故ニ販路擴張シ易ク賣行好況ナリト云フ

二、博多人形

一、産額(三十七年中)

數量 十四萬個  
價額 二萬八千圓

二、主要産地

福岡市

三、製造戸數及職工數

戸數	二十三戸
職工	百九人
福岡縣	工産品

三十七

四、種別

歴史、教育、風俗ニ關スル人形ヲ主トシ動物類等モ製産ス

五、相場

普通七八錢ニシテ特種意匠ヲ要シタルモノハ七八十錢ヨリ三四圓迄トス

六、主ナル製産者

井上清助、白水六三郎、後藤源太郎、中子吉三郎

七、事業ノ將來

歴史及教育ニ關スル人形類ハ玩具カ一般世人ノ注意ヲ惹起スルニ至リシ以來大ニ諸方ノ好評ヲ得年々販路ヲ擴メツ、アリ殊ニ本品カ聖路易博覽會ニ於テ銀牌ヲ受ケタルト近來神戸居留外人カ寫眞ヲ添付シテ屢注文ヲ發シ來ルニ至リタルトハ尤モ注意スヘキ事項ニシテ外人ノ嗜好ニ投スヘキ意匠ヲ研究シテ製産ニ從事セハ蓋シ海外ニモ販路ヲ開拓シ得ヘキカ如シ

八、長所及缺點

長所ハ彩色ノ美麗ナルト巧ニ事物ノ實象ヲ模擬スルニアリ然レトモ意匠着色ニ就テハ尙充分ノ考案ヲ要スヘキカ如シ殊ニ本品ハ其質脆弱ニシテ破損シ易ク運搬上頗ル困難ナルハ本品ノ爲メ惜ム所ナリ

三、陶磁器 (高取燒)

一、産額 (三十七年中)

數量	二十五萬個
價額	一萬五千圓

二、種別

日用品、裝飾品

三、主産地

早良郡西新町

四、製造戸數及職工數

戸數	三戸
職工數	十八人

五、製産狀況

産地ノ製品ハ元ト陶器ヲ以テ主トセシカ現時ニアリテハ磁器ノ製産ヲ以テ主トスルニ至レリ而シテ日用品トシテヨリハ寧ロ美術的裝飾品トシテ發達シ其意匠ハ麗麗華美ト云ハンヨリハ幽趣雅致トモ稱スヘク外國向トシテヨリハ内地向トシテ適切ナルカ如シ

唯惜ムラクハ産額ノ多ラサルト日用品トシテハ價格ノ比較的廉ナル爲メ從來ニ於テハ販路少ク其名有名ナラザリシモ技術ノ程度ハ相當進歩シ居レハ意匠ニ改良ヲ加ヘ廉價ニ製産セハ販路ヲ海外ニ得ルコト蓋シ難キニアラサルヘシ

六、原料ノ供給

原料粘土ハ製産地産出ノモノヲ使用シ若クハ隣郡ヨリ購買シ來リ收テ供給不足ヲ感スルコトナシ

七、販出額

内 國 向	一萬五百圓
外 國 向	四千五百圓

福岡縣 工産品

(但手々輸出スルニアラス)

八、相場

日用品ハ平均十五錢位ニシテ裝飾品ハ平均一圓五十錢位トス

九、販出品仕向先

内地ニアリテハ神戸、長崎、熊本等ニ販路ヲ有ス海外ニアリテハ時々米國ニ向テ少許ノ輸出ヲ爲スカ如シ

十、本業ノ沿革

高取焼ハ其由來スル所古ク豊太閤征韓ノ役同國ノ陶工ヲ携ヘ來リ之レヲ黒田長政ニ託セラレ筑前國早良郡西新町皿山ノ粘土陶工ニ適スルヲ發見シ同地ニ於テ起工シタルヲ始メトシ爾來同地ハ本器ノ製産地トナリ年所ヲ經ルニ從ヒ精巧大ニ進ミ今日ノ製品ヲ得ルニ至レリ

(ハ) 重要工産品

前記工産品ノ外尙ホ現ニ内國ニノミ販路ヲ有スルモノニシテ年産額十萬圓以上ニ達シ縣下ニ於ケル重要工産品ト認ムヘキモノハ左ノ八種ニシテ以下順次製産狀況等ニ就キ之レカ概畧ヲ述フヘシ

- 一、茶種子油、菜種子油粕
- 二、瓦
- 三、疊表及莢藤類

- 四、諸機械
- 五、絹織物
- 六、和傘
- 七、煉瓦
- 八、蠟燭

一、茶種子油、菜種子油粕

一、産額(三十七年中)

油		粕	
數	價	數	價
量	額	量	額
二萬一千三百六十七石			
五十五萬六千九十二圓			
百四十三萬七千八百石			
		三十萬二千三百六十五圓	

二、産地

福岡市、粕屋、朝倉、筑紫、浮羽、三潞、三井、山門ノ諸郡

三、製造戸數及職工數

機械工業

工場

一

職工

三六八

福岡縣 工産品



使用馬力 十六馬力

家内工業

戸數 五百三十一戸

職工 七百八人

四、販路

大阪、廣島、愛媛、山口、長崎、佐賀、大分、熊本ノ各府縣下

五、製産狀況

原料菜種ハ縣下殊ニ筑紫、粕屋ノ二郡尤モ産額多ク從テ本業モ亦當地方ニ盛ナレトモ尤モ産額多キモノハ福岡市太田兄弟商店ノ製油工場ニシテ同工場ハ一日菜種子二百石ヲ使用シ菜種子油約五十石ヲ製産ス而シテ菜種子油ヲ原料トスル白絞油ノ製精力ハ一日四十石ナリト云フ

二、瓦

一、産額(三十七年中)

數 量 二千四百七十九萬四千七百八十一枚

價 額 二十三萬五千五百九十六圓

二、產地

鞍手、嘉穂、三潞、山門、田川、宗像ノ諸郡

三、製造戸數及職工數

戸數 四百五十二戸

職工 千六百十人

四、販路

佐賀、熊本、長崎、大分、鹿兒島、山口

五、製産狀況

本業モ亦家内工業ニ屬シ大組織ノモノナシト雖モ年々秩序的ニ販路ヲ擴メ産額ヲ増加シ居レルカ特ニ記スヘキモノハ近年韓國ニ向テ少許ノ輸出ヲ爲スニ至リタルノ一事ナリ

三、疊表及莫産

一、産額(三十七年中)

數 量 百五十二萬五千四百五枚

價 額 二十二萬八千七百五十圓

二、產地

朝倉、三形、八女、山門、三池、築上ノ諸郡

三、製造戸數

八千四百四十戸

四、販路

大阪、東京、愛知及九州各縣

五、製産狀況

家内工業ニ屬シ農家婦女ノ副業トス輸出花蕙ノ盛況ヲ呈スルトキハ本品ノ産額ハ自然ニ減少シ反之花蕙ノ不況ナル

トキハ本業ハ盛況ヲ呈スルノ傾アリ

#### 四、諸機械

一、産額(三十七年中)

價額 二十一萬千五百七十八圓

二、産地

福岡市、遠賀、嘉穂、筑紫、三形、門司市ノ二市四郡

三、工場數及職工數

工場 二十二箇所

職工 六百六十五人

四、販路

筑豊各郡ニ於ケル炭坑ヲ主トス

五、製産狀況

本業ハ筑豊各郡ニ於ケル鑛業ノ發達ニ促サレテ自然ニ起リタルモノニシテ大ナルモノハ百八十余名ノ職工ヲ使役シ小ナルモノト雖モ三十名以上ヲ使用シテ盛ニ鑛業用諸機械ノ製作ニ從事シ居レリ本業ハ筑豊鑛業ノ盛衰ト運命ヲ共ニスハキモノニシテ本縣ニ於ケル鑛業ノ發達進歩ト共ニ益々昌盛ニ趣キツ、アリ

#### 五、絹織物 (博多織)

一、産額(三十七年中)

價額 十九萬三千五百七十九圓

二、種別

帯地、袴地、着尺地ヲ主トシ袋物其他種々ノ小形物ヲ製織ス

三、産地

福岡市、筑紫郡

四、製造戸數及職工數

戸數 百五十七戸

職工 四百八十八人

五、主ナル製織業者

松居 元右衛門 河原田 徳平 吉田 芳太郎 都築 源兵衛

六、販路

京阪地方ヲ主ナル華客トシ其他各縣下ハ少量ツ、ノ販出アリ

七、製産狀況

本業ハ何レモ規模小ナル家内工業ニ屬シ製織、染色ノ如キハ舊套ヲ固守シテ改ムルコトナケレハ八王子、京都ノ織物ニ比シ遙カニ遜色ヲ生シ販路ヲ蠶食セラレツ、アリト云フ尙其特色トスル地質ノ堅牢ハ袴地ノ如キニアリテハ摩擦ノ爲メ折目ヨリ破ル、ノ批難アリテ充分ニ改善ヲ加フルニアラスンハ將來ノ發達困難ナルカ如シ

#### 六、和傘

一、産額(三十七年中)

數 九十一萬七百七十四斤

福岡縣 工產品

價 格

二、產地 福岡市、久留米市、筑紫郡、三浦郡、八女郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 三百二十八戸

職 工 七百八十九人

四、販路

佐賀、長崎、岡山、廣島ノ各縣下

五、製産狀況

本業ハ主トシテ家内工業ニ屬シ大組織ノモノナシト雖モ獨リ久留米市赤松合資會社ハ規模稍大ナル工場組織ヲナシ資本金一萬圓職工七十四人ヲ使役シテ製産ニ從事シツ、アリ三十七年中ニ於ケル同社ノ産額ハ數量五萬二千二百五十五本價額一萬三千六圓ナリシト云フ

七、煉 瓦

一、産額(三十七年中)

數 量 六百五十六萬五千九百枚

價 額 十四萬六千七百六十二圓

二、產地

柏屋、遠賀、鞍手、嘉穂、三井、三池、田川ノ諸郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 二十二戸

職 工 百五十三人

四、販路

筑豊各郡ニ於ケル炭坑及諸工場

五、製産狀況

主ニ家内工業トシテ營マレ大組織ノモノナシト雖モ獨リ遠賀郡戸畑町川代工場ハ耐火煉瓦ノ製産ニ從事シ蒸氣原動力ヲ有シ職工三十九人ヲ使役シ三十七年中ニ於テハ數量七十二萬枚價額二萬八千八百圓ヲ製産シタリト云フ本業ハ縣下ニ於ケル蠟業及工業ノ盛況ニ伴ヒ益々發達スヘキモノニシテ前途好望ナルカ如シ

八、蠟 燭

一、産額(三十七年中)

數 量 八萬八千二百七十九貫

價 額 十三萬二千五十七圓

二、產地

福岡市、久留米市、宗像郡、嘉穂郡、朝倉郡、浮羽郡、糸島郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 九十七戸

職 工 三百四十八人

福岡縣 工 産 品

四、販路

大阪、廣島、長崎、岡山、大分、佐賀、山口、熊本ノ各府縣下

五、製産狀況

家内工事にシテ營マレ大組織ノモノナシ本業ハ木蠟ノ製産盛ナルヲ以テ平素原料ニ於テハ不足ヲ感スルコトナシト雖モ一旦海外木蠟相場ノ騰貴スルアレハ本品ハ之レカ爲メニ製産ヲ減スルノ傾キアリト云フ

長崎縣

(一) 産業概説

本縣ニ於ケル産業状態ハ長崎港ノ海港貿易ト相待ツテ比較的發展ノ状態ニアルカ如シト雖モ是レ皮想ノ觀察ニシテ其商業區域ハ概カニ長崎港ノ一部ニ止マリ縣下ヲ通觀スレハ依然農業地漁業地トシテ觀ルノ外他ノ工業ニ於テハ晨星落落々タルノ感ナキ能ハス蓋シ商業發達ノ機運ハ海陸交通機關ノ完備之レカ急先鋒タルニモ拘ラス縣ノ地位タル九州ノ西陲ニ偏シ巍峨タル山岳起伏シテ自然ニ交通ヲ閉塞シ單ニ九鐵ノ一線縣内ヲ貫通セルト僅ニ沿海航運ノ便ヲ有スルニ過キスレテ其山部ニ屬スル地方ハ營々農耕ヲ是レ事トシ其海岸ニ屬スル地方ハ漁村點綴シテ沿岸漁業ヲ營ミ以テ生計ヲ維持シツ、アルノ状態ナリトス而シテ長崎港ノ外佐世保市ハ軍港トシテ商工業上多少ノ活動ヲ見ツ、アリト雖モ是又軍事上ノ需供的機關タルニ過キス

而シテ長崎港ニ於ケル商業的關係ハ單ニ各國船舶ノ寄港地トシテ認識シ得ルノミ即チ同港ニ於ケル貿易商業ハ到底横、神二港ニ比シ遠ク及ハサルモノアリ是レ未タ交通機關ノ設備完カラサルカタメ本州ト九州内地トノ連絡滑カナラサルト九州各縣ニ於ケル生産業ノ發達遲々トシテ之カ生産分配ノ道未タ圓熟ナラサルトニ基因スルハ既ニ識者ノ唱道スル所ナリトス然レトモ將來海陸交通機關ノ發達ト俱ニ九州内地ノ生産漸次發展ヲ見ルノ晚ニ於テハ長崎港ノ機運ハ轉一轉シ呼應對岸ノ大陸タル滿洲西比利亞ヲ始メ支那朝鮮等ノ諸邦ニ對シ輸出貿易ノ發達ヲ見ルヘキ時機亦決シテ遠遠ニアラサルベキヲ信ス殊ニ同港ハ地形上由來露西亞、西比利亞トノ通商極メテ密接ニシテ其輸出品中ニハ對露貿易品多ク明治三十七、八兩年ニ於ケル日露戰爭ハ此貿易商業ニ大打撃ヲ與ヘタリ若シ兩國ノ戰爭ニシテ數年ニ沙ルニ於テハ同港ノ生産界

ハ不可測ノ悲境ニ沈淪セシナラン幸ニシテ干戈收マリ商工業ノ狀態平時ニ復シタルヲ以テ目下再ヒ取引ヲ開始シ漸次其歩武ヲ進ムルノ狀況ニ至レルハ本縣ノ爲メ甚タ慶スヘキコトナリト信ス  
今本縣統計ノ示ス所ニ依リ縣下生産力ノ狀態ヲ窺知セントス

長崎縣ノ生産

農産	一千四百五十一萬圓
水産	四百十二萬二千圓
工業	三百五十萬圓
鑛産	百四十一萬五千圓
林産	五十二萬五千圓
畜産	四十四萬五千圓
合計	二千四百五十一萬七千圓

以上ニ依レハ本縣ニ於ケル農業上ノ收利ハ全生産額ノ二分ノ一強ニ當リ一縣經濟上ノ基礎ハ農産ノ收利ニ須クサル可ク  
ス其生産ノ主要ナルモノハ米、麥、甘藷、大豆等ニシテ特殊ノ農産物トシテハ柑橘類ヲ産シ又養蠶ハ前一年ノ産額十  
三萬八千餘圓ニシテ近時本縣ニ於テハ天然風穴ヲ利用シ秋蠶種ノ製造ヲ行ヒ漸次其需要ヲ増加スルノ趨勢ニ趨ケリ農業  
ニ亞クモノ水産ニシテ本縣ニ於ケル水産上ノ地位タル其沿岸線殆ント六百餘哩ニ涉リ大小ノ島嶼甚布星列シテ而カモ能  
ク潮流ノ緩和ヲ得各種ノ魚族或ハ回游シ或ハ常住ヲ爲スモノアリ殊ニ對馬、五島、北松浦、西彼杵ノ各地ハ水産ノ主腦  
地トシテ鳥賊、鱒、鯖ヲ主トシ其他鰯、鯛、鯉及捕鯨事業亦盛ニ行ハル製品ハ概ネ海外ニ輸出シ其重ナルモノハ鰯、乾  
鮑、海參、鱈等ニシテ是等ハ大抵清國內地ノ需用ニ供セラル殊ニ鮑ハ清國人ノ所謂東海ノ海味トシテ費用セラレ其需

要頗ル多ク販路益々増加スルノ狀況ニ在リ又水産品トシテ本縣ノ特有物産ハ珊瑚、臘子、真珠貝及鮑殼等ニシテ珊瑚ハ  
一ケ年ノ産額三十萬圓ニ達シ海外輸出品トシテ其需要最多ク真珠貝、鮑殼ハ神戸商人ノ手ヲ經テ歐米各國ニ輸出シ主ト  
シテ裝飾用ニ供セラレ前途頗ル好望ヲ以テ迎ヘラル、ノ狀況ナリトス要スルニ本縣ノ水産ハ現時ニ於テハ僅々四百十二  
萬圓内外ニ過キササルモ將來漁業法ノ發達ト共ニ其生産ノ増加ヲ見ルノミナラス之ト同時ニ其製品ハ海外輸出品トシテ重  
要ノ地歩ヲ占ムルノ機運ヲ見ルヘキヲ信ス而シテ目下水産組合聯合會ハ検査規定ヲ設ケ輸出品及荷造ノ検査ヲ行ヒ又  
縣水産試驗場ニ於テハ専ラ漁撈、製造、養殖ノ試験ヲ爲シ若々其改良ヲ企圖シツ、アリ本縣漁業ノ將來ハ最も多望ノ域  
ニアルモノト言フヘシ

本縣ノ林産ハ生産額値ニ五十二萬五千圓内外ニシテ其生産ノ主ナルモノハ松、杉材等ニシテ亦副産物トシテハ樟腦、椎  
茸、木炭、竹材等ノ産出勘カラス就中椎茸、木炭ノ二種ハ直接支那ニ輸出シ竹材ハ神戸ヲ經テ歐米ニ輸出セララル現下官  
民俱ニ造林ノ必要ヲ認メ實際的經營ニ着手シツ、アルヲ以テ逐年林業ノ發達ヲ見ル可キヲ信ス  
鑛産ハ石炭ノ生産額一ケ年約百三十六萬圓金銀ノ生産額約五萬五千圓ニシテ鑛業ノ現時及將來ニ就テハ有望ナリト斷言  
スルヲ得ス

本縣ノ畜産ハ高原馬ノ名聲古來ヨリ頗ル著名ニシテ目下産牛馬組合ニ對シ縣費ノ補助ヲ與ヘ奥州産馬ヲ購入シテ改良繁  
殖ヲ謀リ近來ニ至リ逐次其面目ヲ改ムルニ至レリ又近年ノ事業トシテ縣下南高來郡島原恒産會社率先シテ牧羊業ヲ開始  
シ鑛ニ本省ヨリ綿羊三十頭ノ下附ヲ得テ之ヲ放牧シ爾來年々蕃殖ヲ見ルニ至リ三十四年ニハ三百四十五、六年ニハ各  
五百頭三十七年ニハ九百六十六頭ノ生産ヲ見其剪毛ハ每年春秋二期ニ於テ之ヲ採収シ既ニ三十七年ニ於テハ三千三百八  
十一封ノ生産ヲ見ルニ至リ之ヲ東京千住製絨所ニ輸送シテ羅紗織ノ原料ニ供用セリ本業ハ將來最好望ノ事業トシテ漸次  
其發展ヲ見ルヘキヲ信ス

本縣ノ工業ハ前段ニ續述セルカ如ク長崎市以外殆ント觀ル可キモノナキノ状態ニアリ然レトモ其工産品中亦大ニ望ヲ屬スルニ足ルモノアリ今各品ニ付其概況ヲ述ルニ先チ其生産ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

長崎縣工産品

酒類	百八十萬圓
製粉	七十三萬七千圓
醬油	二十六萬七千三百四十圓
骨粉	十五萬六千圓
木蠟	十二萬五千圓
陶磁器	十萬六千七百八十圓
茶	九萬二千九百圓
蠶糸	九萬九千九百圓
織物	七萬七千五百九十九圓
縫甲細工	八萬五千圓
洋傘	七萬六千圓
刺繡	七萬三千圓
砂糖	七萬九百五十二圓
漆器	六萬六千圓
和紙	五萬八千六十三圓

素麵	五萬八千圓
石鹼	三萬九千八百圓
油類	三萬四千九百九十四圓
麥稈真田及製品	一萬七千圓
合計	四百三萬二千五百二十八圓

以上ノ外鐵器、摺附木、疊表及吳蓆、革類、硝子器ノ數種ハ其産額一萬圓内外ナルヲ以テ爰ニ特記セス  
 以上工産品中酒類、醬油、油類ノ各生産品ハ純然タル縣内消費品ニ屬シ殊ニ清酒、醬油ノ如キハ尙ホ且ツ輸入ヲ仰クノ  
 狀況ニアリ骨粉、陶磁器、織物、和紙、素麵、石鹼、砂糖、洋傘ノ各種ハ縣外ニ輸出スルモ多クハ内國ノ需要ニ供セラ  
 ル、ニ過キス製粉、木蠟、茶、生糸、縫甲細工、刺繡、漆器ノ七種ハ或ハ内國需要ニ或ハ外國輸出ノモノニ係レリ其他  
 鐵器、摺附木、疊表及吳蓆類、革類、硝子器等ノ生産アリト雖其産額僅少ニシテ孰レモ内國的需要品ニ止マリ數フルニ  
 足ラス今重ナル海外輸出品及重要工産品ニ付概説スレハ製粉ハ縣下長崎市及其他ノ各郡ニ於テ生産シ郡部ニ於ケルモノ  
 ハ其規模小ニシテ見ルニ足ラスト雖モ獨リ長崎市ニ於ケル麥粉株式會社ハ器械力ヲ用ヒ其ノ製産昨三十八年ノ如キ二十  
 八萬六千圓ノ多額ニ上レリ又外國輸出額ハ一ヶ年約十七萬圓内外ニシテ之レカ需要地ハ清韓及浦港方面ヲ最トス本事業  
 ノ將來ハ益々發展ノ趨勢ニ向ヒツ、アリ木蠟ハ縣下各郡ニ産シ重ニ農家ノ副業トシテ操業スルニ過キス從テ品質不良他  
 ノ各縣ニ比シ遜色アルヲ免レスト雖モ將來改良ヲ加フルニ於テハ有望ノ一生産品タルヲ疑ハス茶ハ綠茶、紅茶、番茶、磚  
 茶ノ各種ヲ産シ生産額九萬圓内外ニシテ外國輸出ニ係ルモノ殆ント半ヲ占ム仕向先ハ主ニ米國ニシテ亦紅茶、磚茶ハ西  
 比利亞地方ノ貿易品トシテ漸次輸出増加ノ傾向アリ蠶糸ハ一ヶ年ノ生産額九萬圓以上ニ達セルモ事業微々トシテ振ハス  
 而シテ其ノ生産品ノ大部分ハ外國ノ需要ニ供セラル、モ幾分ハ博多織原料トシテ内地へ輸送セラル縫甲細工ハ本縣ノ特

有物産ニシテ原料ハ濠州、新嘉坡地方ヨリ輸入セラレ其製品ハ露國人及長崎寄港ノ諸外國人ニ需要セラレ又汎ク内國ニ普及セリ生産額一ヶ年八萬圓内外ニシテ本縣唯一ノ工藝品トシテ將來多少望ヲ囑スルニ足ル刺繡ハ原料ノ絹地ハ皆桐生足利及京都地方ヨリ輸入セラレ本縣ニ於テハ單ニ技術上ノ操業ヲ爲スニ過キス需要ハ長崎來港諸外國人ノ需要ニ供シ亦上海地方ニ於ケル在留外國人ニ嗜好セラレ年々其輸出ヲ見ルニ至レリ本品ハ長崎市特有物産トシテ將來需用ヲ増加スルノ見込ヲ有セリ漆器ハ其産額總力ニ六萬圓内外ニシテ本縣ニ於ケル歴史的生産品トシテ一時盛況ヲ極メタリシカ爾來其需要ハ一般ノ嗜好ニ伴ハサルカタメ漸次衰勢ニ向ヒ殆ント事業中廢ニ歸スルノ状態ニ陥リシカ近來再ヒ之レカ勃興ヲ見ルニ至リ輸出亦増加スルノ傾向ヲ來セリ縣外輸出品中骨粉ハ九州肥料株式會社ノ生産ニ係リ其原料ハ支那上海天津地方ヨリ輸入シ器械力ヲ利用シテ製産セリ前途頗ル好望ノモノニ屬セリ陶磁器ハ縣下古來ヨリノ生産品ニシテ豊公征韓ノ役ニ平戸藩主朝鮮人ヲ伴ヒ來リ之ヲ平戸ニ住セシメ製産セシメタルヲ噐矢トシ爲メニ高麗燒ノ稱アリ販路ハ重ニ内地ニシテ神戸大阪ヲ經テ朝鮮浦鹽地方へ輸出セリ近來其製造法ニ改良ヲ加ヘ漸次發展ノ狀況ニアリ織物ハ絹物ニ於テハ傘地ヲ主トシ其他羽二重、縮緬地等ヲ製産シ綿布ハ輸出白木綿ヲ生産スルノ目的ヲ以テ去明治三十年來輸出木綿傳習所ノ設立ヲ見年々縣費ノ補助ヲ興ヘ目下其數七ヶ所ニ達シ漸次生徒ノ養成ニ努メツ、アリ絹、綿織物ノ販路ハ重ニ九州各縣ニシテ本業ノ將來ハ未タ有望ト言フ能ハス和紙ハ其原料重ニ楮皮ヲ用ヒ又三種、七島間、雁皮等ヲ使用セリ製紙ノ種類ハ多ク内地需要ノモノニシテ又東洋紙(清國輸出口)ヲ製出セリ其産額一ヶ年五萬八千圓内外ナリトス素麵ハ縣下南高來郡ノ物産ニシテ原料ハ本縣下生産ノ小麦ヲ用ヒ目下六萬圓内外ノ産出ニシテ需用ハ漸クニ縣内ニ於テ消費スルニ過キス砂糖ハ古來ヨリ縣下各地ニ於テ生産シ農家ノ副業トシテ製造シツ、アルニ過キス而シテ洋糖ノ輸入以來漸次糖價下落シ近來頗ル不況ノ状態ニアリ其原料ハ主トシテ縣下生産ノ甘蔗ヲ用ヒ製法ハ總テ在來式ニ因レリ其製品ハ縣内ノ消費ニ係リ事業微々トシテ振ハサルノ状態ニアリ

(二) 工 産 品

(イ) 輸 出 工 産 品

以上ハ本縣ニ於ケル生産業ノ梗概ニシテ長崎縣ニ於ケル商業發達ノ機運トシテ今ヤ港灣改修工事成ルヲ告ケ且九州及本土トノ運輸交通ハ漸次改善ヲ見ルニ至リ更ニ諸外國ニ對スル航路擴張著シク其歩武ヲ進メ口ナラスシテ海陸兩運輸機關ノ連絡ヲ完カラシメントス此際ニ於ケル本縣ノ前途ハ商工業ノ發達ト相須ツテ頗ル有望ノモノタルヘキヲ信ス

本縣産出ニ係ル工産品ニシテ年産額五萬圓以上ニ達シ現ニ海外ニ販路ヲ有スルモノハ左ノ七種ニシテ以下各品目ニ就キ製産狀況及販路等ヲ叙述スヘシ

- 一、製 粉
- 二、木 蠟
- 三、製 茶
- 四、生 糸
- 五、縫甲細工
- 六、刺 繡
- 七、漆 器

一、製粉

一、産額 (三十七年)

價額

七十二萬七千圓

二、主要産地

長崎市

南高來郡

北松浦郡

東彼杵郡

三、製造戸數及職工數

戸數

九十二戸

職工數

二百七十八

四、主ナル製産者

長崎市

長崎麥粉株式會社

五、原料ノ供給

本品ノ原料タル小麦ハ郡部ニ於テハ附近生産ノモノヲ用ユレトモ麥粉會社ハ米國産及清國産ノ輸入ヲ仰ケリ

六、製産狀況

郡部ニ於ケルモノハ總テ水力ヲ籍リテ製産スルモノニシテ其ノ規模小ニシテ發達ノ見込ナシト雖トモ獨リ長崎市ニ於ケル麥粉株式會社ハ規模大ナル工場ヲ有シ蒸氣機械ヲ据付ケ七十五馬力ノ原動力ヲ使用シテ盛ニ製粉シツ、アリ製産高ハ約七十萬圓ニ達シ内地及ヒ海外ノ需用ヲ目的トシ販路ノ擴張ニ勉メツ、アレハ業務年ト共ニ隆盛ニ赴キツ、アリ

七、販出品仕向先

郡部ニ於ケル製産ハ一部素麵原料トシテ使用セラル、ノ外主トシテ附近農家ノ副食物トシテ消費セラレ麥粉會社ノ製品ハ内地ニアリテハ佐賀、福岡、熊本等ノ諸縣下ニ販路ヲ有シ一部分縣下素麵製産ノ原料トナリ海外ニアリテハ清、韓及浦鹽ニ輸出シ其額年々十三萬圓乃至十七萬圓ナリト云フ

八、輸出狀況

本品ノ輸出ハ長崎市麥粉會社ノ産品ニシテ其輸出先ハ浦鹽及清韓ナルカ本品最上ノ得意先タル浦鹽向ニアリテハ三十七八年ニ於テハ戦争ノ爲メ一時輸出ノ途絶ヘタリシカ三十八年末頃ヨリ再ヒ輸出ヲ見ルニ至リ清、韓ニ對スル輸出ハ戦争ノ爲メ殆ント影響ヲ蒙ラス何レモ帆船ニ依リテ對馬ニ送ラレ同地ヨリ彼地ニ搬送セラル、モノニシテ其額韓國ニアリテハ年々五萬圓乃至七萬圓ニ及ヒ清國ニアリテハ一萬圓内外ナリト云フ

二、木蠟

一、産額 (三十七年)

數 量

十五萬三千八百七十五斤

價 額

十二萬五千圓

二、製造戸數及職工數

戸 數

百 戸

職 工 數

二百三十四人

三、主要産地

西杵島郡

東彼杵郡

南高來郡

北高來郡

長崎縣

工産品



四、主ナル製産者

南高來郡島原村

下田 敏 謙

同 郡東有家村

隈 部 英 造

五、原料ノ供給

原料ハ主トシテ縣下ノ生産ニ係ル儘實ヲ以テ之ニ充ツ

六、製産狀況

本業ハ重ニ個人經營ニシテ農家ノ副業トシテ操業セラレ會社組織ノモノ一モ之ナキノ状態ナルカ從來ニ於テハ本蠟相場ハ常ニ安値ニシテ利益不確定ナリシカハ從業者中ニハ往々斯業ヲ廢棄スルノ傾向アリシト雖モ三十六年以來相場高直トナリ利益稍確實トナリタル爲メ産地ノ狀況ハ漸次好況ニ向ヒツヽアリ

七、製造費及損益ノ比較

物價ノ高低及勞働賃銀ノ差異等ニ依リ同シカラサルモ三十七年中ニ於テハ百斤ニ對スル製造費二圓内外ヲ要シ其純益ハ凡ソ一圓内外ナリシト云フ

八、相 場

三十七年中ニ於テハ百斤ニ對スル相場ハ凡ソ十八圓位ナリキ

九、販出品仕向先

本品ノ販出ハ主ニ横濱、神戸、大阪等ニ仕向ケラレ神戸港ニ到ルモノハ他産地ノ製産ト混シテ香港獨乙比律賓等ニ輸出セラル

十、改良スヘキ要點

製品ノ多クハ色澤不良ニシテ外觀粗惡ナルヲ免カレス原料ノ精撰ヲ要スルカ如シ

十一、輸出狀況

製産者直接ニ輸出ヲ爲サス地方仲買商ノ手ヲ經テ神戸港ニ於ケル輸出仲買商人ニ賣渡シ居留地外商ノ手ニ依リ海外ニ輸出セラル而シテ三十七年中ニ於ケル輸出額ハ約四萬五千斤内外ナリシト云フ

三、製 茶

一、産 額 (三十七年)

價 額 九萬二千九百圓

二、主要産地

東 彼 杵 郡 北 高 來 郡 北 松 浦 郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 一萬六千四百二十七戸  
職 工 一萬二千四百三十一人

四、原料ノ供給

本縣製茶ノ原料ハ各製産者ノ栽培スル所ニ係リ其栽培ハ宇治、静岡ニ則リタルモノニシテ品質良好綠茶及煎茶ノ製産ニ適スト云フ

五、製産狀況

本縣ニ於ケル製茶事業ハ三十年頃ヲ以テ尤モ旺盛ノ時期トシ現時ハ稍ヤ衰勢ニアルカ如シ製法ハ往時ニアリテハ釜熬製若クハ日乾製ノモノ多カリシカ二十五六年頃ヨリ静岡製法ヲ採用シ現今ニテハ焙爐製ヲナスモノ多キニ至レリ製品

ハ煎茶、綠茶、番茶、紅茶ノ四種ニシテ本業ノ最モ盛ナルハ東彼杵郡ニシテ其製産ハ縣下産額ノ六分ヲ占メ北高來郡及北松浦郡ハ各二分ヲ占ム而シテ綠茶ノ年産額ハ八萬圓ニ達シ紅茶ハ一萬圓位ナリト云フ

六、販出品仕向先  
製品ハ内國向ニアリテハ重ニ縣下ニ於テ消費セラレ外國向ニアリテハ米國及浦鹽地方ニ輸出ス

七、荷造方法及其費用  
荷造ハ土臺紙ト稱スル袋ニ入レ其外部ヲ蓆包トシ繩ニテ結束ス百斤ヲ以テ一袋トシ荷造費ハ凡三十五錢ヲ要ス

八、輸出狀況  
本縣産綠茶ノ輸出ハ三十七年中ニフリテハ年初ニ於テ米國ニ於ケル茶荷ノ停滯夥シク賣行不況ナリシ爲メ横、神兩港ノ輸出ハ自然ニ減退ノ狀ヲ呈セシカ新茶開始ノ時節ニアリテハ氣候少シク順ヲ缺キ茶芽ノ發育ヲ妨ケ兩港ニ於テハ期節ニ至リ入荷鮮少トナリシガ爲メ一時價格騰貴セシカ其後入荷漸次増加ノ模樣アリタルニ依リ再ヒ價額低落シ商況不振ニシテ結局輸出額ノ減少ヲ告ケ本縣産ノ如キハ僅ニ三千八十斤ノ輸出ヲナスニ過キサリシカ如シ  
紅茶ノ輸出ハ西比利亞地方ハ叢塞ノ姿ヲ呈シタルカ爲メ輸出ノ途絶ヘタリシガ露國捕虜ノ本邦ニ輸送セラレ、モノ多キニ至リ本品ハ該方面ノ需用ヲ充タスニ至リシト云フ

四、生 絲

一、産 額 (三十七年)

數 量 八千三百六十三斤  
産 額 九萬千九百圓

二、主要産地

南 高 來 郡 北 高 來 郡 東 彼 杵 郡 西 彼 杵 郡 北 松 浦 郡  
南 松 浦 郡 壹 岐 郡 對 馬

三、製造戶數

四千三百五十八戶

四、主ナル製産者

北 高 來 郡 西村製絲場  
南 高 來 郡 西郷合名會社

五、原料ノ供給

原料蠶繭ハ主トシテ縣下ノ生産ヲ用ユルモ尙一部分ハ福岡、大分等ノ産品ヲ購買シテ製絲ノ原料ニ充ツルト云フ

六、製産狀況

本縣ニ於ケル製絲業ハ農家ノ副業トシテ營マル、家内工業ニ屬スルモノ多ク規模何レモ小ニシテ産額少ク發達ノ度極メテ低位ニアリ製品ハ器械製絲少ク座繰大部ヲ占メ品質又良好ナラサルモノ多シト雖モ年々少額宛産額ノ増加ヲ見ツ、アリ

七、販出品仕向先

海外ニアリテハ米國ニ輸出シ内地向ハ主トシテ福岡ニ送ラレ博多織ノ原料トシテ使用セラレ

八、相 場

三十七年中ニ於ケル相場ハ外國輸出ニアリテハ百斤九圓五十錢ヨリ十圓二十錢ニ及ヒ内國向ハ一斤六圓七十錢乃至七圓五十錢ノ間ニアリシト云フ

九、輸出状況

本縣ニ於テハ製糸業甚タ盛ナラス從テ輸出向器械製糸ノ如キモ産額極メテ少ク製品ハ製産者直接ニ或ハ地方仲買人ノ手ヲ經テ横濱ニ於ケル仲買商ノ手ニ賣渡シ夫ヨリ輸出商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラル而シテ三十七年中ニ於ケル輸出額ハ二萬四千四百位ナリシト云フ

五、縫甲細工

一、産 額 (三十七年) 八萬五千圓

二、製造戸數及職工數

戸 數 十六戸  
職 工 六十人

三、産地及主ナル生産者

長 崎 市 江崎榮造  
全 池田榮太郎  
全 阪田榮太郎

四、主ナル製作品

煙 草 入 婦人束髮用具  
模 型 軍 艦 手 箱 等

五、原料ノ供給

縫甲ハ長崎商ノ手ヲ經テ濠州新嘉坡ヨリ輸入セシガ現今ニテハ神戸、横濱在留商ノ手ヲ經ルニ至レリ而シテ長崎市ニ輸入シタル額ハ商人ノ手ヲ經シモノ三萬圓外國ヨリ直輸入セシモノ七千圓ナリシト云フ

六、製産状況

本品ハ長崎市ニ於テ製産セラル、所ニシテ之カ製産ニ従事スルモノ戸數十六戸職工六十人年産額八萬圓内外ニシテ産額多カラスト雖モ年々少額ツ、秩序的ニ産額ノ増加ヲ見ツ、アリ職工ハ五六年ノ修業年限ヲ終リ始メテ一人前ノ職工トナルモノニシテ製品ハ精巧ヲ極ムルモノ多シ

七、販路及輸出状況

本品ハ外人向ニシテ露國人ヲ以テ最上ノ得意トシ露國船艦ノ入港アル毎ニ乗組員ノ土産物トシテ購買セラレ其他米國艦船ノ乗組員中ニモ之ヲ購フモノ多ク輸出商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラル、モノハ極メテ少ナシト云フ

八、本業ノ沿革

安政五年長崎市ノ縫甲業者江崎榮造ナルモノ一露國人ヨリ縫甲器ノ修繕ヲ托セラレタルヲ本業ノ起原トシ爾來斯業ニ従事スルモノ漸ク多キヲ加ヘ現今ニテハ頗ル精巧ナル工作品ヲ製出シ長崎縫甲細工ノ名ハ全國ニ稱セラル、ニ至レリ

六、刺 繡

一、産 額 (三十七年) 三萬二千枚  
數 量 七萬三千圓  
價 額

二、産 地

長 崎 市  
長 崎 縣 工 産 品

三、製造戸數及職工數

戸數

八戸

職工

三十五人

四、主ナル製産者

今井半三郎

白水三四郎

江上定次郎

五、原料ノ供給

刺繡ニ要スル金糸及絹糸ハ京都ヨリ、縞子及甲斐絹ハ足利、桐生若クハ京都ヨリ之ヲ輸入シ其原料ハ不足ヲ感スルコトナシ

六、製産狀況

本縣本業ノ状態ハ技術上ニ於テハ充分ナル發達ヲナシ精巧ナル製品ヲ製出シ得ルニ至リタルモ産額未タ多カラス製産者各自ニ意匠ヲ案出シテ製産スルモノ少ク多クハ居留歐米人又ハ外國船艦乗組員ノ注文ニ應ジテ彼等ノ指示處ノ寫眞繪寫等ノ意匠ヲ刺繡スルモノニシテ模様ハ各旗ノ縫模様全額ノ七分ヲ占メ花鳥類ハ三分ナリト云フ

七、販路及輸出狀況

本品ハ殆ト外人向ニシテ英、米、佛國ノ艦船乗組員ノ需用ニ充ツルモノ年々六萬圓乃至七萬圓ニ及ヒ其他上海、膠州灣等ニ外人ノ土産物トシテ輸出セラル、モノ年々二三千圓ニ達ス

八、本業ノ沿革

長崎市ニ於テ刺繡ノ製品ヲ出スニ至リシハ明治一、二年ノ交東濱町縫箱業春口伊重ナルモノニ支那人ノ貨幣ヲ示シテ其一面ニ鑄出シタル鷲章ヲ縫箱センコトヲ注文シ來リタルニ始マリ爾來漸次傳播シテ現在ノ業勢ヲ見ルニ至レリ

七、漆器

一、産額 (二十七年)

價額

六萬六千圓

二、主要産地

長崎市

三、主ナル製産者

長崎市 九一家具合資會社

四、製品ノ種類

裝飾器 家具 船室用器具等

五、製産狀況

本縣ニ於ケル漆器業ハ昔時ニ於テ一時盛況ヲ極メタリシモ其後年所ヲ經ルト共ニ漸次衰勢ニ向ヒ十數年以前ニアリテハ殆ント絶滅ニ歸セントスルノ悲境ニ陥リシカ九一合資會社主深ク之ヲ遺憾トシ大ニ斯業ノ再興ニ勉メタリシカハ爾來業勢大ニ進ミ品質漸ク改良セラレ産額亦年々増加ノ傾キアルニ至レリ

六、販路及輸出狀況

本品ハ内地ニ於テ使用セラル、モノ少ク多クハ露艦乗組員ノ需用ヲ充タスモノニシテ其他商品トシテ直接上海及浦鹽等ニ輸出スルモノ年々一萬圓内外ナリト云フ

(ロ) 重要工業品

本縣下産出ノ工業品ニシテ年産額五萬圓以上ニ達シ縣下ニ於ケル重要工業品ト認ムヘキモノハ左ノ九種ニシテ以下各品目ニ就キ之カ製産狀況等ノ概況ヲ記スヘシ

- 一、清酒及酒類
- 二、醬油
- 三、骨粉肥料
- 四、磁器
- 五、絨物
- 六、洋傘
- 七、砂糖
- 八、和紙
- 九、素麵

一、清酒及酒類

一、産額 (三十七年)

價額

百八十萬圓

二、主要産地

西彼杵郡 東彼杵郡 南高來郡 北松浦郡 北高來郡

三、製造戸數及職工數

戸數 九十一戸

職工 (男) 五千八百八十八人  
(女) 一千三百三十八人

四、原料ノ供給

原料米ノ半部ハ縣下生産ノモノヲ使用シ他ノ一半ハ佐賀、福岡、熊本ノ三縣下ヨリ輸入ス

五、製産狀況

本業ハ本縣ニ於ケル工業品中産額尤モ多キ工業ニ屬シ尙年々發達シツ、アリト雖モ戰爭時期ニアリテハ一般節約ノ風行ハレタル爲メ本品ノ如キモ自然賣行惡ク尙増税ノ爲メ製産費ヲ要スルコト多大トナリタル等ノ爲メ一時造石高ノ減少ヲ來シタレトモ三十八年ニ入りテハ再ヒ平年ノ状態ニ復シタルカ如シ本縣ニ於ケル酒類ノ需用高ハ縣下現在ノ製産ニテハ尙不足ヲ感シ年々多額ノ酒類ヲ輸入シツ、アルノ狀況ナレハ本業ハ充分發達ノ余地存スルカ如シト雖モ現在ノ製品ハ品質醇良ナラサレバ販路ノ擴張困難ナルカ如シ

六、販路

本品ハ重ニ縣下各郡ノ需用ヲ充タスモノニシテ産額ノ一小部分ハ熊本ニ輸出スト云フ

一、醬油

一、産額 (三十七年)

價額

二十六萬七千三百四十四

二、主要産地

長崎縣 重要工業品

長崎市 南高來郡 南松浦郡 壹岐郡

三、製造戸數、職工數  
戸數 五十二戸  
職工 二千四百七人  
（男 二千四百七人  
女 十七人）

四、原料ノ供給  
原料中大豆ハ肥後及縣下ノ産品ヲ用ヒ他ニハ韓國産ヲ使用スルコトアリ麥ハ縣下生産ヲ使用シ鹽ハ赤穂、味野ノ産ヲ用ユト云フ

五、生産狀況  
本縣本業ノ最モ盛ナルハ長崎市ニシテ長崎醬油醸造會社、森田保男、石橋宇吉、松尾豊三郎、森山三太郎ノ如キハ何レモ規模大ナル工場ヲ有シ其製品亦良好ナリ郡部ニアルモノハ一般ニ大ナル組織ノモノナク業勢亦盛ナラサルカ如シ本業者中ニハ一般ノ醸造法ニ依ラスシテ筑後柳河地方ヨリ諸味ヲ輸入シ醬油ニ精製スルモノアリ此等從業者中ニハ往々混入物ヲナシテ醬油ノ品質ヲ傷クルノ惡弊アリト云フ現今ニ於ケル産額ハ到底縣下ノ需用ヲ充スニ足ラス年々縣外ヨリ多額ノ輸入ヲ仰キツ、アリト雖モ本業ハ年々秩序的ニ發達シ居レハ久シカラスシテ縣外ノ輸入ヲ防クニ至ルヘシ

六、販路  
本品ハ未ダ縣外輸出ヲ爲スノ餘力ナク専ラ縣内ニ於テ消費セラレツ、アリ  
七、相場  
時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ高低アルヲ免レサレトモ三十八年中ニ於ケル相場ハ上一升二十二錢、中十八錢、下十六錢位ナリシト云フ

### 三、骨粉肥料

一、産額（三十七年）  
數量 六十萬貫  
價額 十五萬六千圓

二、製産者  
長崎市 九州肥料株式會社

三、原料ノ供給  
原料ハ上海五分、天津四分、地物一分ニシテ外國品ハ總テ三井物産會社ノ手ヲ經テ輸入ス

四、製産狀況  
本品ハ長崎市九州肥料株式會社ノ製産スル所ニシテ同社ハ明治三十一年ノ創立ニ係リ最新式ノ粉末器械蒸餾器ヲ据付ケ百二十五馬力ノ原動力ヲ使用シ一日約二千貫ノ骨粉ヲ製出シ一ヶ年ノ産額ハ六十萬貫ニ達ス農事試驗場九州支場試驗ノ結果ニ依レハ同社製品ノ含有分ハ左ノ如シト云フ

水分	七、三二
窒素	四、六〇
磷酸	二八、七五
有機分	三三、九八

五、販路  
本品ノ販路ハ縣外六分縣下四分ノ割合ナルカ縣外ニテハ鹿兒島、熊本、福岡ノ三縣下ニ販出シ年々好況ヲ以テ販路ヲ長崎縣 重要工業品

擴張シツ、アリ

### 四、磁器

一、産額 (三十七年)

十萬六千七百八十圓

主要産地

東 彼 杵 郡

(上波佐見村、下波佐見村、折尾瀬村)

三、製造戸數及職工數

戸 數 百 十 二 戸

職 工 〔男〕 四百六十二人  
〔女〕 三百二十一人

四、原料ノ供給

三股山ノミハ原料ノ五割以上ヲ地土ニ取レトモ其他ノ皿山ニアリテハ陶土ノ六割ヲ天草石ニ取リ尙之ニ混用スルニ同郡江上村三ツ岳及對州産ヲ用ユト云フ

五、製産狀況

本縣ニ於ケル磁器ハ東彼杵郡中上波佐見村ノ中尾、三股、永尾、下波佐見村ノ種木場、折尾瀬村ノ三河内、江長、木原ノ七皿山ヨリ産出スル處ニ係リ製品ハ裝飾品二割五分日用品七割五分ノ割合ニシテ品質堅牢實用ニ適スト雖モ意匠巧妙ナラサルカ爲メ近年販路狭少トナリ業勢不振ノ狀態ニアリシカ三河内皿山ニアリテハ三十三年中東京工業學校陶器教師島田佳矣氏ヲ聘シ子弟ニ畫樣ヲ傳習セシメ成績良好ナリシカハ其他ノ皿山モ亦繪樣改良ノ必要ヲ認ムルニ至リ各山磁器ノ繪樣ハ漸次改良セラル、ニ至リ本業ハ序ヲ追フテ年々産額ノ増進ヲ見ルニ至レリ

六、販 路

福岡、熊本、大阪、横濱ノ各地方ニ販出セラル、モノ年々産額ノ約七割ヲ占メ其他ハ縣内ニ於テ販賣セラル

七、事業ノ沿革

本縣ニ於ケル磁器ノ起原ハ舊大村藩ト舊平戸藩トニ依リ其沿革ヲ異ニス左ニ之ヲ畧述スハシ

(大村藩)

本藩ニ屬スルモノハ下波佐見村ノ種木場上波佐見村ノ中尾、三股、永尾ノ四山ニシテ慶長年間江戸ノ人萬屋藤九郎時ノ押役ニ請願シテ始メテ三股ニ陶器窯ヲ設ケ正保元年中尾山ニ寛文六年永尾山ニ寛文七年種木場ニ開窯シ後チ三股ニ皿山役所ヲ置キテ各山ヲ統轄スルニ至リタリト云フ口碑ニヨレハ開始當時ノ製品ハ粗末ナル土燒ナリシモ天保年間始メテ白色ノ陶器ヲ燒クコトヲ發明セリト之レ本縣「ヒツレ」燒ノ嚆矢ニシテ製品ハ食器多ク奈良茶碗尤モ著名ニシテ其蓋ヲ製スルニ至リシハ實ニ元治後ナリト云フ

(平戸藩)

平戸藩ニ屬スルモノハ折尾瀬村ノ三河内、江長、木原ノ三ヶ所ニシテ是亦皿山ト稱ス口碑ニヨレハ平戸藩主朝鮮ヨリ歸陣ノ際軍夫トシテ使役セシ朝鮮人ヲ伴ヒ來リ之ヲ平戸ニ住ハシメタリシカ後中野村ニ移リ更ニ江長、木原ニ移リ此所ニテ窯業ヲ始メタリト云フ

三河内ノ歴史ハ前者ト異リ文祿ノ役韓人高麗婦ナルモノ唐津ニ來リ中里茂右衛門ニ嫁シ後三河内ニ陶窯ヲ開ク其法高麗ヨリ傳フ故ニ世稱シテ高麗燒ト云フ之ト同時代ニ韓人巨闢ノ子今村三之丞ナル者唐津ヨリ唄ヲ尋ネ來リ別ニ同地ニ窯業ヲ開キ俱ニ力ヲ用ヒタリシカ其子如猿ニ至リ諸所ヲ探見シテ江上村三ツ岳ニ原料土ヲ發見シ數回ノ試験ヲ經テ始メテ白燒ノ磁器ヲ發明スルニ至リタリ藩主松浦氏其功ヲ賞シ給スルニ田宅山林一百餘町ヲ以テス爾來其燒益々精巧ヲ

極ノ遂ニ即今磁器ノ基礎ヲ立ツルニ至レリト云フ

五、織物

一、産額 (三十七年)

價額

七萬七千五百九十九圓

内

絹織物

五萬二千七百三十九圓

綿織物

二萬四千八百六十圓

(1) 絹織物

一、主要産地

北高來郡 諫早村

二、製品ノ種類

本織物中主ナルモノハ洋傘地及羽二重、縮緬ノ類ニシテ其他生絹、斜子一樂等ヲモ産出ス

三、原料ノ供給

生絲ハ郡内及福岡、熊本等ノ産品ヲ用ヒ染料ハ大阪ヨリ輸入シ自家工場ニ於テ染色ス

四、興産状況

縣下絹織物業ノ尤モ盛ナルハ北高來郡諫早村ニシテ明治二十年和田半氏カ織工場ヲ北諫早ニ設置シ附近ノ兒女ニ其業ヲ授ケ又多ク縣内ノ兒女ヲ養成シタル爲メ附近及隣郡ニ亙リテ十餘ヶ所ニ工場起リ洋傘地、羽二重、縮緬、生絹、斜子、一樂等諸種ノ織物ヲ製出スルニ至リ和田絹ノ名ハ一時有名ナリシカニ三年前ニ於テ當業者中失敗者ヲ出シタル

爲メ其後業務頓ニ衰へ現今稍衰勢ニ陥リタルカ如シ

五、販路

本品中洋傘地ハ主トシテ長崎市ニ販賣シ來リシカニ三年以來産額減少ノ爲メ漸次販路狹少トナルノ傾アリト雖モ其他ノ絹織物ニアリテハ一部ハ縣下ノ需用ヲ充タシ其大部分ハ佐賀熊本地方ニ販出セラレ年々販路擴張セラレツ、アリト云フ

(ロ) 絹織物

一、主要産地

長崎市

二、製品ノ種類

白木綿 淺黄木綿

三、製産状況

本業ハ輸出白木綿ヲ生産スルノ目的ヲ以テ去ル明治三十年長崎市阪本金三郎ガ木綿傳習所ヲ設立シタルヲ始トシ爾來漸次傳習所ノ數ヲ増加シ現今ニテハ其數縣下ヲ通シテ七ヶ所ニ及ヒ各縣費ノ補助ヲ受ケ生徒ノ養成ニ努メツ、アリト雖モ創設日尙ホ淺キ爲メ未タ充分ノ發達ヲ見ル能ハスシテ本業ノ將來ハ俄ニ判ス可ラサルモノアリ

四、販路

白木綿ハ韓國仁川ニ輸出セラレ淺黄織及縞地ハ縣下ノ需用ヲ充スニ止ルト云フ

六、洋傘

一、産額 (三十七年)

長崎縣 冨要工産品



數 量 三萬四千五百本  
價 額 七萬六千圓

二、産 地

長 崎 市

三、製造戸數及職工數

戸 數 八 戸  
職 工 數 男 三十人  
女 十八人

四、原料ノ供給

原料ノ地質中絹地ハ甲府、西陣、足利及縣下諫早ノ産品和田絹ヲ用ヒ瓦斯地ハ英國産ヲ使用ス骨柄ハ全部之ヲ東京ヨリ仕入ルト云フ

五、製産狀況

本品ハ長崎市ニ於テ製産セラレ販路ノ擴張ト共ニ年々産額ノ増進ヲ見ル所ニシテ戰時中ハ一般商況ノ不振ナリシニ不拘些ノ影響ヲ蒙ルコトナク却テ例年ニ比シ一割方ノ増産ヲ見タリト云フ製産者ハ平素意匠ノ研究ニ注意ヲ怠ラサルカ爲メ品質ハ漸次改善ニ向ヒツ、アリ尙本品中絹地物ニハ從來和田絹ヲ使用シ來リシカ近時和田絹ノ織元産額微々トシテ振ハサルニ至リ不得止京都、足利、甲府等ヨリ切地ノ供給ヲ受クルコト、ナリ製産上ノ不利少カラサルニ至リタレハ一二ノ當業者ハ地質ノ製織ト本業トヲ兼營スルノ利ナルヲ思ヒ遂ニ職工ヲ京都ニ派シ目下傘地ノ製織ヲ傳習中ナリト云フ若シ此企畫ニシテ成功セハ本業ノ發達蓋シ見ルヘキモノアルニ至ルハシ

六、販 路

本品ハ全産額ノ約六分ヲ縣内ニ於テ販賣シ縣外輸出トシテハ福岡、佐賀、熊本ノ諸縣下ニ約四分ヲ販出ス

七、砂 糖

一、産 額 (三十七年) 十四萬七千八百十七貫  
數 量 七萬九百五十二圓  
價 額

二、主要産地

南 高 來 郡

三、原料ノ供給

原料ハ凡テ本品産地附近ニ栽培シアル甘蔗ヲ用ヒ他地方ヨリ供給ヲ受ルコトナシ

四、販 路

重ニ縣下ニ於テ消費セラレ一部分佐賀縣下ニ販出ス

五、製産狀況

産地ハ重ニ南高來郡ニシテ同地方ニテハ糖業ハ別ニ著シキ進歩ヲ見ス蔗莖ヲ搾ルニ石製又ハ鐵製ノ搾汁機ヲ用ヒ働力ハ牛力ヲ使用ス黒糖ハ絞り汁ヲ釜中ニ投入シ少量ノ石灰ヲ混和シテ煎煉ス

八、和 紙

一、産 額 (三十七年) 五萬八千六十三圓  
價 額

二、産 地

長 崎 縣 重 要 工 産 品

北高來郡 東彼杵郡 北松浦郡

三、製造戸數及職工數

二百七十二戸

職工數

(男) 三百五人  
(女) 二百九十五人

四、原料ノ供給

縣下ニ於テハ楮皮少キヲ以テ使用高ノ約三分ノ二ハ佐賀、熊本、愛媛、愛知等ヨリ之ヲ輸入シ尙縣下産出ノ三種、紙等ヲ混用シテ原料ノ不足ヲ補フト云フ

五、製産狀況

本縣ニ於ケル本業ノ多クハ農家ノ副業ニ屬シ專業者極メテ少シ製品ハ從來ニアリテハ各産地共何レモ劣等品ノミヲ製産シ來リシカ本業ノ最モ盛ナル北高來郡湯江村ニアリテハ三十二年以來村立製紙傳習所ヲ設ケ専ラ技術ノ傳習ヲナシ從來ノ四枚漉ヲ八枚漉ニ改メ種類ノ如キモ改良半紙、美濃紙、繪入半切、障子紙、東洋紙等ヲ製産スルコト、ナリ同地ニ於ケル製紙業ハ舊來ノ面目ヲ一新スルニ至リタレハ其他ノ産地モ之ニ倣ヒ製法ヲ改良シ本縣ニ於ケル製紙業ハ爾來大ニ盛況トナリ販路ノ擴張ト共ニ年々産額ノ増加ヲ見ルニ至レリ

六、販路

本品ハ産額少ク未タ縣外ノ輸出ヲナスノ余力ナキ爲メ専ラ縣内ニ於テ消費セラレツ、アリ

九、素麵

一、産額 (三十七年)

數 量 百十二萬七千斤

價 額 五萬八千圓

二、主要産地

南高來郡

三、職工數

四百三十名

四、原料ノ供給

原料ハ長崎麥粉會社ノ製品ヲ用ユルモノ多シト雖モ産地製出ノ麥粉ヲ用ユルモノアリト云フ

五、販路

主ニ管内各郡ノ副食物トシテ使用セラレ生産ノ約四分ハ熊本及鹿兒島地方ニ仕向ケラル

六、製産狀況

主ナル産地ハ南高來郡ニシテ製麵業ヲ以テ專業トナスモノナク多クハ農家ノ副業トシテ農閑ヲ以テ製産ニ従事スルカ如キ状態ニテ製品良好ナラス將來産額ノ著シキ増加ヲ見ルコト難キカ如シ

# 佐賀縣

## (一) 産業概説

佐賀縣産業上ノ地位ハ均シク農業ヲ以テ主腦トセサル可ラス則チ縣生産力二千八百萬圓ニシテ殆ント全産額ノ二分ノ一強ヲ占ム則チ農産ノ消長ハ一縣經濟上ノ命脈ヲ支配シ其豊凶ハ他ノ事業界ニ多大ノ影響ヲ與フルニ至レリ本縣カ農業ヲ以テ唯一ノ縣是トシ其發達獎勵ニ全力ヲ傾注シツ、アルモノ亦故ナキニアラサルナリ今統計ニ因リ縣ノ生産力ヲ示セハ左ノ如シ

### 佐賀縣生産力

農 産	一千七百三十八萬四千五百六十一圓
工 産	六百四十八萬六千四百五十六圓
鑛 産	二百三十九萬九千二百五十三圓
水 産	百二十二萬二千圓
林 産	六十九萬二千二十六圓
畜 産	四萬三千二百二十圓
合 計	二千八百二十二萬六千五百十六圓

以上各生産ニ對シ略叙センニ農業ハ米作ヲ主トシ則チ米穀一ヶ年ノ生産八十六萬石乃至百萬石ヲ下ラス之ニ對スル價額優ニ一千萬圓ニ上リ内縣外輸出ハ三十八萬石内外ニシテ此價額四百七十五萬圓以上ニ及ヘリ米ニ亞クモノ麥ニシテ一ヶ年ノ生産三十萬石此價額二百五十萬圓ヲ算シ縣下製麵業ノ發達ト共ニ益々生産ヲ増加スルノ狀況ナリトス米麥ニ亞キ養

冠事業ハ三十八年ニ於ケル收入十六萬一千五百圓ニシテ漸次進境ニ嚮フノ狀況ニアリ歟之本縣ノ農業ハ前途益々發展ノ餘地ヲ有セリ農産ニ亞クモノ工産ニシテ(別項ニ詳説セリ)之ニ亞クモノ鐵産ノ二百三十九萬圓ニシテ其主要生産ハ石炭ニシテ一ヶ年ノ産額十七億五千萬斤ニ達シ内輸出ニ係ルモノ拾億三千二百萬斤ニ及ヘリ本縣ノ炭質ハ頗ル良好ニシテ所謂肥前炭ノ好評ヲ博セリ斯業ノ前途ハ將來工業界ノ進歩ト俱ニ最モ有望ノモノナリト信ス鑛業ニ亞キ水産ハ縣下ノ三面海ニ瀕シ沿岸線約六十里餘ニ及ヒ島嶼岩礁基布シ内ニハ岬灣ノ參差タルアリテ到ル處好個ノ漁場ニ富ミ隨テ魚介海藻ノ生産鮮カラス加フルニ對州海峽ヨリ分岐シ來レル暖流ニ伴ハレテ大海性ヲ有スル魚類ノ來游セルモノ多ク其主要漁獲物ハ鯛、鮪、鰯、鰒、柔魚、牡蠣、蠔貝ニシテ一ヶ年ノ生産約百二十二萬圓餘ニ達セリ本縣ノ漁業ハ將來發達ノ餘地甚タ多カルヘキヲ信ス林業ハ現下ノ狀態一般ノ森林斧斤ノ入ラサル處ナク濫伐暴斫全山殆ント荒廢ニ歸シ單ニ用材ノ供給乏シキノミナラス燃料ノ如キモ亦常ニ多額ノ輸入ヲ仰クノ狀況ニシテ林産ノ缺乏ハ延テ製造工業ニ著シキ打擊ヲ與ヘ就中陶磁器製造燃料ノ如キ若クハ工場建築用材ノ如キ皆福岡、長崎、大分各縣ヨリ輸入ヲ仰クニ至レリ然レトモ近年公共團體ノ企業ヲ始トシ造林經營ノ計畫到ル處ニ實現シ來レル趨勢ナルヲ以テ逐年是レカ供給ヲ全カラシムルニ至ルヘキヲ信ス畜産ハ農業ノ發達ト共ニ其需要ヲ喚起シツ、アルニモ拘ラス生産極メテ少ク農家飼養ノ大部分ハ概テ他縣ヨリ供給ヲ仰クノ狀態ニシテ事業トシテ殆ント見ルヘキモノナシ是レ本縣ハ比較的山野ニ乏シク牧場等ノ施設ヲ爲シ得ベキ餘地ナキモノ是レカ主因ナルヘキヲ信ス

本縣ノ商工業ハ之ヲ概言スレハ或ル一二ノ特殊工業ヲ除クノ外萎靡退嬰觀ルニ足ルベキモノナキノ狀態ニ在リ願スニ本縣ノ地位タル九州ノ中樞ニ居リ交通運輸ノ便比較的滑カナルノミナラス大規模的工業ニ要スル石炭ノ供給豊富ニシテ而モ工業的原料タル農産物ノ生産饒多ナルニモ拘ラス如斯落莫不振ノ境遇ニ在ルモノ畢竟資本主タルモノ苟且儉安進シテ事業界ニ投セントスルノ氣風ニ乏シキモノ之ガ主因タラサルナキヲ得ンヤ果シテ然ラバ將來外界ノ刺激ト産業界ノ趨勢

ハ營業者ヲシテ自ラ覺醒シ其事業勃興ノ機運ヲ促進スルニ非レハ到底現時ノ面目ヲ更ムルノ期ナカルベキヲ信ス今縣ノ統計ニ依リ工産ノ種別ヲ擧クレハ左ノ如シ

工 産 品 (二十七年調査)

清 酒	二百七萬七千七百三十六圓
陶 磁 器	六十三萬四千六百八十三圓
醬 油	五十六萬二千三百十九圓
製 粉	三十八萬六千七百五十八圓
木 蠟	三十三萬五千二百一圓
賣 藥	三十一萬二千六百六十一圓
セメント	三十萬九千六百圓
鐵工品及諸器械	三十萬二千五百圓
和 紙	二十四萬八千五百五十二圓
茶 麵	二十四萬七千四百圓
蠶 糸	二十二萬五千五百九十圓
油 類	十五萬五千三百六十六圓
吹 茶	十三萬八千五百九十一圓
製 茶	十一萬三千八百六圓
織 物	十萬七千七百六十圓

佐賀縣 産業概況

瓦	八萬八千六百八十八圓
糖	八萬八千八百八圓
種油	七萬三千三十五圓
鹽	四萬四千圓
足袋	三萬五千圓
橡膠	一萬七千九百七圓
合計	六百四十八萬六千四百五十六圓

以上工産品中海外輸出ニ屬スルモノ陶磁器、木履、賣藥、セメント、製紙、素麵、蠶糸、製茶ノ八種ニシテ重要工産品トシテ清酒、醬油、製粉、鐵器類、製油、吹、織物ノ七種ナリトス今是等各品ニ付其生産ノ狀態ヲ概述セシニ陶磁器ハ本邦輸出陶器中最モ主要ノ地位ヲ占メ所謂有田燒ノ稱呼ハ噴々トシテ世間ノ好評ヲ博シ益々發展ノ狀況ニアリ元來有田燒ノ起源ハ其由來スル處甚タ遠ク貿易品トシテ海外ニ輸出セシハ今ヨリ二百六十三年前則チ正保三年始メテ支那、和蘭ニ輸出セルヲ嚆矢トシ爾來漸クニ販路擴張シ明治三年日耳曼人「ワルチル」ヲ聘シ製品ノ改良ヲ企テ益々良好ノ品種ヲ生産シ且現今百五十有餘戸ノ製造家ハ盛ニ製造ニ從事シ其輸出額實ニ三十六萬圓ノ多額ニ上リ本邦陶器輸出額中三百九十萬圓ニ對シ實ニ其十分ノ一ヲ占ムルニ至レリ而シテ有田燒ノ外藤津燒、唐津燒等ノ生産アルモ産額僅少事業振ハス輸出亦十萬圓内外ニシテ殊ニ藤津燒ハ主ニ内國需要品トシテ生産スルニ過キス木蠟ハ其産額ニ於テ本邦生産額ノ第三位ニ居リ原料ハ概ネ縣下生産ノ植實ヲ用ヒ明治三十五年以來海外ノ需用漸次増進スルト同時ニ製造家亦遽然増加シ爾來實業者合同シテ肥前木蠟同業組合ヲ設ケ其製品ニ對シ検査ヲ施シ努メテ粗製濫造ノ弊ヲ矯正シタル結果現下漸クニ良品ノ生産ヲ見ルニ至リ前途頗ル好望ノ輸出品タルニ至レリ賣藥ハ其生産三十七年ニ於テハ三十萬圓以上ニ上リ其主産地ハ縣下三養

基郡、田代、基山、基里ノ三村ニシテ所謂九州ニ於ケル富山ノ稱アリ現時内國需要ノ外清韓各地ニ輸出ヲ試ミ漸次販路擴張ノ狀況ニ在リ「セメント」ハ佐賀セメント株式會社ノ事業ニ係リ其創設ハ去ル明治三十四年ニシテ當時恰モ物價昂騰シ勞銀倍加セルニ引替製品ハ非常ノ下落トナリ全國各地ノセメント會社孰レモ苦心慘憺ノ悲運ニ陥リ同社モ亦危殆ニ瀕シタルモ爾後經濟界順潮ニ趣キ目下漸クニ社運ヲ回復スルニ至レリ其銷路ハ阪神各地及臺灣ヲ主トシ亦清韓地方へ輸出シ漸次増進ノ狀況ニアリ製紙ハ一ヶ年生産額二十五萬圓内外ニシテ原料ハ熊本地方ノ楮皮ヲ用ヒ製品ノ種類ハ和紙及輸出向トシテ天狗帖、コッビー紙、紙ナフキン等ヲ製セリ生産ハ農家ノ副業トシテ農閑ノ餘暇ヲ以テ製出スルニ過キス隨テ其製法極メテ幼稚タルヲ免レス販路ハ香港、新嘉坡、浦鹽、韓國等ニシテ本縣製品ノ特色ハ紙質強韌ノタメ需要者ノ嗜好ヲ惹起セルモノ、如シ素麵ハ本縣ノ特有物産ニシテ縣下各郡皆多少産出セサルハナク殊ニ佐賀市及神崎、小城ノ二郡ヲ最トス現今ニ於テハ縣下ヲ通シテ同業組合ヲ設置シ大ニ製品ノ改良ヲ行ヒ且販路ノ擴張ヲ計リタル結果其販路ハ獨リ内國需要ニ止ラス清、韓、南洋及米國ノ各地へ輸出セラル、モノ一ヶ年約七萬圓内外ニ及ヒ將來頗ル好望ノ一物産ナリトス蠶糸ハ明治五六年ノ交一時事業勃興シテ頗ル盛況ヲ呈シタリシカ爾後海外ノ需要ニ伴ヒ一盛一衰其消長一ナラス現時一ノ工場ヲ除クノ外ハ規模小ニシテ微々振ハス且其製品ハ概テ座繰製糸ニシテ京都、丹波地方ニ輸リ以テ縮緬製織ノ原料ニ供セラレ又器械製糸ハ横濱ヲ經テ海外ニ輸出セリ製茶ハ一ヶ年生産額十一萬圓内外ニシテ縣下製茶ノ本場トシテ世ニ知ラル、ハ藤津郡東、西畑野地方ニシテ畑野茶ハ元來唐製ト稱シ我國輸出茶ノ始祖ニシテ明治初年頃ニハ其輸出額一百萬斤以上ニ達シタルコトアリシモ他府縣ニ於ケル生産地力漸次改良ヲ加ヘタル結果トシテ海外市場ノ嗜好ハ之ニ移リ爲メニ本縣製茶ノ聲價ヲ失墜スルニ至リ一時茶園ヲ拋棄スルノ悲運ニ陥リシカ當業者亦大ニ感奮スル所アリ去明治二十九年ニ至リ縣下ヲ通シテ同業組合ヲ設置シテ茶業練習所ヲ設ケ靜岡地方ヨリ教師ヲ聘シテ技術的傳習ノ普及ヲ計リ年々縣費ヨリ若干ノ補助ヲ與ヘ専ラ事業ノ啓發ヲ獎勵シタル結果大ニ其改良發達ヲ見ルト同時ニ漸次輸出額增加スル

重要工産品トシテ其生産額ノ第一位ヲ占ムルモノハ清酒ニシテ約二百萬圓内外ノ産出ナルモ其大部分ハ縣内ニ於テ消費セラレ他ハ大阪地方及九州各縣へ輸出セラルル當業者競争ノ結果トシテ品質ノ改良年々其歩ヲ進メ生産亦増進ノ趨勢ナリトス醤油ハ一ヶ年ノ生産額約六十萬圓ヲ算シ數年前ニ於テハ本縣産ハ常ニ福岡産ニ壓倒セラレ隨テ販路亦縮少ノ状態ナリシカ近來當業者銳意改良ヲ企テタル結果トシテ品質佳良大ニ聲價ヲ博スルニ至リ現今生産ノ三割ハ縣外ニ輸出ヲ見ルノ狀況ニ在リ製粉ハ農家ノ副業トシテ最モ普ク發達シタル家内の工業ノ一ニシテ原料ハ本縣生産ノ小麦ヲ用ヒ其製品ハ重ニ縣下ノ麵業者ニ供給セラレ管外輸出ハ極メテ僅少ナリトス鐵器類ハ本縣ノ特殊工業ニシテ遠ク三百年以前ニ於テ舊藩主獎勵ノ結果トシテ銃砲ノ鑄造盛ニ行ハレ一時佐賀鑄造鐵器ノ名ヲ擅ニスルニ至レリ爾來年々閱スル幾星霜人文ノ發達ト共ニ機械的工業ハ各地ニ勃興シ本縣亦舊時ノ状態ヲ更メ縣下谷口鐵工場及真崎鐵工場ノ如キ大規模的工場ノ設立ヲ見ルニ至レリ殊ニ谷口鐵工場ハ本邦有數ノ工場ニシテ鐵山用諸器械、蒸氣機關、原動器、軍用鐵器及各種ノ鑄鐵器ヲ製造シ其施設頗ル靚ル可キモノアリ目下同工場ノ製造高二十萬圓内外ニシテ真崎鐵工場ハ七萬圓内外ナリトス斯業ノ前途ハ本邦工業界ノ發展ト俱ニ有望ノ事業ナリト信ス製油ハ一ヶ年ノ産額十五萬圓内外ニシテ農家ノ副業トシテ經營セラレ其製品ハ重ニ縣内ニ於テ消費シ僅ニ福岡縣地方ノ炭坑ニ需要セラル、ニ過キス製吹ハ本縣特有ノ生産品ニシテ農家ノ副業トシテ毎戸ノ壯丁カ作業ノ餘暇ヲ以テ製造スルモノニ係リ其利益大ナラサルモ生産費少ク隨テ製品比較的低廉ナルカクメ需用多ク目下一ヶ年ノ産額十五萬圓以上ニ達セリ織物ハ綿、傘、其他ノ雜織物ニシテ綿ハ去明治二十九年佐賀市厚生會ナルモノ起毛機械數臺ヲ据付爾來專ラ製造ニ從事シ製品良好ナルカメ販路逐年増加シ漸次發展ノ趨勢ニ嚮ヘリ傘絹ハ佛蘭式ノ機具及ドビー式ノ織機ヲ以テ製造シツ、アリ其規模小ニシテ未タ觀ルニ足ラスト雖モ製品堅韌ニシテ染色良好ナルカ爲メ需用漸次増加シ近來京阪地方へ輸出スルモノ漸ク多キニ至レリ

本縣ニ於ケル商工業ノ状態ハ以上總述セルカ如ク總ニ一二ノ工業ヲ除クノ外ハ概シテ内國貿易品ヲ生産スルニ過キス而モ其製品ハ未タ依然トシテ舊態ヲ蟬脱セス殊ニ器械力ヲ利用セルモノニ至リテハ殆ント絶無ノ状態ニ在リ爲メニ輸出品ノ如キモ陶磁器ノ外萎靡不振ノ狀況ニ在リトス願フニ本縣産業ノ將來ハ農業的啓發ニ待ツノ外商工業發展ノ如キハ前途尙遠ニシテ其發達進歩ノ方法ヲ講スルハ本縣ノ爲メ最モ焦眉ノ急務タルヘキヲ信ス

### (二) 工 産 品

#### (イ) 輸 出 工 産 品

本縣産出ノ工産品ニシテ年産額十萬圓以上ニ上リ現ニ海外ニ輸出セラル、モノハ左ノ六種ニシテ以下各品目ニ就キ製産狀況及販路等ヲ詳細ニ述フヘシ

- 一、陶 磁 器
- 二、セ メ ント
- 三、木 蠟
- 四、和 紙
- 五、素 麵
- 六、生 糸

佐賀縣 工 産 品

一、陶磁器

八十六

一、産額 (三十七年中)

數量 五百九十四萬七千四十個

價格 六十三萬四千六百八十三圓

二、產地

西松浦郡 (有田町、有田村)

藤津郡 (西嬉野村、久間村、鹽田町)

杵島郡 (橋村、西川登村)

三養基郡 (北茂安村)

三、種別

食器、花瓶、壺、碇子、電話器、茶器、火鉢、水指、便器、裝飾品等

四、製造戸數

戸數 二百二十七戸

職工數 二千二百一人

五、主ナル製造者

有田町

香蘭合名會社

瀬戸口 勝太郎

雪竹豊吉

城島岩太郎

藤崎多平

深川忠次郎

久保時太郎

松尾徳助

岩尾彦次郎

松本倉助

山口徳一 辻 勝造

有田村

福島幸次郎

藤本巻助

古川萬之助

原田種吉

梶尾謙一郎

梶尾友太郎

西嬉野村

富永源六

久間村

平野丈蔵

富永善九郎

光武權太郎

鶴鹿太郎

貞包榮七

六、販路

内地ニアリテハ大阪、神奈川、京都、横濱、神戸、長崎、福岡等ニ主ナル販路ヲ有シ海外ニアリテハ支那、韓國及歐米諸國トス

七、製産状況

縣下ニ於テ本業ノ最モ盛ナルハ西松浦郡有田町及附近各村ニシテ之ニ次クモノハ藤津郡ナリ杵島郡及三養基郡ノ二郡ヨリ産出スルモノハ其額甚大ナラス西松浦郡ノ産額ハ全産額ニ對シテ六割ヲ占メ藤津郡ハ三割ニシテ他ノ一割ハ杵島及三養基ノ産出ナリ西松浦郡ニ於ケル製出品ノ七割ハ實用品ニシテ三分ハ裝飾品ナリ其他藤津郡、杵島郡及三養基郡ニ於テハ専ラ實用向ノ品ヲ製出ス本業ハ數年以前ニアリテハ稍沈衰ノ姿ナリシカ戰爭開始後却テ盛況ヲ見ルニ至リ歐米及韓國向ノ如キ何レモ従前ニ對シテ輸出額ヲ増加シタリト云フ

八、販賣手續

佐賀縣 工産品

八十七

販賣ハ製造者ニ於テ之ヲ爲スアリ或ハ販賣商ノ手ニ依リテセラル、アリ近時有田町ニ於テハ陶磁器合資會社ナルモノアリテ毎月一二回各製品ヲ此處ニ集メ入札ヲ以テ取引ヲナスト云フ外國輸出品ハ横濱、神戸ノ仲買人ト隨意賣買ヲナシ或ハ委託販賣ヲ爲スコトアリ而シテ委託ノ外取引ハ大概現金取引ノ慣例ナリト云フ

九、内地ニ於ケル商況  
本縣産品ハ實用品多キ爲メ内地向トシテハ戰爭ノ影響ヲ蒙リシコト少カリシノミナラス輸出向ニ於テハ却テ盛況ヲ呈セシカ爲メ産地ノ商況ハ意外ニ好況ナリシト云フ

十、輸出狀况  
三十七年中ニ於テハ本縣産ノ横濱、神戸兩港ヨリ輸出セラレタルモノ歐米向一割ノ増加ヲ爲シ概算二十四五萬圓内外ニ上リ韓國向ハ同國ニ於ケル米作ノ豊饒ナリシト戰爭ニ伴フ軍資ノ散布セラレタルモノ多カリシトニ依リ輸出額十五萬圓ニ上リ前年ニ比スレハ正ニ二割方ヲ増加セリ而シテ其品類ハ歐米向ニアリテハ皿、井ノ二類全輸出額ノ六分ヲ占メ殘餘ノ四分ハ花瓶、壺、傘立、火鉢ノ各種ニシテ韓國ヘハ「サバル」、六寸井ヲ最トシ其他五寸乃至八寸ノ便器五寸井、婦人「サバル」、四寸大反、三五中反等絶ヘス需用アリタリ

一、産 額 (三十七年中)

穀 量 七萬六千樽

價 額 三十萬五千六百圓

二、産 地

佐賀郡諸富港 佐賀セメント株式會社

三、馬力及職工數

使用馬力 三百馬力

職 工 數 百六十八

四、原料ノ供給

原料石ハ肥後國葦北郡ノ産品ヲ用ヒ粘土ハ有明海沿岸ノ泥土ヲ用ユ粘着力ノ強弱ナルモノ蓋シ有明沿岸ニ於ケル泥土ノ特質ニ依ルモノナルヘシ

五、販 路

内地ニ於テハ臺灣及陸海軍御用ヲ最トシ阪神地方ヘモ販路ヲ有シ海外ニ於テハ韓國、清國ニ輸出ス

六、相 場

三十六年中韓國釜山ニ於ケル本社製品ノ相場ハ大一樽四圓七十錢、小樽二圓三十五錢位ナリシト云フ

七、荷造方法

製品三百斤ヲ一樽ニ詰メ内部ハ厚紙ヲ以テ漏洩ヲ防キ外部ハ竹輪ヲ以テ中央ニケ所兩端各一ケ所ヲ締メ上ケ形状ハ大鼓形ノ稍長キニ類ス而シテ分銅形ノ商標ヲ附セリ

八、販賣手續

内地向ハ百樽以上ノ大取引ハ會社直接ニ取引ヲナセトモ小口取引ハ一切之ヲ爲サス外國輸出ニアリテハ海外需用地ニ委託販賣者ヲ置キ同商人ノ手ヨリ販賣スト云フ

九、製産狀况

佐賀セメント株式會社ハ去ル三十四年ノ創立ニシテ資本金三十萬圓ヲ有シ縣下ニ於ケル屈指ノ大工場ヲ有シ一ケ年ノ



産額七萬樽余ナレトモ需用ニ應シ二十萬樽ヲ製出シ得ルノ計劃ナルカ三十七八年ニアリテハ時局ノ爲メ甚シキ打撃ヲ蒙リ需用大ニ減退シタルカ爲メ職工ヲ減シ夜業ヲ廢止スルノ悲境ニ陥リシカ平和克復後ハ將來ノ需用ヲ豫想シテ再ヒ從前ノ操業状態ヲ復舊シテ現今盛ニ製産シツ、アリト云フ

本縣産品ノ初メテ海外ニ輸出セラル、ニ至リタルハ最近三十四年ニ於テ韓國釜山ニ輸出シタルヲ始メトシ爾來同港ニ於テハ年々本品ノ輸入ヲ見ルニ至リシカ三十六年中ニ於テハ價額約二萬圓ヲ輸入シタリト云フ當時同港ニテハ埋立、鐵道、建築等ニ「セメント」ヲ需用スルノ事業始出セシヲ以テ此等方面ニ向テノ供給ハ決シテ鮮少ナラザリシト雖モ淺野、小野田尤モ販路ノ擴張ニ勉メツ、アリシカ爲メ本縣産ハ之レカ爲メニ販路ノ擴張稍困難ナリシト云フ

三、木 蠟

一、産 額 (三十七年中)	數 量
	二十二萬八千九百九十七貫
	價 額
	三十三萬五千二百二圓

二、主要産地

神 崎 郡 三 養 基 郡

三、製造戸數及職工數

戸 數	二百八十八戸
職 工 數	四百八十七人

四、原料ノ供給

原料蠟質ハ各郡ニ之ヲ産スレトモ就中尤モ多キハ三養基郡ニシテ全體ノ半ヲ占メ神崎、佐賀ノ兩郡順次之ニ次ク

五、販出品仕向先

内地ニアリテハ神戸、大阪、長崎、久留米ヲ主ナル販路トシ海外ニアリテハ獨逸、西班牙、米國等トス

六、製産狀況

佐賀市ヲ除キ各郡皆産セサルハナシト雖モ最モ重ナル産地ハ三養基、神崎ノ二郡ニシテ他郡ヨリ生産スルモノハ兩郡ノ晒業者ニ買收セラレ往年本縣産出ノ晒蠟ニハ種油及灰汁ヲ混入シ以テ量目ノ増加ヲ計リシ惡弊アリシモ三十六年同業組合設置セラレシ以來其弊ヲ絶ツニ至レリ

七、販賣手續

製品ハ仲買商ナルモノアリテ製造家ニ就キ買集ムルヲ例トス製造家ヨリ仲買商ニ賣渡ス時ハ二分ノ入レトシテ百斤ノ賣買ニハ百二斤ヲ渡スヲ例トス晒蠟ニハ入レナシ又製造者ノ内ニハ仲買ヲ兼スル者アリテ直接需用地ト取引ヲナスモノアリ取引ハ地方ニテハ現品ヲ整ヘ手附トナシ兩三日中ニ引取ルモ特約ヲ以テ神戸、大阪等ニ送ルモノハ現品着ノ上爲替ニテ送り來ルカ又ハ出荷ノ際荷爲替ヲ附スルモノアリ信用厚キ當業者ハ現品ヲ檢ムルコトナク各自ノ商標ノミニテ大阪、神戸ト取引スルヲ得ルト云フ

八、内地ニ於ケル商況

戰役中ハ取引不活潑ナリシモ一昨年末以來漸ク盛況ヲ見ルニ至レリ

九、相 場

産地ニ於ケル三十七年中本品ノ相場ハ生蠟一貫目ニ付一圓四十錢内外ニシテ晒蠟ハ一圓六十五錢内外ナリシト云フ

十、荷造法其費用及運搬費

佐賀縣 工 産 品

神崎郡ニテハ正味十六貫目ヲ吸入ニシテ三ヶ所細掛ケ「ホトメ」ニツテ掛ケ各自ノ商標ヲ附ス三養基郡ニテハ四方養細掛ケトシ吸入目方等ハ神崎産ニ同シ晒蠟ハ凡テ箱詰ニシテ目方ハ吸入ト同シク正味百斤ヲ入ル

運搬費	長崎	百貫ニ付	十五	錢
	大阪	全	五十	錢
荷造費用	神戶	全	五十	錢
	全	全	五	錢

十一、輸出狀況

數年以前ヨリ原料櫛實ハ年々減收ノ傾キアリシカ三十七年中ニアリテハ本縣産地ニ於ケル櫛實ノ收獲ハ前年ヨリ一割方ノ減收ニシテ輸出ハ前年ト大差ナカリシガ相場騰貴ノ爲メ價額ニ於テハ却テ増出ノ現象ヲ呈シタリト云フ

四、和紙

一、産額 (三十七年中)

數	量	二萬四千四百四緋
價	額	二十四萬八千五百五十二圓

二、主要産地

- 佐賀郡 (松梅、神野ノ兩村)
- 神崎郡 (仁比山村)
- 三養基郡 (基山村)
- 西松浦郡 (黒川、波多津、大川、南波多村)

東松浦郡 (各村)

- 藤津郡 (鹽田、五丁田、久間、南鹿島、能古見、多良ノ六村)
- 小城郡 (岩松村、崎田村)

三、製造戸數及職工數

戸數	二千二十戸
職工數	四千七十四人

四、原料ノ供給

本縣ノ製紙ハ或ル一部ヲ除クノ外ハ總テ楮皮ヲ原料トシ重ニ熊本縣八代郡ヨリ之ヲ買ヒ來リ尙不足ノ分ハ鹿兒島縣ヨリ之ヲ蒐集ス

五、販出品仕向先

内地ニアリテハ長崎、熊本、福岡、京都、大阪、神戸等ニ販路ヲ有シ外國ニテハ香港、新嘉坡、浦鹽、韓國等トス

六、製産狀況

本縣ニ於ケル製紙業ノ狀態ハ大規模ノ工場組織ノモノナク多クハ農家ノ副業トシテ營マレ農閑ノ餘暇ヲ以テ製産ニ從事スルノ狀況ニテ甚タ盛況ト云フヘカラス製法ハ進歩セス濾器ハ概シテ舊式ヲ用ユレトモ小城、佐賀ノ製紙家ハ新式器械ヲ用ヒ近年實質外形共ニ大ニ面目ヲ改メツ、アリト云フ製品ノ種類ハ美濃紙、半紙、傘紙、天狗紙、コッビー紙、ナブキン紙、雜紙等ニシテ其特色トスル所ハ紙質ノ強韌ニシテ破裂ノ恐ナク能ク保存久シキニ耐ユルニアリ

七、相場

時期及物價ノ高低ニヨリ多少ノ差異アルハ免カレサレトモ三十八年中ニ於ケル美濃紙一緋ノ平均相場ハ一圓八十錢ニ

シテ半紙一締ノ相場ハ二圓内外ナリシト云フ

八、荷造法

美濃紙ハ四百枚ヲ一束トシ五束ヲ一締トシ六締ヲ一九トナス(但シ枚數ハ紙ノ種類ニ依リ異ナルモノト知ルヘシ)是ヲ厚紙ニテ包ミ此一九ノ目方ヲ四貫八百トス運送ノ便否ニヨリ數九ヲ一括トスルコトアリ遠方運搬ノ荷ハ堅ニ二ヶ所横ニ三ヶ所細ヲ以テ結束ス傘紙ハ四十枚ヲ以テ一束トシ十束ヲ一締トス

九、販賣手續

仲買商製造家ニ就テ買集メ或ハ地方商人原料ヲ出シテ其製造ヲ依頼シ或ハ資金ヲ貸付シテ其營業ヲ補助スル等地方商人ト製造家ニハ種々ノ干係ヲ有スルコトアリ小城、佐賀ニ於テハ重ニ仲買商人ノ手ヲ經テ商店ニ送ルカ否ラサレハ製造家直接ニ出荷スルノ例ナリ東西松浦郡ニアリテハ唐津又ハ伊萬里ノ商人ニ委囑スルヲ多シトス

十、輸出狀況

現今海外ニ輸出セララル、モノハ佐賀市ヨリ産出スル天具帖紙、多キヲ占メ其他ハコッピ紙、ナヅキン紙ニシテ何レモ歐米ニ向テ多少ノ輸出アリト雖モ未タ岐阜、土佐ノ如ク多額ノ産出ナキカ爲メ常ニ仲買商人ノ爲メニ利益ヲ謀斷セラ、ノ傾キアリト云フ

五、素 麵

一、産 額 (三十七年中)

數 量	三百七十七萬五千九百九十六斤
價 額	二十四萬七千百十四圓

二、主要産地

神 崎 郡 (神 崎 町)

小 城 郡 (小 城 町)

佐 賀 市

三、製造戸數及職工數

戸 數 四百八十二戸

職 工 數 六千三百六十六人

四、原料ノ供給

小城産ハ手製ヲ主トシ原料ハ其地方産ノ小麦粉ヲ用ヒ神崎産ハ手製及器械製ノ二種アリ原料ハ地方産及長崎産品ヲ用ユ

五、相 場

物價ノ高低ニ依リ多少ノ差異アルヲ免カレザレトモ三十七年中ニ於ケル取引直段ハ手製特別一斤十五錢普通製ノ上等一斤七錢内外ナリ器械製ハ特別一斤十四錢内、外日ノ出上等十錢内外ナリシト云フ

六、販出品仕向地

内地ニアリテハ大分、福岡、長崎、鹿兒島、臺灣等ニシテ海外ニテハ韓國及支那、布哇等ニ輸出ス

七、荷造法

荷造ハ普通品ハ五貫目ヲ木箱ニ入レ上等品ハ紙製ノ箱ニ入レ更ニ之ヲ木箱ニ入ル殊ニ筑前向ノモノニ向テハ七十斤又ハ八十斤ノ俵拵ヘトナスヲ例トス

八、販賣手續

佐賀縣 工産品

小口ノ取引ハ製造所ニ就テナスモノアリ大口ノ取引ニ至リテハ同地素麵改良合資會社ニ依頼シテ取引ヲナスモノ多シ  
神崎ニハ素麵仲買商十數名アリテ是等ハ他地方ノ注文ニヨリ製造家ヲ廻リ製品ヲ買集メテ之ヲ送ルモアリ又ハ買集メ  
タル品ヲ他地方ノ特約店ニ積送リテ賣捌クモアリ代金支拂ハ荷爲替付約束手形等種々得意先ノ如何ニ依リ差異アリト  
云フ

九、製産狀況

本品ハ杵島郡ヲ除クノ外各郡共ニ多少ノ産出ナキニアラサルモ産出多額ニシテ品質良好ナルハ神崎及小城ノ二郡トス  
神崎郡ニテハ神崎町及其附近最モ盛ニシテ小城郡ハ小城町最モ多量ニ産出ス小城産ノ特色ハ貯藏ノ宜シキヲ得レハ數  
年ノ久シキニ至ルモ毫モ品質ヲ損スルノ恐ナキニアリ神崎産ハ一時産額ノ多キヲ越ヒツ、アリシ結果トシテ粗製澁  
ノ弊ヲ生セシガ近年當業者大ニ悟ル所アリテ改良ニ改良ヲ加ヘタル爲メ現今ニテハ小豆島、播州産等ニ一步モ譲ルナ  
キニ至レリ

十、輸出狀況

本品ノ海外ニ販路ヲ有スルニ至リタルハ最近數年以前ノコトニシテ三十七年中ニ於ケル輸出額ハ數量百萬五千九百四  
十八斤價額七萬七千九百九十五圓ナリキ而シテ更ニ之ヲ區別スレハ韓國ノ三萬九千九百九十七圓ヲ最多トシ布哇ノ二  
萬三千六百二圓、米國ノ九千五百十二圓、支那ノ一千二百九圓、順次之ニ次ク埃、英領亞米利加等ニモ少量ノ輸出アリシ  
カ此内本縣産ノ販路ハ韓國ヲ主トシ布哇及支那ニモ少許ノ輸出アリシカ如シ

六、生 糸

一、産 額 (三十七年中)  
數 量 五千六百三十貫

價 額 二十二萬五千五百九十圓

二、主要産地

西松浦郡ヲ除キ各郡市共皆多少ノ産出ナキハナケレトモ就中尤モ盛ナルハ藤津、小城ノ兩郡及東松浦郡ノ三郡トス

三、製造戸數

戸 數 一萬八千九百三十一戸

四、原料ノ供給

本品ノ原料タル繭ハ本縣産出ノモノヲ以テ之ニ充當ス

五、重ナル製産者

東松浦郡 唐 津 長谷川 鑑四郎  
佐 賀 郡 川上村 養蠶製糸傳習所

六、重ナル仲買商

佐 賀 市 中山秀吉 黒田義助  
小 城 郡 江島留三  
佐 賀 郡 平塚米吉

七、製産狀況

本縣本業ノ状態ハ各郡市共ニ大規模ノ工場組織ノモノナク機械製糸場トシテ組織ノ稍大ナルモノハ唯僅カニ唐津及川  
上村ニ二工場ヲ見ルニ止マリ他ハ概テ座繰工場トシテ農家ノ副業ニ屬スルモノ多シ糸質ハ強靱ニシテ光澤ニ富ムト雖  
モ概シテ製品ハ粗大ナルヲ免カレス粒付ハ少キハ八粒ニシテ多キハ二十粒ニ至ルヲアリ普通十粒ノモノ最モ多シトス

佐賀縣 工産品

ス

デニールノ如キモ一定シ居ラサルカ如シ今各郡市ニ於ケル品質ノ優劣ヲ比較スレハ佐賀郡ハ品質優等ノモノナキニアラサルモ概シテ糸質良好ナリト云フヲ得ス大體ニ於テハ藤津、小城最モ良品ヲ出シ之ニ次クモノハ東松浦郡ナリト云フ

八、販路

内地ニアリテハ京都及丹後ニ送リ縮緬製織ノ原料ニ使用セラレ其他ハ大阪及福岡等ニ販路ヲ有ス海外ニアリテハ米國ニ輸出セラル

九、相場

本品ノ價格ハ時期ニ依リ激變アルカ故ニ一定レ難シト雖モ三十七年中産地ニ於ケル平均一貫目ノ相場ハ器械五十五圓、座繰四十五圓位ナリシト云フ

十、販賣手續

仲買商製産者ヨリ現金ニテ買入レ仕向地ニ於テ委託販賣ヲ爲スヲ常トスレトモ相場ノ如何ニヨリ着荷ノ上爲替送金ノ法ニ依ルモノモアリ外國輸出ニアツテハ此等仲買商ヨリ更ニ横濱港ニ於ケル輸出仲買商人ニ賣込ミ輸出内商又ハ外商ノ手ヲ經テ海外ニ輸送セラル

十一、荷造方法及運搬費

荷造ハ十貫目ヲ一梱トナシ傘紙ニテ包ミ更ニ席包トナシ繩締ヲナス荷送りハ汽車便ニ依リ其運賃左ノ如シ

十貫目一梱	京都	一圓五十錢
	大阪	一圓五十錢

福岡 七十錢

十二、輸出狀況

本縣ニ於テハ器械製糸場少ナキ爲メ外國向製糸ノ産出多カラス三十七年中ニ於テハ僅カニ五千圓内外ヲ海外ニ輸出シタルカ如シ

(ロ) 重要工産品

本縣産出ノ工産品ニシテ年産額十萬圓以上ニ上リ縣下ニ於テ重要工産品ト認めラル、モノハ左ノ七種ニシテ以下各品目ニ就キ之レカ概況ヲ叙述スヘシ

- 一、清酒
- 二、醬油
- 三、製粉
- 四、鐵工品及諸器械
- 五、油
- 六、吹
- 七、織物

一、清酒

佐賀縣 重要工産品

一、産額 (二十七年中)

數量 五萬三千五百七十六石  
價額 二百七萬七千五百三十六圓

二、主要産地

佐賀市 佐賀郡 藤津郡 東松浦郡

三、製造戸數及職工數

戸數 百五十五戸  
職工數 三百八十八人

四、販路

大阪、長崎、鹿兒島、熊本、佐世保等

五、相場

時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ差アルヲ免カレサントモ三十八年中ニ於ケル平均一石ノ相場ハ二十八圓八十錢ナリシト云フ

六、販買手續

製造家ハ各自小賣ヲナサ、ルハ殆ント稀ナリ地賣ニハ仲買商アリテ製造家ニ付買入ヲナシ小賣商ニ賣渡スヲ例トス取引ハ重ニ現金ナルモ往々延取引ヲナスコトアリ縣外輸出ハ地方商人ト特約シ又ハ支店出張店ヲ開キ直接ニ積送スルモノ多シ

七、製産狀況

縣下各郡市共ニ之ヲ産出スレトモ其中最モ多額ヲ占ムルハ佐賀市及佐賀郡、東松浦郡ニシテ藤津郡之ニ亞ク然レトモ品質醇良且ツ其香氣ノ佳ナルハ佐賀市及佐賀郡ヲ以テ最トス同地方ノ産ハ灘ノ清酒ニ比シテ色モ遜色ナシト云フ之レニ次クモノハ藤津郡ナリト雖モ一般嗜好ノ趨勢ハ醇良ナルヲ好ムノ傾キアルカ故各郡共ニ清酒ノ品位ハ年々其歩ヲ進メツ、アリ遺石高ノ如キ追年増加ノ傾向アリシカ酒造税法發布以後ハ増石ヲ見合スルモノアルニ至レリ

一、醬油

一、産額 (二十七年中)  
數量 四萬五百四十六名  
價額 五十六萬二千三百十九圓

二、主要産地

佐賀市、佐賀郡、藤津郡、小城郡、神崎郡

三、製造戸數及職工數

戸數 五十九戸  
職工數 百五十二人

四、販路

福岡、長崎、鹿兒島

五、相場

時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ差アルヲ免カレサントモ三十八年中ニ於ケル平均一石ノ相場ハ大約十二圓位ナリシト云フ

六、製産状況

縣内各郡市ニ於テ之ヲ産スレトモ就中醸造ノ盛ナルハ藤津郡及小城郡ナリトス六七年以前ニアリテハ本縣産ハ常ニ福岡産ニ壓倒セラレ年々販路狭少トナルノ傾キアリシカ改良ニ意ヲ用ヒタル結果トシテ現今ニテハ良品ヲ醸出シ生産ノ三割ハ縣外ニ販出セラル、ニ至レリト云フ

三、製粉

一、産額 (三十七年中)

數量 六百七十四千二百八十二斤

價額 三十八萬六千七百五十八圓

二、主要産地

神崎郡 (仁比山村、東春振村)

三養基郡 (田代村、籠村、中原村)

佐賀郡 (梅松村、川上村)

三、製造戸數 五百三十七戸

四、販路

門司、福岡等

五、相場

三十八年中ニ於ケル平均一斤ノ卸直段ハ五圓六厘位ナリキ

六、製産状況

本業ハ本縣ニ於テ最モ香ク發達シタル家内工業ニシテ從業者ノ多クハ專業ニ屬シ銳意製産ニ從事シツ、アリ原料小麦ハ縣下ノ産品ヲ以テ之ニ充當セラレ故テ不足ヲ感スルコトナシ而シテ製品ノ多クハ素麵原料トシテ縣下素麵業者ニ供給シ一面農家ノ需用ニ應シ而シテ縣外ニ輸出スルモノハ僅ニ産額ノ一部分タル百五十萬斤内外ニ過キスト云フ

四、鐵工品及諸器械

産額 (三十七年中)

價額 三十萬二千五百圓

内譯

谷口鐵工場 二十一萬五千圓

真崎鐵工場 七方圓

佐賀機械製造所 一萬七千五百圓

(一) 谷口鐵工所

一、工場主

佐賀市 谷口清八

二、職工數

二百五十八人

三、工數坪數

佐賀縣 重要工産品

總坪數

二千百坪

百四

四、石炭消費高

粉炭	百二十五萬斤
塊炭	五十七萬斤

五、重ナル製作品

鐵山用撰炭機、捲揚器械、唧筒、鐵管、蒸氣々罐、原働器其他諸機械等ナリ彼ノ元寇紀念トシテ博多東公園ニ建設シアル龜山上皇御銅像及日蓮上人銅像ハ何レモ本工場ノ製作ニシテ目下製造中ノ主ナルモノハ大阪、他兵工廠ノ注文ニ係ル十五瓏米臼砲、破甲榴彈々体底螺及坑山用捲揚器械并ニ排水用鑄鐵管、蒸氣々罐等ナリ

六、最近數年ニ於ケル製産高

三十三年	十四萬圓
三十四年	十三萬圓
三十五年	八萬九千圓
三十六年	七萬五千圓
三十七年	二十一萬五千圓

七、販路

筑豊ニ於ケル三井、三菱、住友、古河所有ノ各鐵山及其他ノ鐵山

八、操業ノ概況

去ル二十六年以後各地鐵山好況ニ向フニ連レ本工場ハ大ニ多忙ヲ極メ從來ノ工場狹隘ヲ感スルニ至リ三十一年鑄物

工場、鍛工場等ヲ改築シ更ニ機械ヲ増設セシカ三十二年ニ至リテハ若シク鐵山用機械ノ需用ヲ増シタル爲メ三十三年更ニ瀛艦ヲ改造シテ馬力ヲ増加シ製鐵工場ヲ建築シ製鐵部ノ擴張ヲ圖リ發電機ヲ据ヘ付ケ爾來晝夜ヲ分タズ製作ニ從事シ居レルカ肥、筑、豊ニ於ケル採炭事業ノ發達ニ伴ヒ將來益盛況ニ赴キツ、アリ

(二) 真崎鐵工場

一、工場主

佐賀郡	巨勢村	真崎照卿
-----	-----	------

二、職工數

時ニ依リ多少ノ異動アルモ概ネ八十名以上百三十名以内ノ職工ヲ使用ス

三、重ナル製作品

鐵山用諸器械、石油發動機、車輛、鐵棚其他工業用及家具鐵器類等ナルカ其中最モ特長熟達セルモノヲ舉クレハ石油發動器及麵類製造器械トシ其製作ノ最モ多キハ製麵機ニシテ大阪支場ノ分ヲ合セテ一ケ年間大約三百臺乃至五百臺價額約三萬圓乃至五萬圓ナリトス

四、販路

販賣先ハ九州ヲ最トシ四國、中國、近畿地方ヨリ關東、東北、山陰、北陸地方ニ及フ

五、取引ノ慣例

取引ハ需用者直接來場シ或ハ書信ヲ以テ種別、價額等ヲ約束シテ取引スルモノアリ然レトモ其初メテ製麵機ヲ購フ者ニシテ從來素地製造上經驗ナキ向ニ對シテハ特ニ場員ヲ派シテ器械ノ運轉使用ヨリ製麵ノ順序方法等ニ至ル迄詳細ニ説示スト云フ



六、操業概況

工場ハ總テ三百坪ニシテ之ヲ鑄物、大造旋盤、木工及仕上ノ五部ニ分チ中央ニ五馬力乃至七馬力ノ石油發動器二臺ヲ置キ各種旋盤旋風機、給水唧筒其他諸器械ヲ運轉使用セリ蓋シ場主ノ發明セル器械類ハ種々アリト雖モ測量器械、製蠟器械及製麵器械ハ殊ニ實用有益ト稱セラル就中製麵器械ノ如キハ明治九年發明創造以來今日ニ至ル迄幾多ノ進歩改良ヲ加ヘ今ヤ殆ト完全ノ域ニ達セリト云フ

(三) 佐賀機械製造所

一、工場主

佐賀市 野口健藏

二、工場坪數及建物

總坪數 百七十坪  
建物

組立工場、仕上工場、鑄物工場、木工工場、塗物工場、鍍金工場、試驗場、製圖場

三、工場設備重要諸器械

齒輪製造器械 五 臺  
旋盤 大小 一 臺  
二馬力汽機及機籠 一 臺  
一、五馬力鍍金用ダイナモ 一 臺

絶縁電線製造器械 二 臺  
線輪捲器械 四 臺  
電氣抵抗箱 一 個  
標準用電氣計 二 個  
變壓器 二 個  
玻璃車製造機械 一 臺  
琢磨器械 一 臺  
醫用器剪刀類研器械 一 臺

四、職工數

四十八人

五、主ナル製作品

實用電氣諸器械  
醫用諸器械  
消防唧筒  
化學用諸器械  
其他學術用諸器械

六、販路

京都大學、東京高等師範學校、各地高等學校、海軍兵學校、其他中國四國九州各地ノ中等教育諸學校ヲ始メトシ韓國

佐賀縣 重要工業品

ハモ輸出シ居レリ

七、取引慣例

當所ノ取引ハ其注文ニ依リテ之ヲ製スルモノナレハ其注文者ノ信用如何ニヨリ現金、後拂若クハ一部手附金ヲ徴スル等一定セス

八、工業ノ沿革及操業ノ概況

明治十一年醫術機械ノ製作ヲ創メシヨリ以來翌十二年ニハ時計ノ製造ヲ加ヘテ十五年醫用電氣器教育用物理諸器械ノ製造ヲナシ二十一年風琴、寫真器、幻燈器ヲ製造シ二十六年實用電氣諸器械ノ製造ヲ爲ス等年一年ト業務ヲ擴張シ殊ニ近時我邦ニテハ未タ製造普カラサル自動「エレフスタット」器、「エツキス」光線器、無線電信機械等ノ如キハ最モ完全ノ製作ヲナシ其巧妙精緻殆ント舶來品ヲ凌カントスルモノアリ

五、茶種油

一、産額 (三十七年中)

數 量 四千六百七十三名  
價 額 十五萬五千三百六十六圓

二、主要産地

各都市ニ之ヲ産スレトモ就中尤モ盛ナルハ神崎郡千歲村トス

三、製造戸數及職工數

戸 數 二百五十四戸  
職 工 數 二百二十六人

四、販路及販出額

本品ハ重ニ縣内ニ於テ消費セラレ縣外ニ於テハ福岡縣下ニ於ケル炭山ヲ最上ノ得意トシ其他大阪、長崎地方へモ販路ヲ有ス縣外販出額ハ一年約四萬圓内外ナルカ如シ

五、製産狀況

本業ハ農家ノ副業トシテ兼營セラレ、モノ多ク製産者ハ農家ノ茶種ヲ油ト交換シ油粕ヲ製産者ノ利益トスルカ如キ習慣ナリ而シテ其交換ノ割合ハ油一升ニ付茶種四斗ニ合テ得ルニアリト云フ左レハ油粕價格ノ高低如何ハ本業者ニ取リテハ實ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナリト云フ

六、収

一、産額 (三十七年中)

數 量 二百八十五萬百五十六枚  
價 額 十三萬八千五百九十一圓

二、主要産地

佐賀郡 (兵庫村、巨勢村)  
神崎郡 (境野村、蓮池村)

三、製造戸數及職工數

戸 數 二千七百五十戸  
職 工 數 四千二百二十五人

四、販路

佐賀縣 重要工産品

五、製産狀況  
長崎、佐世保、福岡等

農家ノ副業トシテ管マレ各戸ノ壯丁農業ノ餘暇ヲ以テ之ニ從事シ原料藁ハ重ニ各自ノ産品ヲ使用シテ製産ニ従事スルモノナレハ利益莫大ナラサルモ原料及労働賃銀等ノ爲メニ製産不引合トナルノ憂ナキカ故ニ本業ハ最近ノ事業ナレトモ年々秩序的ニ發達シ産額増加シツ、アリト云フ

七、織物

産額 (三十七年中)

十萬七千七百六十圓

價額

内譯

綿 一萬二千圓

傘 二萬圓

三養基 二萬八千五百圓

其他 四萬七千二百六十圓

(一) 綿 一萬二千圓

一、製産者

佐賀市 厚生舎

二、職工數及製織機數

職工 二十四人

徒弟 百六人

機數 百三十臺

三、販路

長崎、佐世保、熊本、福岡、久留米

四、取引方法

製品ハ佐賀市「ネル」商大島貞七氏一手販賣ヲ爲セリ取引ハ延賣リ現金又ハ約束手形等取引先ニ依リテ異ルモ普通現金ナリトス

五、工業ノ沿革及製産概況

厚生舎ハ明治二十九年ノ創立ニシテ其初メニ於テハ織成起毛及染色ノ専門家ヲ京都西陣ヨリ聘シ染料ハ「アリザリン」「アニリン」等ノ類ヲ用ヒ佐賀綿「ネル」ノ織製ヲ開始セリ三十二年原動力四馬力ノ起毛機械ヲ据付ケ製産ニ従事シタルハ品位大ニ揚カリ販路年々逐フテ擴張セラレタリト云フ

(二) 傘 絹

一、製産者

杵島郡武雄町 千綿傘絹工場

二、機臺及職工數

機臺現時卅余臺アリ此内佛國機十臺ニシテ其他ハ普通高機ト稱スルモノ及ヒ「ドビー」式装置ノ器械機等ナリ職工目下四十余名アリ近年工場狹隘ヲ告ケ養成人員ノ數ヲ減セリ

三、販路

佐賀縣 重要工産品

大阪ヲ主トシ長崎、福岡、熊本諸縣下ニ販路ヲ有ス

四、取引ノ慣例

大阪ニ送ルモノハ佐賀市大間商店ノ手ヲ經テ大阪ノ取引商店ニ引渡シ代金ハ爲替送金又ハ大間商店ヨリ現金ニテ受取  
リ其他ハ總テ現金ナリ

五、事業ノ沿革及製産ノ概況

本工場ハ明治三十年始メテ操業ヲ成セリ當時ハ京都及長崎ヨリ熟練ナル職工二十余名ヲ雇入レ機織ノ傍ラ生徒ノ養成  
ニ勉メタリト云フ現今使用セル原料ハ鹿兒島、熊本等ヨリ輸入シ染色ハ獨逸ノ染色法ニ則リ研究ノ結果一種ノ化學的  
染色法ヲ發見シ機織ハ佛國式金箆ヲ用ヒ製品ハ堅牢ニシテ洋傘ニ仕立テ堅裂クノ恐レナク日光ニ晒サレ雨ニ打タレテ  
少シモ變色褪色ノ患レナク能ク久シキニ耐ヘ近年上方地方ニ本工場製品ヲ用ユルモノ漸ク多キニ至レリト云フ

(三) 三 養 基 綯

一、産 地

三 養 基 郡

二、主ナル製織家

北 茂 安 村

(城尾儀太郎、

筒井又吉、

行武駒吉)

田 代 村

(片山勇助、

西尾久米吉、

石井森太郎)

三、販 路

久 留 米、福 岡、熊 木、長 崎 等

四、事業ノ沿革及製産狀況

事業ノ開始ハ明治二十年頃ニシテ二十七八年ハ最モ盛況ヲ極メ最近ノ年産額ハ二萬反内外ニシテ價額二萬一千圓ナリ  
左レトモ製織家ノ多數ハ久留米市ニ持出シ久留米綯ノ「レツタル」ニ依テ世間ニ紹介セラレハ三養基綯ノ名ハ世ニ現  
ハレス尙産額ノ内久留米市ヲ經スシテ直接販出セラル、モノ約六千六百反ニシテ價額七千五百余圓ナリト云フ本品ノ  
一種吉野織ト稱スルモノハ近年少額ノ輸出ヲ清國ニ見將來稍有望ナルガ如シ

# 熊本縣

## (一) 産業概説

本縣ノ生産ニ於テ其首位ヲ占ムルモノハ均シク農産ニシテ縣生産總額四千三百餘萬圓ニ對シ農産ノ收利ハ實ニ三千百餘萬圓ニシテ殆ント生産總額四分ノ三ニ達セリ則チ本縣經濟上ノ基礎ハ是レヲ農産ニ待タサルヘカラサルヤ知ル可キ而已  
今三十七年ニ於ケル統計ニ因リ其縣力ヲ示セハ左ノ如シ

### 熊本縣生産

農産	三千百六十五萬圓
工業	七百六十一萬圓
林産	二百十四萬圓
水産	百六十二萬圓
鑛産	三十六萬圓
畜産	十八萬圓
合計	四千三百五十六萬圓

以上各生産ニ對シ其狀況ヲ略叙シ以テ本縣産業上ノ趨勢ヲト知セントス

本縣ノ農産ハ米穀ヲ以テ其主要トス所謂肥後米ノ聲價ハ今尙ホ他ノ米産地ヲ凌駕シ益々其需要ヲ増進スルノ状態ニシテ一ヶ年ノ生産額平均一百萬石乃至一百五十萬石ノ間ニ在リ縣外輸出ハ五十萬石ヲ下ラス明治三十一年肥後米輸出同業組合ノ組織成リ其事業トシテハ専ラ輸出米検査ヲ勵行シ且當業者間ニ於ケル惡弊習慣ヲ矯正スルニ努メ又縣ニ於テハ命令

ヲ以テ取締規則ヲ制定シ是レカ生産上ノ弊害ヲ除キ一面ニ於テハ産米改良ノ方法ヲ奨励シ遂次其發展ヲ企圖シ、アリ  
 其他大小麥、雜穀、養蠶ノ收利ヲ合シ農産總額三千餘萬圓ノ生産ナリトス農産ニ亞クモノ工産ニシテ(別項ニ記述セリ)  
 之ニ亞クモノ林産ニシテ三十七年ノ生産二百萬圓ニ對シ木材及樟丸ノ産出ハ九十三萬三千七百圓ヲ算シ又椎茸、竹材、  
 樟腦、漆汁、木炭及薪材ノ副産物ヲ合シ八十七萬圓ニ及ヘリ本縣ノ林業ハ彼ノ鹿兒島、宮崎、大分ノ各縣下其趣ヲ異ニ  
 シ交通至便ノ結果需要供給ノ滑カナルタメ一般ノ民有林ハ漸次濫伐ノ餘弊ヲ受ルニ至レルヲ以テ目下縣事業トシテ模範  
 林及苗圃ノ經營ヲ企圖シ大ニ植林ノ奨励ヲ行ヒツ、アリ林業ニ亞クモノ水産ニシテ一ヶ年ノ産額百六十二萬圓中主要ノ  
 生産品ハ製鹽三十萬八千圓、干鰯二十三萬四千圓、鮭七萬七千圓及其他ノ水産製品ニ於テ八十九萬二千四百圓ヲ算セリ  
 本縣ノ漁業タル沿岸線二百五十里ニ涉リ漁戶ノ數一萬六千三百餘戸ニシテ全戸數ノ約十分ノ一ニ當リ漁業ノ利益亦比較  
 的多ク殊ニ近年縣費ノ補助ヲ以テ遠洋漁業ヲ奨励シ現ニ三十七年ノ如キハ南緯地方ニ出漁セル漁業船三百艘ノ多キニ及  
 ヘリ同縣漁業ノ前途ハ將來大ニ發展ノ餘地ヲ有スルモノト言フヘシ水産ニ亞クモノ蠶産ニシテ其主産物ハ銅鑽ナリトス  
 産地ハ球磨郡五木、深田ノ二ヶ所ニシテ一ヶ年ノ産額三十六萬圓内外ニ過キス事業微々トシテ未タ其進境ヲ見ス  
 本縣商工業ノ狀況ハ依然舊態ヲ脱セス隨テ觀ルニ足ルモノナシト雖之ヲ大分、宮崎、鹿兒島ノ各縣ニ比スレハ大ヒニ伸  
 張ノ蹟アルハ爭フ可ラサルノ事實ナリトス是レ本縣ハ古來九州ニ於ケル雄藩ノ一タリシモノ之カ一原因ナルヘキモ而モ  
 本縣ニ於ケル海陸交通ハ他ノ數縣ニ比較シ至便ノ地位ニアルカタメ其發展ヲ促進シタルニ外ナラサルモノト信ス雖然本  
 縣ハ古來農業ヲ以テ唯一ノ縣是トシ商工業ハ總カニ熊本市中中心トシテ他ノ都市ニ於テモ單ニ内國貿易ニ甘ンズルノ狀  
 態ニアリ殊ニ工業ニ於テハ其原料ノ生産比較の少キト海外ノ嗜好需要ニ通曉セサルトニ依リ在來の工業ハ依然舊習ヲ墨  
 守シテ改良ヲ見ルニ至ラス又新興的工業トシテハ僅カニ洋紙、紡績絲、セメント等ノ二三ニ過キササルヲ以テ其一ヶ年ノ  
 生産額ニ於テモ各種工産品ヲ合シ約七百萬圓ニシテ各品ノ生産額ヲ示セハ左ノ如シ

工産品調 (三十七年)

清酒	二百二十四萬圓
生糸	百十八萬圓
洋紙	六十一萬圓
醬油	五十萬圓
紡績糸	四十三萬七千圓
製茶	三十九萬圓
織物	二十九萬圓
油類 (菜種油)	二十四萬圓
セメント	二十一萬圓
和紙	二十萬圓
木蠟	十九萬八千圓
砂糖	十七萬六千圓
鹽表、吳藍	十萬圓
木製細工	四萬九千圓
麵類	五萬四千圓
麥稈灰田及製品	四萬二千圓
竹細工	二萬八千圓

熊本縣

産業概況

革類	二萬五千圓
陶磁器	一萬九千圓
團扇	一萬五千圓
漆器	九千九百圓
合計	七萬一萬二千九百圓

以上ノ外特用農産物トシテ左ノ原料品ヲ生産ス

製麻 約四十萬圓

以上工産品中輸出工産品トシテ見ルヘキモノハ生糸、洋紙(係ニ其一部分)紡績糸、製茶、木蠟、麥稈真田ノ數品ニ過キス其大體ニ付概説スレハ産額ノ最高位ヲ占ムル清酒ハ重ニ縣内ノ需要ニ止マリ尙ホ他縣ヨリ輸入ヲ仰クノ状態ニアリ生糸ハ海外ノ商況相場ノ變動ニ依リ一進一退殆ント事業ノ消長ヲト知シ難キモ未タ事業ノ發展ヲ見ルニ至ラス紡績糸ハ單ニ鐘紡分工場ノ所在地トシテ經營シツ、アルニ過キスシテ縣ノ純生産品トシテ見ル能ハサルモノトス醬油製油ハ縣内消費ノ外多少管外ニ輸出セラル、モ其額僅少ニシテ算フルニ足ラス然レトモ醬油ハ本縣ノ主要生産品トシテ漸次販路ヲ擴張スルノ狀況ニアリ將來多少ノ望ヲ屬スルニ足ル洋紙製造業ハ近年ノ創始ニ係リ其規模未タ大ナラスト雖生産上器械力ヲ利用シ其施設見ル可キモノアリ目下一ケ年ノ生産額六十五萬圓ニシテ其販路ハ九州各縣及京阪地方ニ及ヒ且幾部分ハ清韓地方ニ輸出ヲ見ルニ至レリ斯業ノ前途ハ頗ル好望ノモノト認ム製茶ハ縣下各郡ニ亘リ連綿タル幾十里ノ山野ニ叢生セル天然茶ヲ摘採シテ製造スルモノニ係リ其原料極メテ豊富ニシテ當業者ノ言フ所ニヨレハ一ケ年優ニ八百萬斤以上ヲ生産シ得ヘシト云フ然ルニ從來産出セルモノハ之カ製法ニ於テ毫モ改良ヲ加ヘス單ニ粗製濫造ノ綠茶ノミヲ製造セルカ爲メ其製品ハ需要者ノ嗜好ニ伴ハス爲ニ販路閉塞價格低落シテ一時不振ノ境遇ニ陥リシカ明治二十一年各郡ニ茶業組合ヲ設ケ專

ラ生産ノ統一ヲ圖リ且當業者協同シテ紅茶ノ製造ニ苦心シ支那人ヲ僱聘シテ紅茶傳習所ヲ設ケ數年間縣費ノ補助ヲ仰キ明治三十一年ニ至リ肥後製茶共同販賣合資會社ヲ設立ヲ見爾後海外ノ市況ニ伴ヒ一盛一衰事業ノ前途尙尙備侃スヘカラサルモノアリト雖現下海外輸出ニ係ルモノ綠茶ニ於テ二十五萬圓内外紅茶、磚茶ニ於テ四萬圓内外ニ及ヘリ然リ而シテ一昨年來日露戰役ノ結果トシテ露領西比利亞地方ノ輸出殆ント杜絶セルカタメ價格暴落一時非常ノ逆境ニ陥リ今尙ホ創復

態ヘサルノ狀況ニアリ然レトモ製茶ノ前途ハ本縣重要輸出品トシテ將來大ニ好望ノ事業ニ屬セリ以上ノ外一ケ年ノ産額十萬圓以上ノモノハ織物、セメント、和紙、木臘、砂糖、蠟燭及花莖類ニシテ織物ハ絹及絹綿交織ニ於テ一ケ年十二萬五千圓綿織物ニ於テ十七萬圓ヲ産出シ其製品ハ重ニ縣内ニ於テ需要セラル事業ノ前途ハ萎靡不振殆ント舊態ヲ脱セサルノ狀況ナリトス「セメント」ハ日本セメント株式會社ノ經營ニシテ八代郡八代町ニ工場ヲ有シ一ケ年約二十二萬圓内外ヲ生産セリ多クハ縣内ノ需要ニ供セラル、モ一部分ハ縣外ニ輸出セリ前途稍好望ノ事業ニ屬セリ木蠟ハ其主産地熊本市及他託郡ニシテ原料ハ幾分他縣ヨリ供給ヲ仰ケリ現時肥後蠟燭株式會社ニ於テハ新式ノ機械ヲ購入シ着々事業ノ發展ヲ圖レリ其他個人經營ノモノモ漸次改良ヲ加ヘ需要亦増加ノ傾向ヲ來セリ和紙ハ半紙、美濃紙其他ノ雜紙類ニシテ既往ニ於テハ筑後式製法ニ據レルモ近來土佐式ニ法リ大ニ製造上ニ改善ヲ加ヘ且縣下上益城郡ノ如キハ産業組合ヲ設置シ共同一致改良ヲ圖リ事業稍見ル可キモノアリ然レトモ其販路ハ凡テ縣内需要ニ供セラル、ニ過キス砂糖ハ縣下宇土郡及天草郡ニ於ケル農家ノ副業ニシテ原料ハ總テ甘蔗ヲ用ヒ其製品ハ總テ縣内ノ需要ニ供スルニ過キス事業幼穉ニシテ漸次退歩ノ狀況ニアリ蠟燭及花莖ハ主産地熊本、他託、宇土、下益城、八代ノ一市四郡ニシテ是亦農家ノ副業ニシテ蠟燭、吳莖類ハ多少縣外ニ輸出シ花莖ハ神戸ヲ經テ海外ノ需要ニ供セリ近年其製織ニ改良ヲ加ヘ稍好況ニ傾キツ、アリ

以上ノ外産額ノ僅少ナルモノトシテハ木製細工、麵類、麥稈及經木真田並其製品、竹細工、革類、陶器、團扇、漆器等

ノ各種ニシテ麵類ハ本縣特有生産品トシテ器械及手製ヲ以テ製出シ需要ハ縣内ニ於テ約四割ヲ消費シ他ハ大阪地方及九州各地へ輸出セリ經木真田ハ昨年十月縣下菊池郡ニ於テ試製セシヲ嚆矢トス其品質ノ佳良ナルト色澤優美ナルハ本縣ノ特色トシテ大ニ世間ノ好評ヲ得本縣亦其有望ナルヲ認メ若々獎勵ヲ加ヘタル結果漸次生産ヲ増加スルニ至レリ殊ニ原料ノ供給無盡蔵ニシテ海外輸出ノ道増進スルニ於テハ將來益々發展ヲ見ルベキヲ信ス麥稈真田ハ熊本、菊池、玉名ノ一市二郡ニ於テ生産シ本縣新興ノ事業トシテ目下五萬圓内外ノ生産ヲ見將來海外ノ需要ニ伴ヒ輸出重要品ノ一タルヲ失ハス原料ハ縣下生産ノモノヲ用ヒ色澤佳良ノ故ヲ以テ大ニ需要地ノ賞讃ヲ得近年逐次其發達ヲ見ルニ至レリ同製品ハ重ニ縣内中流以下ノ人士ニ供用セラレ其價格廉ナルカ爲メ漸次需要ヲ増加スルノ傾向ナリトス陶器ハ一ハ高田燒ト稱シ縣下八代郡高田村ノ生産ニシテ古來ヨリ特有生産品トシテ内國需要ニ供セラレ一ハ天草燒ト稱シ近年ノ創設事業トシテ縣下天草郡ノ製出ニ係リ製品良好ノモノナキニ非ルモ價格比較的低廉ナラサルト其製品一般ノ嗜好ニ投セサルトニ依リ販路狹少未タ進歩ノ域ニ達セズ昨年來富業者ノ重ナルモノハ頻リニ其改良ニ傾意シツ、アルヲ以テ漸次市場ニ活氣ヲ呈スヘキ望ヲ有セリ團扇ハ古來ヨリ縣下熊本市、鹿本郡ノ生産ニシテ種類ハ漆引、蠟引、白張等ノ各種ヲ製出シ兩三年前ヨリ稍需要ヲ増加セルモ製品拙劣ナルト内國向ナルカ爲メ將來發展ノ望少カルヘキヲ信ス

以上繰陳セルカ如ク本縣ノ商工業ハ單ニ内國需要品ノ生産地トシテ各種ノ工産品ヲ製出シツ、アルニ過キス而ルニ其狀態ハ依然舊套ヲ脱セズ幾ニ二三ノ工産品ヲ除クノ外委靡不振觀ルニ足ルモノナキノ狀況ニアリ願フニ本縣ノ現時ハ農業ヲ以テ是レカ主腦トセサル可ヲサルハ既ニ統計ノ表示スル處ニシテ之ト同時ニ商工業ノ前途ハ未タ甚タ遠慮ナリト言ハサル可ラス然レトモ彼ノ洋紙ノ如キ「セメント」ノ如キ若クハ麥稈經木真田ノ如キ製茶ノ如キ木蠟ノ如キ海外輸出品トシテ將來大ニ望ヲ繫クニ足ル而シテ是等各品ノ前途ハ海外ニ於ケル需要ノ如何ニ伴ヒ業務ノ消長ヲ見ルハ素ヨリ言フヲ須タサル處ナルモ現時ノ趨勢ニ於テ漸次ニ發展ノ狀態ニアルハ本縣ノ爲メ甚タ喜ブヘキコトナルヲ信ス

(二) 工 産 品

(イ) 輸 出 工 産 品

本縣下産出ノ工産品ニシテ現ニ海外ニ輸出セラル、モノハ左ノ四種ニシテ以下順次ニ各品目ノ製産狀況及販路等ヲ詳述ス

- 一、生 糸
- 二、洋 紙
- 三、製 茶
- 四、木 蠟

一、生 糸

一、産 額 (三十七年)	二萬二千九百九十貫
數 量	
價 額	百十四萬九千五百圓

二、主要産地

- 熊本市 飽託郡 玉名郡 鹿本郡 菊池郡 上益城郡
- 下益城郡 天草郡

三、主ナル製産者

熊本縣 工産品



- 熊本市 肥後製糸株式会社
- 全 美作製糸合資會社
- 全 肥後生糸合資會社
- 飽託郡 熊本製糸株式會社
- 全 島崎製糸株式會社
- 鹿本郡 山鹿生糸株式會社
- 下益城郡 松岡製糸場
- 八代郡 關製糸場
- 球磨郡 川代製糸場

四、製造戸數  
一萬九千九百五十戸

五、原料ノ供給

原料ハ縣下各郡ヨリ産出ノ繭ヲ用ユ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ京都福井ノ機業地ニ販路ヲ有シ外國ニアリテハ米國及佛伊等ノ歐州諸邦ニ輸出ス

七、製産狀況

本縣ノ製糸業ハ發達業ノ發達ト相伴ヒテ年々盛大ニ赴キ現今ニテハ機械工場組織ノモノ九箇所、組合ヲ組織シテ簡單ナル機械製糸ヲナスモノ二十四ヶ所其他ハ皆家内工業ニシテ座繰ヲ用ヒテ製産シ居レリ一般ニ品質ハ漸次ニ改善セラ

レ産額亦年々増加ノ傾向ヲ有セリ

八、相場

三十七年中ニ於ケル器械製糸平均百斤ノ相場ハ九百五十圓位ナリシト云フ

九、輸出狀況

年々産額ノ増加ト共ニ海外輸出額モ増大トナリ三十七年中ニ於テハ二百八十捆ヲ輸出スルニ至レリ販賣ハ製産者直接ニ或ハ仲買商人ノ手ヲ經テ横濱輸出仲買人ノ手ニ渡リ夫ヨリ海外ニ輸出セラレ

一、洋紙

一、産額 (三十七年)

數 量 一千萬封

價 額 六十一萬一千九百三十六圓

二、製産者

八代郡上松球摩村 九州製糸株式會社

三、職工數及使用馬力

職 工 男 百九十六人

女 九十六人

使用馬力 二百十馬力

四、原料ノ供給

原料ハ繭ヲ主トシ襪襪ヲ之ニ交ユルモノニシテ其供給ノ大部ヲ縣下各郡市ニ仰ク

熊本縣 工業品

五、相場

三十七年中ニ於ケル産地ノ相場ハ百封度ニ付平均六圓ナリシト云フ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ九州各縣及京坂地方ニシテ海外ニ於テハ清韓兩國ニ輸出ス

七、製産狀況

本會社ノ創立ハ明治二十九年ニシテ現ニ資本金八十二萬圓ヲ有シ原動力ヲ主トシテ水力ニ取り尙ホ不足ノ部分ヲ蒸氣力ニ依リテ補ヘリ近年洋紙ノ需用ハ一年ニ増大トナリ到底供給ハ需用ヲ充タスニ足ラサルノ狀況ニテ本會社ノ業務ハ近年盛況ニ向ヒツ、アリ

八、輸出狀況

本品ノ輸出ハ主トシテ清韓兩國ナルカ韓國向積紙ハ三十七年中ニ於テハ同國農作ノ豊稔、京釜鐵道工事、我駐屯軍等ノ爲メ購買力ヲ増進シタル結果トシテ輸出激增シタルモ清國向ニアリテハ戰爭開始以來内地ニ於ケル新聞紙ノ需用多カリシ爲メ自然輸出減退トナリシモ本年ニアリテハ再ヒ輸出ヲ爲スニ至レリト云フ

二、製 茶

一、産 額 (三十八年)

數 量	二十九萬貫
價 額	五十四萬二千六百七十九圓

二、主要産地

紅 茶	熊本市、飽託郡
-----	---------

磚 茶	飽託郡、下益城郡
煎 茶	上益城郡、鹿本郡、球磨郡、八代郡

三、製造戸數

一萬七千六百四十九戸

四、原料ノ供給

原料ハ上益城ノ一部ヲ除クノ外總テ天然茶ヲ用ユ

五、製産狀況

本縣製茶ノ原料ハ概テ天然山茶ニシテ鹿本、阿蘇郡ヨリ八代、球磨ノ諸郡ニ亘ル幾十里ノ山野ハ天然茶ノ發生セサル所ナク優ニ八百萬斤以上ノ製品ヲ産出シ得ヘシト云フ然ルニ從來ノ製茶ハ製法粗惡ニ流レ需用者ノ嗜好ニ投セサルノ嫌アリシカ紅茶傳習所ヲ設置シ製品ノ改良ヲ企圖セシ結果紅茶ニ就テハ稍良好ナル成績ヲ見ルヲ得其後肥後製茶共同販賣台資會社ノ設立アリテヨリ磚茶ノ製法モ大ニ改良セラレ本縣ニ於ケル製茶事業ハ年々盛況ニ進ミ内地及外國ノ市場ニ販出セラル、ニ至レリ

販出品仕向先

内地ニアリテハ縣下ノ需用ヲ主トシ大阪、神戸、琉球ニ販路ヲ有シ海外ニ於テハ西比利亞及米國ニ輸出ス

七、相 場

三十七年中ニ於ケル平均一貫目ノ相場ハ紅茶一圓九十錢、磚茶一圓二十錢、焙爐製煎茶ハ二圓五十錢、釜蒸製煎茶ハ二圓ナリシト云フ

八、輸出狀況

本縣産紅茶ノ輸出ハ三十七年中ニアリテハ米國及南洋ニ輸出シタルニ止マリ露本國及西比利亞ニハ交通杜絶ノ爲メ輸出セラレス磚茶ハ從來重ニ露領亞細亞ニ仕向ケラル、モノナルカ前年以來輸出不振ナリシカ戰爭開始以來ハ輸出全ク杜絶シ當業者ハ製品ノ處置ニ困難シツ、アリシ折柄上海在留ノ一外商カ戰後販賣ノ見込ヲ以テ本品ノ仕入ニ着手シ本縣産品ハ十二月ニ於テ五萬二千八百六十五斤ヲ上海ニ輸出シタリト云フ

### 四、木 蠟

一、産 額 (三十七年)

數 量	十七萬三千九百五十六貫
價 額	十九萬八千五百三圓

二、主要産地  
熊本市 他 託 郡

三、製造戸數、職工數及馬力數

戸 數	六 戸
職 工	男 八十五人 女 八 人
使 用 馬 力	七馬力

四、原料ノ供給

縣下ニ於テハ蠟質少キ爲メ常ニ原料ニ不足ヲ感シ製産上ニ困難ヲ感スルコト少シト云フ

五、製産狀況

本縣ニ於ケル木蠟事業ハ肥後製蠟株式會社カ資本金十二萬圓ヲ投シ統蠟機械十五臺ヲ据付ケ職工男四十八人女十二人ヲ使役シテ製産シツ、アルモノ、外ハ何レモ皆規模小ナル工場ニシテ産額亦多カラズ一時木蠟相場ノ變動常ナラザリシ時代ニアリテハ本業ノ状態ハ頗ル悲境ニアリシカ三十六年以來價格騰貴ノ爲メ製産者意ヲ安シテ從業シ漸ク盛況ヲ見ルニ至レリ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ大阪、東京、福井及縣下ヲ重ナル販路トシ外國ニテハ米國及獨、白等ノ歐州諸邦ニ輸出スルモ其額多カラズ

七、相 場

時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ差アルヲ免レサレトモ三十七年中ニ於ケル平均百斤ノ相場ハ生蠟二十五圓、白蠟三十圓位ナリシト云フ

八、輸出狀況

本縣産出ノ外國向木蠟ハ三十七年中ニ於テハ其産額五萬圓内外ナリシカ製品ノ多クハ長崎及神戸港ニ送ラレ外商ノ手ヲ經テ歐米諸邦ニ輸出セラレ其相場ハ百斤ニ付年初ニアリテハ三十五圓位ナリシカ年末ニ於テハ二十四五圓ノ安値ニテ取引スルニ至リタリト云フ

### (ロ) 重要工産品

本縣産出ノ工産品ニシテ年産額十萬圓以上ニ達シ縣下ニ於ケル主要工産品トシテ本縣工業ノ命脈ヲ支持スルモノハ左ノ

八種ニシテ以下各種ノ製産狀況等ニ就キ概説ヲ述フヘシ

- 一、清 酒
- 二、醬 油
- 三、セメント
- 四、織 物
- 五、和 紙
- 六、藥 種 油
- 七、砂 糖
- 八、鹽表及莫産

一、清 酒

一、産 額 (三十七年)

數 量 七萬百六石

價 額 二百二十四萬三千三百九十二圓

二、主要産地

熊本市 上益城郡 鹿本郡

三、主ナル製産者

上益城郡 渡邊敬生

熊本市 西岡壽一郎  
同 岡崎唯雄

四、原料ノ供給

本品醸造ノ原料タル米ハ本縣主要ノ農産品ニシテ産額饒多ナレハ本品醸造ノ原料トシテ充分ニ供給ノ力アリ

五、販 路

主トシテ縣下ノ需用ニ應スルモノニシテ未タ縣外輸出ノ餘力ナシ

六、相 場

三十七年中ニ於ケル平均一石ノ相場ハ三十圓位ナリシト云フ

七、製産狀況

本縣ニ於テ清酒醸造業ノ最モ盛ナルハ上益城郡御船地方ニシテ菊池郡隈府、鹿本郡山鹿、阿蘇郡宮地及熊本ノ各地之ニ亞ク一ヶ年ノ生産高ハ大約八萬石内外ナルカ縣トノ需用高ハ凡十八萬石ナレハ縣下ノ産品ニテハ到底需用ヲ充タス能ハサルノ狀況ニシテ現時ニアリテハ兵庫、堺及福岡地方ヨリ年々七八萬石ヲ輸入シ居レリ爾レトモ現今頻リニ醸造改良ノ方策ヲ講シ且大ニ徒弟ノ養成ニ意ヲ用ヒシ、アレハ茲數年ヲ經ナハ必ス醸造上ニ一新面ヲ開クニ至ラン

一、醬 油

一、産 額 (三十七年)

數 量 三萬九千九百五十二石

價 額 五十萬四千四百六十九圓

二、主要産地

熊本市 重要工産品

熊本市 飽託郡 宇土郡 玉名郡 下益城郡 八代郡  
三、製造戸數 戸數 百四十五戸

四、原料ノ供給

原料小麦及大豆ハ共ニ縣下ノ産品ヲ用ヒ來リシカ尤モ醸造ニ適スト云フ

五、販路

九州各縣及京阪地方

六、荷造法

樽詰五斗入ノモノ最モ多ク間々瓶詰ノモノアレトモ最良品ニ限ラル、カ如シ

七、製産狀況

本縣産ハ一種濃色ノ醬油ニシテ味或ハ甘味ニ過クルノ批難アリシカ其醸法ハ近年著シク進歩シ今ヤ品質ニ於テハ有名ナル産地ト殆ント相拮抗セントスルノ勢アリ蓋シ本縣産ノ麥及大豆ハ醬油ノ原料トシテ最モ適切ナレハ斯業ノ進歩ニ便益ヲ與フルコト渺カラス此上醸造法ニ一段ノ改良ヲ加フレハ殆ント缺點ナキ良品ヲ製シ得ルニ至ラン

三、セメント

一、産額 (三十八年)

數	量	五十萬噸
價	額	四十萬圓

二、製産者

八代郡八代町

日本セメント株式会社

三、馬力及職工數

使用	馬力	三百五十馬力
職	工	三百人

四、原料ノ供給

原料ハ肥前及縣下天草ノ粘土ニ取ル天草産ハ一種ノ凝灰質粘土ニシテ靑綠色ヲ帶ヒ其質濃ク均一ニシテ硬カラス分析ノ結果ニヨレハ百分中硅酸五七、〇六礬土一八、一六石灰二、〇〇ヲ含メリト云フ

五、販路

本品需用ノ大部分ハ橋梁、築港、水道等ニアレハ各工事ノ起工セラル、所ニ向テ新販路ヲ開クモノニシテ一定ノ販路ナシト雖モ現今ニテハ佐世保鎮守府及肥薩鐵道ニ販賣シツ、アリト云フ

六、荷造法

樽詰トシ大抵一樽百斤入トス

七、製産狀況

日本セメント株式会社ハ明治二十一年ノ創立ニシテ資本金二十一萬五千圓ヲ投シ濬式製造ヲ開始セシカ三十年ニ至リ乾式ニ改メ規模ヲ大ニシタリ戰時中ニ於テハ官業民業共ニ諸般ノ工事中止又ハ延期ノ姿トナリタル爲メ賣行不振ニシテ操業ニ困難ヲ感シタルモ現今ニテハ舊態ニ復シツ、アリ

四、織物

一、産額 (三十七年)

熊本縣 重要工業品

價 額 二十九萬五千圓

百三十二

絹織物	十萬五千圓
綿織物	十七萬圓
絹綿交織物	二萬圓

二、主要産地

熊本市	他託郡	宇土郡	上益城郡	下益城郡	八代郡
天草郡					

三、製造戸數及職工數

戸 數	二千五百八十九戸
職 工 數	三千五百四十五人

四、主ナル製産者

熊本市 熊本織物力食株式會社

全 河添外子吉

他託郡大江村 河田精一

下益城郡守宮村 菊池謙幸

五、原料ノ供給

絹織物ノ原料タル生糸ハ縣下産出ノ製糸ヲ用ヒ綿織物ノ原料綿糸ハ重ニ鐘紡熊本分工場ノ製品ヲ用ユ

六、販 路

絹織物ノ一種生絹及羽二重ハ京都及大阪地方ニ販出シ其他ノ絹織物及綿織物ハ縣下ノ需用ヲ充タスニ止レリ

七、荷造法及其費用

本縣販出ノ絹織物ハ十反ヲ折返箱ニ入レ又ハ油厚紙ニテ包ミ其費用ハ一個凡ソ五六十錢位ナリ

八、製産狀況

本縣本業ノ状態ハ數年以前ニ比スレハ業務稍ヤ不振ノ感アリ而シテ其原因ヲ尋ルニ戰爭時期ニ入りテ一般人氣ノ引締リタルト織物税賦課ノ結果當業者中小資本家ノ收支相償ハスシテ轉業スルモノアリタルニ依ルト云フ本業中組織ノ大ナルハ熊本力食會社ニシテ現時男工十九人女工二百四十六人ヲ使役シ絹綿交織ヲ製織シツ、アルカ就中力食耕ハ久留米耕ト名ヲ爭フノ盛況ニ進メリ絹織物工場中稍大ナルモノ數ヶ所アリト雖モ未タ機械仕掛ノ工場ヲ見ルニ至ラス何レモ徒弟組織ヲ以テ盛ニ製織シツ、アリ其最モ製織ノ進歩セルハ一樂風通ノ類ニシテ有名ナル産地ノ製品ト撰フ所ナキ迄ニ進歩シ居ルモ産額尙少ク多クハ個人ノ注文ヲ引受クルニ止マリ縣外輸出ニ至リテハ其類極メテ少ナリ

五、和 紙

一、産 額 (二十七年)

數 量	四十五萬五千九百七十三束
價 額	二十萬六千八百七十二圓

二、主要産地

玉名郡	菊池郡	上益城郡	下益城郡	八代郡
-----	-----	------	------	-----

三、製造戸數及職工數

戸 數	九百九十三戸
-----	--------

熊本縣 重要工産品

百三十三

職工 男 一千二人  
女 一千二百八十五人

四、原料ノ供給

原料ニハ楮皮及藁ヲ用ヒ藁ハ縣下ノ生産ヲ以テ供給余リアリト雖モ楮皮ハ稍不足ヲ感スルモノ、如シ

五、販路

重ニ縣下ノ需用ヲ充タスニ止マリ未タ縣外販出ノ力ナシ

六、製産狀況

本縣ニ於ケル和紙ノ製法ニハ筑後式製法ニ據ルモノト土佐式製法ニ則ルモノトノ兩法アリ土佐ハ新式ニシテ筑後ハ舊式ナリ土益城郡ハ多ク新式製法ヲ用ヒ其他ハ概ネ筑後式ノ舊法ニ屬ス土佐式製法ハ製産費少ク製品良好ナレハ賣行宜シト雖モ筑後式製品ハ品質粗惡ニシテ賣行惡シク舊式製品ハ市場ニ於テモ常ニ新式製品ニ壓倒セラル、ノ狀況ナレハ舊來ノ製法ハ年々土佐製法ニ改良セラレントスルノ傾向ヲ生シ來レリ

六、菜種油

一、産額 (三十七年)

數 量 六千九百七十七石

價 額 二十四萬四千四百四十六圓

二、主要産地

熊本市 菊池郡 下益城郡 玉名郡 宇土郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 六百七戸

職 工 數 七百二人

四、原料ノ供給

原料菜種ハ下益城、玉名、菊池ヲ主産地トシ其他各郡ニ之ヲ産スレトモ菜種栽培者ノ年々減少ニ傾キツ、アル爲メ原料ノ不足ヲ感シ居レリ

五、販路及販賣方法

重ニ縣下ノ需用ニ充テ縣外仕向先ハ大阪、長崎等ナリ縣外輸出ハ重ニ注文ニ應シ出荷スルノ慣例ナレトモ間々仲買商ノ手ヲ經テ販賣スルモノアリ

六、製産狀況

本縣本業ノ尤モ盛ナル地方ハ熊本市ニシテ産額年々二千石ニ及ヒ菊池郡大津町之ニ次キ一千二百石而シテ製造戸數ノ尤モ多キ地方ハ玉名郡ナリトス工場ノ多クハ舊式搾油法ヲ用ヒ機械製油ヲ爲スモノ極メテ稀ナリ近年機械製油ノ利益ヲ認ムルニ至リ漸次舊式搾油法ハ廢滅ニ歸セントシツ、アルハ本業ノ爲メ喜フヘキコトナリ

七、砂糖

一、産額 (三十七年)

數 量 三十九萬二千六百六十五貫

價 格 十七萬六千七百圓

二、主要産地

宇土郡 天草郡

熊本縣 重要工産品

三、製造戸數及職工數

戸數 一千三十五戸

職工數 五千九百三十九人

四、原料ノ供給

原料ハ多ク製造者各自作ノ甘蔗ヲ以テ之ニ充ツ

五、販路

主トシテ縣下ノ需用ニ應ス

七、製産狀況

本業ハ主トシテ農家ノ副業トシテ家内工業ニ屬スルモノ多ク製品ハ黒糖ヲ主トシテ下等白糖ノ少量ヲ出セリ甘蔗ノ植付最モ盛ナルハ天草郡ニシテ宇土、葦北ノ二郡之ニ次ク天草ハ地質氣候等甘蔗ノ栽培ニ適スルヲ以テ砂糖ノ製産ニ従事スルモノ多シ五六年前頃ハ頗ル盛況ナリシカ近頃臺灣糖ノ輸入セラル、ニ至リ之カ爲メ販セラレ従業者ノ數年々減少ノ傾向アリト云フ

八、疊表及莫莖類

一、産額 (二十七年)

價額	十萬二千四十二圓
疊表數	三十萬六千八百七十四枚
疊表價額	六萬五千三百圓
內莫莖同	五十二萬六千四百七十七枚

花	同	三萬二千二百二圓
莖	同	八百四十四本
同	同	四千六百四十圓

二、主要産地

熊本市 飽託郡 宇土郡 下益城郡 八代郡

三、原料ノ供給

原料蘭草及七島ハ農家ノ副業トシテ製産者各自作ニ係ルモノ多シ

販路

縣内ノ需用ヲ主トシ福岡、佐賀、鹿兒島ニ少額ノ輸出ヲナス

荷造法

十枚ヲ一束トシ繩ニテ結束ス

六、製産狀況

本縣本業ノ状態ハ熊本市監獄ニ於テ製産セラル、モノ、外ハ重ニ農家ノ副業ニ屬シ何レモ規模小ナル家内工業ニシテ從來ニ於テハ製品良好ナラス産額亦多カラサリシカ近年製織機ニ改良ヲ加ヘ原料ニ注意スルニ至リ品質大ニ改マリ産額亦増加シ漸次盛況ナラントスルノ兆アリ



# 鹿兒島縣

## (一) 産業概説

本縣ハ陸上交通ニ於テ縣内一局部ニ既設鐵道ノ縱貫セルト海上交通ニ於テ鹿兒島灣ノ設備稍成レルトニ因リ内國ハ神戸、門司、長崎及臺灣各地ニ直通航路ノ便ヲ有シ又清韓兩國ニ間接航路ノ連絡ヲ有ヘルカ爲メ商工業ニ於テモ彼ノ大分宮崎ノ二縣ニ比シ將サニ一頭地ヲ抽ケルハ事實ニ微シ断カナリトス雖然一縣全體ノ生産力ヨリ言ヘハ均シク農業ヲ以テ縣ノ命脈ヲ支持セルモノト言ハサル可ラス則商工業ノ如キハ農業ニ比シ尙カニ下位ヲ占ムルノ状態ニアリ試ニ縣下生産力ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

鹿兒島縣ノ生産 (二十七年)	
農産	千七百萬圓 (養蠶牧畜を含む)
水産	三百五十萬圓
工業	三百九萬五千圓
鑛産	三百萬圓
林産	百三十五萬圓
合計	二千七百九十四萬五千圓

前表ニ依レハ農産ハ殆ント生産總額ノ三分ノ二ヲ占メ工業ハ總力ニ農産ノ六分ノ一ニ過キス由是觀之ハ農業カ一縣經濟上ノ原動力タルノミナラス其商工業カ遲々トシテ萎靡不振ノ境遇ニアルヲ知ルニ足ラン今各生産品ニ付概説センニ農業ニ於テハ米ノ産額一ヶ年八十萬石ニ達シ此内縣外輸出ノモノ十五萬石内外ニシテ農産物中其主要ノモノニ屬セリ之ニ亞

クモノ甘藷ノ三百萬圓麥ノ二百萬圓ヲ合シ約一千三百萬圓以上ヲ占メ其他養蠶等ノ收利ヲ合シ千七百萬圓ニ及ヘリ農業ノ次位ニ屬スルモノ水産ニシテ本縣ハ魚業地トシテ沿岸線約四百有餘里ニ涉リ其主要漁獲物ハ鯉、鱒、鮪、鮪、柔魚、鰻、文鰻魚等ニシテ水産製品トシテ縣外ニ輸出セラルモノ鰻節、鹽鱒、乾文鰻魚、鰻、乾鰻、鰻節ノ如キ孰レモ五萬圓以上ノ生産ヲ見ルニ至レリ則チ水産加工品トシテ縣外輸出ニ係ルモノ二百萬圓生魚ノ備販出セルモノ百五十萬圓兩者ヲ合シ一年三百五十萬圓ニ及ヘリ又製產品中海外輸出ニ屬スルモノ鰻、貝柱、鱈、乾鮑等ノ各種ニシテ目下僅ニ二十萬圓内外ナルモ將來發達ノ餘地ヲ有セリ而シテ漁業者ハ縣下全戸數二十萬戸ノ内約四分ノ一二位シ漸次其發展ヲ見ントスルノ狀況ニアリトス水産ニ亞クモノ工業ニシテ(後項ノ如シ)之ニ亞クモノ鐵産ナリトス本縣ノ鐵業ハ其山來スル所遠ク數百年前ニアリ舊藩主島津公爵ノ經營ニ係ル斧ヶ野及山ヶ野鐵山ノ如キハ孰レモ一ヶ年百萬圓乃至百五十萬圓ノ金鐵ヲ生産スルニ至レリ其他牛尾金山株式會社ノ所有ニ係ル牛尾鐵山ノ如キ其生産額亦百萬圓以上ニ及ヘリ元來本縣ノ鐵種ハ主ニ金鐵ニシテ到ル所其産出ニ富ミ前途經營ノ進歩ニ伴ヒ頗ル好望ノ事業ニ屬セリ林業ハ縣下ノ地勢上山脈蜿蜒トシテ林相地頗ル廣ク時トシテ交通至便ノ場所ハ濫伐ノ餘弊ヲ被ラサル所ナキニ非ルモ各地到ル處森林翁鬱トシテ斧斤未タ入ラサルモノアリ現下運輸交通ノ機關完備セサルカ爲メ遠ク之ヲ搬出スルノ道ナク殆ント林産物ノ利用ニ窮スルノ狀況ニアリ雖然一朝交通機關ノ設備成ルニ於テハ漸次其輸出ヲ見ルニ至ルヘシ現ニ目下清韓各地ニ於ケル鐵道ノ敷設ト俱ニ之レカ需要ヲ喚起シ來リ近來其輸出ヲ見ルニ至レリ又縣ノ事業トシテ目下頻リニ植林ノ獎勵ヲ爲シ當業者亦舉ツテ其經營ニ傾意シツ、アルヲ以テ將來大ニ其發展ヲ見ルノ期アルヘキヲ信ス

本縣ノ商工業ハ前述セルカ如ク地形上九州ノ西陲ニ僻在シ交通運輸ノ便ハ纔ニ縣内ヲ縱貫セル一條ノ鐵路ト鹿兒島灣ノ一港トニ因リ依然內國貿易ニ甘ンスルノ狀態ニ過キス而モ鹿兒島灣ハ未タ築港完カテサルカ爲メ巨大ノ船舶ハ外洋上ニ漂ハサル可ラサルノ狀態ニ在リ隨テ商工業ハ依然トシテ舊態ヲ脱セス重要輸出品トシテ縣外ニ輸出セラルヘキモノハ米穀、砂糖、水産製品及木材等ニシテ是等ハ其大部分內國需要品タルニ過キス然リ而シテ工業品ハ其一ヶ年ノ生産額三百萬圓内外ナルモ此內海外輸出トシテハ僅ニ生糸、陶器、製茶、木蠟、華筵等ノ各種ニシテ其輸出額總計四十萬圓内外ニ過キス

由來鹿兒島ハ西陲ノ大藩トシテ島津氏ノ占據セル所ナリシヲ以テ內國需要ノ工業品ハ比較的多少織物、清酒、醬油、製油、陶器、錫器、和紙ノ如キハ古來ヨリ汎ク內國需要ニ供用セラレ今日ニ及ヘリ人造肥料、煉瓦、燐寸、硝子、製革ノ如キハ近年ノ事業トシテ現時若クハ將來正サニ勃興セントスル新事業ニ屬セリ今是等各工業品ニ付同縣統計ノ示ス所ニ據レハ左ノ如シ

鹿兒島縣工業產品 (三十六年)

種類	價額
砂糖	百萬圓
清酒	百萬圓
人造肥料	五十七萬圓
生糸	三十九萬圓
織物	三十六萬圓
製油	三十萬圓
製茶	二十六萬圓
和紙	二十五萬圓
醬油	十八萬五千圓

生産ノ概況

大島郡特有ノ生産ニシテ管外ニ輸出シ再々ノ上內國需要ニ供セリ  
 縣内ニ於テ消費セリ  
 近年ノ事業ニシテ漸次進歩ノ狀況ニアリ過半ハ縣外ノ需用ニ供セラル  
 海外輸出品トシテ生産シ依然トシテ振ハサル狀況ニアリ  
 鹽摩白及大島抽ノ如キ本縣重要ノ物産ナレド多ク內國需要ニ供スルニ止マルヲ以テ當業者ハ日下其發展ノ方法ヲ企圖シツ、アリ  
 製油ハ多ク縣下ノ需要ニ供セラレ亦多少縣外ニ輸出ス  
 内地需要ノ外輸出茶則チ番茶ヲ製出シ漸次其生産増加セルノ傾向アリトス  
 種類ハ皆在來紙ニシテ重ニ縣内ニ於テ消費セラル  
 主ニ縣内ニ於テ消費セラル

煉瓦及瓦	六萬三千圓
陶器	五萬三千圓
錫器	四萬圓
華筵及青筵	三萬八千圓
木蠟	二萬千圓
竹製品	五千七百圓
製革	四千五百圓
燐寸	三千圓
硝子	二千圓
合計	四百五十四萬五千二百圓

縣内消費ノモノニ過キスシテ亦業又振ハサルノ状況ニアリ  
 本縣特有物産ニシテ古來ロリ美術的製品トシテ貴重セラレ  
 目下漸次改良ナ加ヘツ、アリ將來輸出品トシテ多少ノ利益  
 ナ有セリ  
 特有物産ニシテ其需要ハ凡ケ内國向ナリトス  
 華筵ハ大分縣ノモノト同質ニシテ七島間ト以テ製シ多少海  
 外ニ輸出セラレ尙希ニ凡ケ内國需要ニ供セリ  
 産額僅少ニシケ不振ノ状況ニアリ製品ハ大阪地方ヲ經テ海  
 外ニ輸出セラレ  
 縣内日常家具ヲ製出スルニ過キス  
 個人的經營トシテ生産セツ、アルニ過キスト雖將來有望ノ  
 事業ニ屬ス  
 全上  
 個人經營トシテ小規模ノ施設ヲ以テ僅ニ洋燭類ヲ生産スル  
 ニ過キス

以上ハ本縣工産品ニシテ其内一ヶ年ノ産額百萬圓ヲ有スルモノハ砂糖清酒ノ二品ニシテ十萬圓以上ノ産額ヲ有スルモノ  
 ハ人造肥料、生糸、織物、製油、茶、和紙、醬油ノ七品ナリトス以上各品ニ付其生産及分配ノ状態ヲ概述スレハ砂糖ハ  
 縣下大島ノ特有物産ニシテ其栽培及製産ニ要スル資本ハ鹿兒島市ニ於ケル砂糖仲買業者ノ手ヨリ生産者ニ對シ之レカ貸  
 附ヲ爲シ生産者ハ製品ヲ以テ之ヲ支拂フノ慣習ニシテ則チ大島ニ於ケル製糖業ハ一ニ此資本主ニ頼リ事業ヲ經營スルノ  
 状態ナリトス其製品ハ大阪及其他各地ニ搬出シ再製ノ上内國ノ需要ニ供セラル、ノ状況ナリトス清酒ハ僅ニ皆縣内ニ於  
 テ消費セラレ尙ホ足ラサルノ現況ニ在リ事業ハ尙モ進歩ノ状態ヲ見ス人造肥料ハ原料ヲ縣下及支那朝鮮等ニ仰キ近年著  
 シク其業務ノ擴張ヲ見販路モ亦漸次縣外ノ需要ヲ増加シ將來最モ有望ノ事業ナリトス織物ハ從來單ニ内國需要ニ應スル  
 ノ目的ヲ以テ製織シ汎ク江湖ノ賞讃ヲ博シ殊ニ大島紬ノ如キハ益々其需要ヲ増加スルノ状況ナリトス又薩摩緋ハ近年稍  
 舉スヘキ事項ヲ有セス

粗製ニ流レタル爲メ一時其聲價ヲ失墜スルニ至リシヲ以テ鹿兒島市ニ於ケル授産社ハ自ラ奮テ之カ改良ニ努メ專ラ其依  
 復ヲ圖リツ、アルト同時ニ更ニ支那印度向ノ織物ヲ生産スルノ目的ヲ以テ目下之レカ企畫ニ傾意シツ、アルヲ以テ將來  
 斯業ノ發展ヲ見ルベキヲ信ス茶ハ縣下始良郡ヲ主トシ各郡多少ノ生産ヲ見ルモ其製法幼稚ニシテ未タ發達ノ域ニ至ラス  
 其製品ハ内國需要ニ供セラル、ノ外輸出茶トシテ綠茶ノ製出ニ從事セリ近來海外ノ需要稍好況ニ嚮ヒタルノ影響トシテ  
 其産出モ又増加スルニ至レリ以上ノ外生糸、製油、和紙、醬油ノ四品ハ依然舊態ヲ更メサルノ状況ニアルヲ以テ特ニ列  
 舉スヘキ事項ヲ有セス

要スルニ本縣ハ現時ノ状況ヨリ言ヘハ農業的經營ヲ以テ一縣經濟ノ命脈ヲ支配スルノ状態ニシテ將來勃興ヲ見ルヘキ事  
 業トシテハ水産、林業ノ二者ニ重キヲ置カサル可ラス然リ而シテ本縣商工業ノ前途ハ前述セルカ如ク運輸交通上ノ機關  
 完備セル曉ニ於テハ外部ノ刺激ト經濟的狀態トハ其發達ヲ促進スルノ機運ヲ見ルニ至ルヘキモ目下ニ於テハ僅カニ内國  
 貿易ノ姑息ニ甘ンスルノ餘儀ナキ状態ニアルハ亦數ノ免レサル所ナリトス思フニ本縣ノ現狀ニ微シ將來最モ至要ノ事業  
 トシテハ陸上ニ於ケル鐵道ノ敷設海上ニ於ケル築港事業ノ如キ其施設ノ遅速ハ一縣生産業ノ發達ニ至大ノ關係ヲ有スル  
 ハ官氏ノ齊シク唱道スル處ナルノミナラス實際ノ状態ニ微シ最モ焦眉ノ急務ナルハキヲ信ス

(二) 工 産 品

(イ) 輸 出 工 産 品

本縣産出ノ工産品ニシテ現ニ海外ニ輸出セララル、モノハ左ノ四種ニシテ以下各種ノ製産及分配等ノ狀況ニ就キ詳記スヘ

- 一、生糸
- 二、製茶
- 三、陶器
- 四、木蠟

一、生糸

一、産額 (三十七年) 七千二百四十七貫  
 價額 三十九萬八千五百八十五圓

二、主要産地

- 薩摩郡 日置郡 出水郡 始良郡 鴨喰郡

三、製産戸數

三千六百三十六戸

四、主ナル製産者

- 鹿兒島市 授産社第二部蠶糸講習所
- 薩摩郡平佐村 渡邊製糸場
- 全 上野製糸場

- 始良郡加治木村 佐藤製糸場
- 薩摩郡東水引村 川内製糸所

五、原料ノ供給

原料ハ縣下ノ産額ヲ用ヒ品不足ヲ感スルコトナク供給ハ常ニ需用ニ超過スト云フ

六、製産状況

本縣製糸業ノ状況ハ專業ノモノ少ク規模稍大ナル機械工場ヲ有シ職工五十人以上ヲ使役シ原動力ヲ蒸氣力ニ籍リテ製産シ、アルモノハ其數僅ニ八工場ニ過キス其他器械製糸場ニシテ職工十人以上ヲ使用スルモノハ凡ソ十ヶ所アレトモ何レモ規模小ク八カ方ヲ用ヒテ器械ヲ運轉シ、アリ其他ハ皆座繰製糸場ニシテ農家ノ副業ニ屬シ地方産業ノ發達ト共ニ年々其産額ヲ増加シ品質ヲ良好ナラシメツ、アリ

七、販出品仕向先

内地ニアリテハ京都及福井ヲ以テ主ナル華客トシ海外ニ於テハ米國及伊、佛諸國ニ仕向ケラル

八、販賣手續

本縣下ニハ生糸協同組検査所ノ設アリテ組合員ノ製品ハ一旦此所ニテ検査セラレ後其販路ニ對シ合同販賣ヲ爲スノ仕組ト成リ居レリ

九、相場

最近三ヶ年間ノ平均相場ハ外國向百斤ニ付九百八十弗内國向十貫目約五百二十五圓ナリト云フ

十、荷造法

生糸三十捻ヲ一括トシ一括毎ニ商標紙ヲ貼付シ其上ヲ文庫紙ニテ包ミ十五括ヲ合シテ内部ヲ澁紙外部ヲ油紙即チ二

鹿兒島縣 工場品

重包トシ其外圍ハ厚八分ノ杉若クハ樺板製ノ函ニ收容シ其上ヲ葎包繩掛トナス  
十一、輸出狀況

本縣産品ハ輸出向五分内國向五分ノ割合ナルカ三十七年中ニ於テハ輸出六分余ヲ占メ其額ニ十五萬圓余ニ達シタリト云フ本品ノ輸出ハ一旦横濱原合名會社ノ手ニ渡リ夫ヨリ輸出外商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラレ、カ如シ

一、製 茶

一、産 額 (三十七年)

數 量 十八萬十二貫

價 額 二十四萬八千四百十七圓

二、主要産地

日 置 郡、 始 良 郡、 鴨 吹 郡

三、製造戸數

六萬七千二百八十一戸

四、原料ノ供給

原料ハ製産者各自ノ栽培スル所ニ係リ敢テ不足ヲ感スルコトナシ

五、製産狀況

本縣製茶業ノ狀況ハ專業ノモノ少ク多クハ農家ノ副業ニシテ農閑ノ餘暇ヲ以テ製産ニ從事シ製品ハ番茶ヲ主トシテ別

ニ改良進歩ノ模様ヲ見ス收支債ハスシテ事業ヲ中止スルモノアル由ナリ

六、販出品仕向先

内地需用トシテハ縣内ノ消費ヲ主トシ大阪及神繩地方ニ少許ノ販出ヲ爲シ海外ニアリテハ天津ニ少量ヲ輸出ス

七、荷造法其費用及運搬費

外國向ハ箱詰ニシテ一箱百斤入トシ横濱迄箱代荷造費用及運賃等合計一箱一圓八九十錢ヲ要シ神繩ニ輸出ノ番茶ハ俵

造ニテ一俵七貫五百目及拾貫入トシ荷造費及運賃共六七十錢位ナリト云フ

八、輸出狀況

本縣産品ハ番茶ヲ主トスル故外國向トシテハ適切ナラス僅ニ横濱港ヲ經テ清國ニ年々少許ヲ輸出スルニ止リ別ニ輸出

増進ノ姿ヲ見ス

三、陶 器

一、産 額 (三十七年)

價 格 五萬三千圓

二、産 地

鹿兒島市 日 置 郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 十七戸

職 工 數 百六十三人

四、主ナル製産者

鹿兒島市 慶田政太郎

全 限元金六

鹿兒島縣 工産品

日置郡伊集院村

沈 壽 官

全

東 郷 壽 勝

五、原料ノ供給

本縣産出ノ陶器ハ原料ヲ揖宿、霧島、加世田ノ粘土ニ採レルカ此等粘土ノ特色ハ薩摩燒ノ表面ニ表ハル、龜裂様ノ質象ヲ顯出セシムルモノニシテ産地ニアリテハ粘土ノ供給充分ニ潤澤ナリト云フ

六、製産狀況

本縣ノ陶器業ハ佐賀縣ニ於ケル産地ノ如ク規模大ナル工場トテハ一モアルコトナク慶田工場カ僅ニ十九人ノ男女工ヲ使役シ居ルヲ首位ニ置キ十人以上ノ職工ヲ使用シ居ルモノ三戸轆轤機械ヲ使用シ居ルモノ沈壽官ノ工場一アルノミニシテ其他ハ何レモ規模極メテ小ナル家内工業ニ屬シ産額微々タルヲ見ル然レトモ一般ノ大勢ハ技術進歩シ産額年々増加ノ傾向アレトモ價額比較的不廉ナルト品質ノ脆弱ナルトハ本品ノ販路擴張上惜ムヘキ事ナリ

七、販出品仕向先

内地ニテハ東京、横濱、大阪等ニシテ海外ニアリテハ米國ヲ主トシ英國及漳州等ニ輸出セラル

八、荷造法其費用及運搬費

本品ノ荷造ハ竹籠ニ入レ籠ニテ動かサル様其上ヲ縮ムルニアリ其費用ハ一個二十五錢位運搬費ハ荷造迄一個ニ付凡二圓内外ヲ要ス

九、欠點及改良方法

本品ノ欠點ハ畫工ノ技術進マサルカ爲メ畫樣様ノ意匠巧妙ナラサルニアリ近來從業者間ニハ外人ノ嗜好ニ投スヘキ意匠ヲ研究センカ爲メ美術學校ニ畫樣標本ノ蒐集方ヲ依頼シ製品ノ改良ニ資セントスルモノアルニ至レリ

十、輸出狀況

本縣産品ハ半ハ内地ノ需用ニ應シ半ハ海外ニ輸出セラル外國向ノモノハ花瓶ヲ主トシ一旦横濱仲買商ノ手ニ渡リ輸出外商ニ賣込マレ海外ニ輸出セラル、モノナルカ其額年々二萬圓内外ナルカ如シ

四、木 蠟

一、産 額 (三十七年)

價 額 二萬一千六百九圓

二、主要産地

揖 宿 郡、 肝 風 郡

三、製造戸數及職工數

戸 數 五十戸

職 工 九十二人

四、原料ノ供給

原料蠟質ハ縣下ノ産出ニ係リ産額甚タ多カラスト雖モ木蠟ノ製産盛ナラサル本縣ニアリテハ極メテ不作ノ時ノ外別ニ原料ノ不足ヲ感スルコトナキカ如シ

五、製産狀況

今ヲ去ル八九年前ニアリテハ尙所々ニ蠟樹ヲ栽植スルモノアリシカ其後輸出港ニ於ケル木蠟相場ノ變動常ナラス蠟樹栽培者ノ利益確實ナラサル爲メ蠟樹ノ栽植行ハレス從テ蠟質ヲ唯一ノ原料トセル木蠟業者ハ製産上頗ル不利ノ地位ニ立テ本業ノ發達ニ著シキ障害ヲ與ヘ産出ノ増加ヲ見ル能ハサルハ本業ノ爲メ惜ム所ナリ

鹿兒島縣 工 産 品

六、販路

本品ハ一部縣内ノ需用ニ供セラレ一部歐米ニ向テ輸出セラレタレトモ其額極メテ僅少ニシテ一定ノ販路ヲ有スルコトナク他産地ノ製品ト相混シテ輸出セラル

七、輸出状況

本縣本業ノ状態ハ産額少ク業勢振ハサルノ現況ニテ輸出向ノ如キモ其額極メテ少ク從テ輸出ニ關スル狀況ノ如キモ別ニ記スヘキモノナシト雖モ製品ハ地方仲買人ノ手ヨリ横濱港ニ於ケル輸出仲買業者ノ手ニ渡リ更ニ居留地外商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラル其額毎年一萬圓内外ニシテ近キ將來ニ於テハ輸出増進ノ見込ナキカ如シ

(ロ) 重要工産品

本縣産出ノ工産品ニシテ年産額五萬圓以上ニ達シ縣下ニ於ケル重要工産品タルモノハ左ノ八種ニシテ以下各品目ニ就キ製産狀況等ヲ叙述スヘシ

- 一、清酒及焼酎
- 二、砂糖
- 三、人造肥料
- 四、織物
- 五、醬油
- 六、和紙
- 七、菜種子油
- 八、煉瓦

一、清酒及焼酎

一、産額 (三十七年)

数量	三萬三千四百九十一石
價額	百二萬九千八百五十圓

内

清酒	数量	三千百四十石
價額	十一萬九千三百二十圓	
焼酎	数量	三萬三百五十一石
價額	九十一萬五千三百三十圓	

二、産地

鹿兒島市	日置郡	贈嶽郡
------	-----	-----

三、製造戸數

戸數	二千七百三十四戸
----	----------

四、原料ノ供給

焼酎ノ原料ニハ主トシテ薩摩芋ヲ用ヒ縣内ノ産品ヲ以テ之ニ充當ス

鹿兒島縣 工産品

五、販路

本縣産出ノ酒類ハ主トシテ縣下ノ需用ヲ充スニ止マリ縣外ニ販出スルモノハ其額極メテ少シ

六、製産狀況

本縣ニ於テハ清酒業ハ極メテ幼稚ノ域ニアリテ其産額品質共ニ論スルノ價值ナシト雖モ燒酎ニ至リテハ現今醸造極メテ盛ニシテ尙年々産額ヲ増加スルノ傾アリ而シテ其原因ヲ尋スレハ清酒ノ高値ナルニ比シ燒酎ハ安價ニシテ能ク酔ヘハ下層社會ノモノハ之ニヨリテ満足セントスルニアルモノ、如シ

二、砂糖

一、産額 (三十七年)

價額 百萬一千七百一圓

二、主要産地

大島郡 熊毛郡 鹿兒島郡 肝屬郡 出水郡

三、製造戸數

二萬五千四百七十戸

四、販路

縣内各郡市及大阪、神戸等

五、相場

時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ差アレトモ三十七年中ニ於ケル平均百斤ノ相場ハ凡九圓位ナリシト云フ

六、荷道法其費用及運搬費

製品ヲ樽ニ入レ葎ヲ以テ包ミ籠繩ニテ十文字ニ結ブ運搬費ハ一挺(百二十五斤位入)ニテ鹿兒島ヨリ大阪迄五十錢内外

七、製産狀況

本業ハ農家ノ副業トシテ營マル、モノ多ク何レモ規模大ナル工場組織ノモノナク從來ニ於テハ黑糖ヲノミ製産セシカ近來褐色糖ヲモ製産スルニ至レリ一時糖價ノ安カリシ時ニアリテハ漸ク衰頽ニ歸セントスルノ兆アリシカ近年糖價上騰シ砂糖ノ消費ハ年々増加スルニ際シ本縣本業ノ如キモ甘蔗耕作反別ヲ増加シ産額年々増加ノ傾キアリ

三、人造肥料

一、産額 (三十七年)

價額 五十七萬一千五百八十一圓

二、主要産地

鹿兒島市 始良郡 薩摩郡

三、製造戸數及職工數

戸數 百四十一戸

職工數 三百四十二人

四、原料ノ供給

原料牛馬骨ハ重ニ清國及韓國ヨリノ輸入品ヲ使用シ大阪、廣島等ヨリ少額ノ輸入ヲ爲ス然レトモ肥料ノ需用多キ爲メ年々原料ノ不足ヲ感シツ、アルカ如シ

五、主ナル製造者

鹿兒島縣 工業品



- 鹿兒島市 鹿兒島肥料合資會社
- 川邊郡東加田村 平川 徳兵衛
- 始良郡加治木村 仁藤 平右衛門

六、販路  
本品ノ多クハ縣下各郡ノ農家ニ販賣セラレ縣外輸出トシテハ僅ニ宮崎縣下ニ少額ヲ販出スルノミ

七、製造費及收益  
時期及物價ノ高低ニ依リ多少ノ差アルヲ免カレサレトモ三十七年中ニ於ケル收益ノ割合ハ大約左ノ如シ  
十貫目ニ對スル收益

原料代	二圓八十錢
製造費	四十錢
計	三圓二十錢
製品數量	二斗六升
價額	三圓六十錢 (一升十四錢ノ割)
計	三圓六十錢
差引收益	四十錢

八、製産狀況

本業ハ重ニ専業ニ屬スト雖モ何レモ規模小ニシテ蒸汽力ヲ利用シテ製産ニ從事スルモノハ僅ハ一工場、水車ニ依リ職工十人以上ヲ使役スルモノニ工場、而シテ其他ハ何レモ規模小ニシテ製産力亦多ナラス爾レトモ人糞肥料ノ需用

ハ年々其額ヲ増加シ來ルノ狀況ニシテ從業者ハ皆相當ノ利益ヲ得本業ノ前途好望ナルカ如シ

四、織物

一、産額 (三十七年)  
價額 二十四萬二千三百六十四圓

内

絹織物	十六萬二千四十七圓
綿織物	七萬五千八百四圓
絹綿交織	四千五百十三圓

二、主要産地

鹿兒島市 大島郡

三、製産戸數及職工數

戸數	七千二百五十七戸
職工數	一萬百三十五人

四、主ナル製造者

鹿兒島縣授産社

授産社ハ鹿兒島市ニ本工場ヲ有シ川邊郡ニ七ヶ所、鴨峯郡ニ二ヶ所ノ分工場アリ本工場ニハ女工二百六十五人ヲ收容シ分工場ニハ何レモ三十人以上ノ女工ヲ使用ス製品ノ主ナルモノハ薩摩緋ニシテ「タオル」及縞物ヲモ製織シツ、アリ

五、原料ノ供給

鹿兒島縣 工産品

薩摩緋ノ原料ハ阪神地方ノ紡績糸ヲ輸入シ大島紬ハ其原料ヲ福島、長野等ノ如キ養蠶地方ヨリ仰ク

六、製産狀況  
薩摩緋ハ製織ニ手數ヲ要シ製産費ヲ嵩ムルカ故ニ價額從テ高ク之カ爲ニ一般ノ需用ニ適セサルノ感アリテ近年稍衰勢ニ陥ラントスルノ傾キアリ大島紬ハ著シキ販路ノ擴張ヲ見サルモ尙年々少量ツ、産額ヲ増加シ現今ノ狀態ヨリ推セハ將來尙有望ナルカ如シ

七、販路

大阪ヲ主ナル販路トシ東京及神戸地方ニ販出ス

八、荷造及運搬費

荷造ハ五十反ヲ一箱トシ其費用五十錢ヲ要シ運賃ハ大島ヨリ神戸迄六十錢ナリ

九、長所並ニ欠點

薩摩緋及大島紬ノ長所トスル所ハ藍ノ良好ナルモノヲ用ヒ染色ニ注意ヲナスカ故ニ久シク染色ノ變褪セサルニアリ而シテ其欠點トスル所ハ製産費ヲ多ク要スルカ爲メ製品ノ價額不廉ナルニアリ

五、醬油

一、産額 (三十七年)

價額 十八萬五千六百十圓

二、主要産地

鹿兒島市

三、製造戸數

九十四戸

四、原料ノ供給

原料ハ縣下生産ノモノテハ不足ナレハ毎年肥後大豆及朝鮮大豆ノ輸入ヲ仰

五、販路

縣下ニ於テ消費セラレ縣外販出ノ余力ナキノミナラス年々多額ノ輸入ヲ仰ク

六、製産狀況

醬油ハ日常必需品ニシテ縣下ノ産品ノミニテハ不足ヲ感スルノ狀況ナレハ尙發達ノ余地存スルカ如シト雖モ原料其他ノ干係ヨリシテ製産費ヲ要スルコト多ク從業者ノ利益多カラザルト縣外販出品トシテハ品質優良ナラサルカ爲メ生産増加ノ兆ヲ認メス

六、和紙

一、産額 (三十七年)

價額 十七萬三千九百九十三圓

二、主要産地

日置郡 始良郡

三、製造戸數及職工數

戸數 七百二十二戸

職工 千六百十五人

四、原料ノ供給

鹿兒島縣 工産品

原料ハ縣下ニ於ケル楮皮又ハ麩ヲ用ヒ楮皮ハ年々品不足ノ模様ナルカ麩ノ供給ハ充分ニシテ餘リアリト云フ

五、販 路  
製品ハ縣下ニ於テ消費セラレ縣外販出ノ餘力ナシ

六、製産狀況  
本業ハ專業トシテ經營セルモノ四分農家ノ副業トシテ兼營セラル、モノ六分何レモ規模小ナル家内工業ニ屬シ産額少ク從業者ハ製産ニ幾多ノ手數ヲ要スルカ故ニ利益多カラス僅ニ事業ヲ繼續スルノ狀況ナリ

七、菜種子油

一、産 額 (三十七年) 十一萬一千七百九十一圓

二、主要産地 鹿兒島市

三、製造戸數及職工數

戸 數 百七十三戸

職 工 數 四百九十四人

四、原料ノ供給

原料ハ管内各郡ニ産出スル菜種子ヲ使用ス

五、販 路

沖 繩、神 戸、大 阪 等

六、相 場

時ニ依リ多少ノ差アレトモ三十七年中ニ於ケル一石ノ相場ハ平均四十四圓内外ナリシト云フ

七、製産狀況

本業ハ農家ノ副業トシテ兼營ニ屬スルモノ多ク何レモ規模小ナル家内の工業ニシテ産出夥多ナラス然レトモ年々需要多ク製品ノ不足ヲ感スルカ如キ狀況ニテ製産者ハ何レモ相當ノ利益ヲ得ツ、事業ヲ繼續シ居ルモノ、如シ

八、煉 瓦

一、産 額 (三十七年) 六萬二千八百二十六圓

二、主要産地 鹿兒島市

三、製造戸數

六 戸

四、販 路

縣下各郡ニ於テ需用セラレ縣外輸出ノ力ナシ

五、製産狀況

本業ハ規模大ナル工場ナキモ何レモ專業ニ屬セリ而シテ工場ハ概ネ原料ノ産地ニ建テラレ製産上ノ便宜少カラサルモ縣下ニ於テハ需用ノ範圍狭少ナルカ爲メ縣外販出ヲ爲スニアラサレハ當分産額増加ノ見込ナキモノ、如シ

# 宮崎縣

## (一) 産業概説

宮崎縣ハ農業地トシテ觀ルノ外商工業ニ於テハ殆ント指目スルニ足ルモノナシ然レトモ生産力ノ順位ヨリ言ヘハ農産ニ亞クモノハ工産ナルモ其懸隔農産ノ十分ノ二ニ過キス以テ純然タル農業地タルヲ證スルニ足ル今本縣ノ生産力ヲ比較スレハ左ノ如シ

宮崎縣ノ生産力 (三十七年)

農 産	千三百九十二萬三千九百九十三圓
工 産	二百七十九萬七千六百圓
林 産	百六十一萬四千圓
鑛 産	百九萬六千九百圓
水 産	八十五萬五千六百圓
畜 産	三十二萬六千四百圓
合 計	二千六十一萬四千圓

前表ニ依レハ農産ハ他ノ生産ヲ合シタルモノ、半ヲ占メ農産ニ亞クモノ工産ニシテ之ニ亞クモノ林産、鑛産、水産ナルヲ以テ觀レハ本縣ノ縣是ハ實ニ農業、工業、林業及鑛業、水産業ノ順位ヲ追ハサル可ラサルカ如シト雖モ然カモ工業カ生産ノ第二位ヲ占ムル所以ノモノハ生糸ニ於テ殆ント七十萬圓内外即チ其半数ヲ占ムルヲ以テ本縣ニ於ケル工業カ果シテ將來有望ノ事業ナルヤ否ヤハ今俄カニ斷案ヲ下シ難キモノアリ果シテ然ラハ農業ノ振否ハ一縣經濟上ノ消長ニ關スル

コト至大ナルコト言フ要セサル所ナリトス

農産ニ於ケル主要ナルモノハ米穀ニシテ其産出額六十三萬石ニシテ農生産價額千三百九十萬圓ニ對シ米ノ産出價額六百三十萬圓則チ其半額ヲ占ムルニ至ル元來本縣ハ人烟稀少ニシテ其開墾スヘキ耕作地頗ル多ク現ニ既耕地ニ於テモ一戸ノ農反別平均一町三反歩餘ニ及ヘリ米ノ外農産ニ於テ主ナルモノハ製茶ニ於ケル十六萬八千圓養蠶ニ於ケル兩産額六十萬圓ノ如キ其重ナルモノニシテ製茶ハ海外輸出額僅カニ五萬圓内外ヲ下ラス事業亦極メテ幼稚ニシテ萎靡不振ヲ免レスト雖モ將來最有望ノ生産業タルハ疑ヲ容レズ而シテ本縣ノ製茶原料ハ栽培茶、山茶ノ二種ニシテ殊ニ山茶ハ其原料種ノヲ豊富ニシテ將來其需要ノ増進ニ伴ヒ發達シ得可キ餘地種々トシテ餘裕アリトス又養蠶ニ於テハ現時未タ進境ニ在リト言フ能ハサルモ耕地廣潤桑園ト爲スヘキ土地ノ多キト氣候適順ナルトニ依リ將來漸次勃興スヘキヲ信ス

本縣ニ於ケル有望ノ事業トシテ農業ニ亞クモノ林業ニシテ管内原野頗ル廣ク且ツ林相地ヲ爲セルモノ亦甚ク多キヲ以テ木材其他林産物ノ生産極メテ潤澤ナリ木材ハ専ラ船材及各種工業上ノ材料ニ供用セラレ仕向地ハ四國中國及大阪各方面ナリトス本縣ノ林業ハ其獎勵發達ノ餘地尙多ク目下縣ノ施設トシテ縣下ニ五箇所ノ苗圃ヲ設ケ巡回教師三十一名ヲ雇聘シテ其發達ヲ企圖シツ、アリ林業ニ亞クモノ鑛業ニシテ銅、安質母尼、硫黃ノ如キ其生産頗ル多ク殊ニ銅ハ是レカ産出ノ主要ナルモノニ屬ス次ハ水産ニシテ本縣ハ東南一帶太平洋ニ面シ七十餘里ノ沿岸ハ悉ク暖流ノ洗フ所トナリ地形上天然好個ノ漁場ナリト雖モ漁法幼稚ニシテ例年ノ漁獲僅ニ五六萬圓ニ過キス然レトモ將來漁法ノ改良ヲ計ルニ於テハ大ニ發展スヘキ見込ヲ有セリ漁獲物中鰯、鰒ノ如キハ輸出品トシテ前途最好望ノモノナリトス畜産ハ九州中鹿兒島縣ノ次位ニ居リ原野廣遠ナルカ爲メ飼料ニ富ミ氣候亦馬匹ノ育養ニ適セリ是又本縣生産上至大ノ關係ヲ有スル事業ノ一ニ屬セリ

本縣ニ於ケル農蠶、林業、水産等ニ就テハ以上縷述セルカ如ク一縣經濟上ノ消長ハ是等各業ノ盛否ニ繫リ而シテ前途尙

啓發ノ餘地甚多シ獨リ商工業ニ於テハ殆ント觀ルニ足ルヘキモノナシ其主因ハ大分縣ト其事態ヲ同フシ主ニ運輸交通機關ノ設備全カラサルニ因ルモノニシテ且ツ工業ノ如キハ其原料ノ豊富ナルニモ拘ラス當業者ノ思想幼稚ニシテ未ク海外ノ嗜好需要ニ適セサルカ爲メ輸出品ハ勿論内國需要ノ工産品ニ於テモ寥落トシテ僅カニ數指ヲ屈スルニ過キス其重ナルモノニ付概説スレハ生蠶ハ一ヶ年ノ生産額七萬圓乃至八萬圓ノ間ニアリ原料ハ縣下兒湯、東臼杵ノ二郡ニシテ生産ハ孰レモ農家ノ副業トシテ經營セルニ止マリ未タ發展ノ域ニ達セズ生産品ノ輸出先ハ凡テ大阪方面ニシテ同地ヲ經海外若クハ内國需要ニ供用セラル、ノ狀況ナリトス生糸ハ其産額六十九萬圓ニシテ器械製糸ハ座繰製糸ト相半ハセリ生糸ニ於ケル事業組織ハ單ニ個人ノ經營ニ屬シ未ダ組合ノ組織ヲ見サルカ爲メ生産ノ統一ヲ缺キ成品及荷造ノ如キ區々一定セサルノ狀況ニシテ亦座繰製糸ハ總テ農家ノ副業ニシテ單ニ内地需要ニ止マレリ斯業ハ養蠶ノ發達ニ伴ヒ前途好望ノ事業ニ屬セリ紙ハ古來ヨリ日向紙ト稱セラレ其質ノ堅軟ナルヲ以テ世上ニ好評ヲ博セリ然レトモ需要ハ單ニ内國ノ需要ニ過キスシテ種類ハ美濃紙、半紙、塵紙等ノ數種ニ過キス生産額ハ一ヶ年僅々十六萬圓内外ナリトス客年一月縣下ヲ通シ製紙改良同業組合ヲ設ケ目下是カ發達ヲ企圖シツ、アリ樟腦及腦油ハ縣下特有ノ生産品ニシテ古來ヨリ之レカ採取ヲ爲シタル結果民有林ハ悉皆伐採シ盡セルノ状態ニアリ現下灶敷五百七十九精腦十二萬五千斤腦油十四萬八斤ニシテ是ニ對スル價格約十萬八千圓ナリトス製腦事業カ官營トナリタリ以來買上價格一定セラレタルヲ以テ則チ其價格ニ應ジ生産上ノ損益ヲ定ムルヲ以テ別ニ大ナル利益ヲ得サルモ亦甚キ損失ヲ見サルニ至レリ而シテ現時移植栽培等ニ於テ専ラ其獎勵ヲ企圖シツ、アルヲ以テ將來生産ノ増加ヲ見ル亦敢テ望ミナキニ非ラス羽二重ハ縣下北諸縣郡ニ於テ製蠶シ其産額僅ニ二萬圓内外ニシテ精練ハ一旦福井縣ニ輸送シ同地ヨリ海外ニ輸出スルノ状態ナリトス竹材ハ縣下各郡ヲ通シテ生産セサルナク目下神戸地方ニ輸出スルモノニ二萬圓内外ニアリ將來工業ノ發達ヲ見ルニ至ラハ其原料ノ豊富ナルト共ニ重要物産ノ一タルヲ失ハス

以上、宮崎縣ニ於ケル生産ノ概況ニシテ之ヲ要スルニ本縣モ亦交通機關ノ設備完全セサルカタメ農産、林業等ノ外各般ノ商工業ハ萎靡不振殆ト見ルニ足ル可キモノナシ且ツ一面ニ於テハ比較的人烟稀少ノタメ他ノ生産事業ニ於テモ亦同一ノ運命ニアリ則チ其興スベキモノ啓發スヘキモノ一ニシテ足ラスト雖モ交通機關ノ不備勞働者ノ供給、資本ノ缺乏等ハ是レカ發展ヲ阻碍シ前途其タ遠達ノ感ナキ能ハス縣當局者ハ將來生産業發達ノ方法トシテ先ツ移民獎勵ヲ爲スノ目的ヲ以テ縣下未耕地中開田ノ見込アルモノニ付是カ調査ニ從事シ況ク各府縣ニ對シ資本主若クハ移民者ヲ獎勵シツ、アリト言フ本縣ノ縣是トシテ農業ヲ以テ最モ重キヲ置カサル可ラサルモノトスレハ是等施設ハ最モ緊切ノモノタルハ識者ノ首肯スル處タル可キヲ信ス而シテ商工業ノ發展ニ就テハ今後鐵道貫通ノ晚ニ於テ自然の刺激ヲ受クルコト尠カラサルト俱ニ漸次啓發助長ノ機運ヲ招致スヘキヲ信ス

(二) 工 産 品

(イ) 輸 出 工 産 品

本縣ハ交通機關本々發達セス交通不便ナルカ爲メ工業ハ極メ幼稚ノ域ニアリテ輸出品ノ如キハ僅ニ左ノ三種ニ過キス以下各品目ニ就キ製産狀況及販路等ヲ叙述スヘシ

- 一、生 糸
- 二、羽 二 重
- 三、竹 材

一、生 糸

一、産 額 (三十七年)

數 量 一萬二千八百五十一貫  
價 額 六十六萬三千三百九十八圓

内

器 械 六千九百七十五貫  
座 四十一萬七千九百二圓  
線 四千八百七十六貫  
二十四萬五千四百九十六圓

二、工場數及職工數

工 場 數 二千百一十一戶  
職 工 五十七人  
男 三千九百五十八人  
女

三、主要産地

宮 崎 郡、 南 那 珂 郡、 北 諸 縣 郡、 兒 湯 郡、 東 臼 杵 郡

四、原料ノ供給

縣下ニ於ケル産額額八年々一萬五千石内外ニシテ現今製糸ノ産額ニ比レハ供給餘リアルノ狀況ニシテ原料ノ一部ハ縣外ニ販出シツ、アリト云フ

宮 崎 縣 工 産 品

五、製産状況

本業ノ最モ盛ナルハ北諸縣郡ニシテ三十七年中ニ於ケル産額ハ數量六千四百三十四貫價額三十四萬九千六百四十四圓ヲ産出シ之ニ次クモノハ兒湯郡ノ二千六百貫十二萬五千七百三十七圓宮崎郡ノ一千六百五十五貫九萬四千七百六十八圓ニシテ其他ハ皆五萬圓以下ノ産額ナリ工場ノ大ナルモノハ宮崎郡百人繰以上ノモノ一、五十人以上百人繰未滿ノモノ縣下ニ八工場、十人以上二十人未滿ノモノ八工場アルノミニシテ其他ハ何レモ規模小ナル家内工業ニ屬ス本業ハ縣下ニ於ケル諸工業中最モ有望ナル事業ニシテ原料蠶繭ノ增收ト共ニ年々秩序的ニ發達シ産額増進ノ趨勢アリ

六、販路

内地ニアリテハ京都及福井ヲ主ナル華客トシ海外ニアリテハ米國ヲ主トシ佛、伊、露等ノ歐州諸邦ニ輸出ス

七、輸出状況

本縣産出ノ製糸中器械製糸ノ年産額ハ大約四十萬圓内外ナルカ此等製産ノ大部分及坐繰製糸中ノ少額ハ海外ニ輸出セラル、モノニシテ三十七年中ニ於ケル輸出額ハ數量五百九十四捆價額約四十五萬圓ニ及ヒタリト云フ海外ニ於ケル本品ノ販路ハ米國ヲ主トシ佛、伊、露等ノ歐州諸邦ニシテ製品ハ注文ニ應ジ又ハ地方仲買人ノ手ヲ經テ橫濱ニ回送セラレ輸出仲買人ヨリ外商ニ賣込マレ夫ヨリ海外ニ輸送セラル

一、産額 (三十七年)

數	量	五千八百二十反
價	額	二萬三百七十圓

(二) 羽二重

二、製品ノ種類

平羽二重

三、製産者

北諸縣郡 都城町 小林宗兵衛

四、職工數及織機數

女工	三十人
織機數	十六臺

五、原料ノ供給

原料生糸ハ經糸ニハ自家製産ノモノヲ用ヒ緯糸ハ同工場所在地タル都城産出ノ製絲ヲ用ヒ供給充分ナリ

六、製産状況

本縣本業ノ状態ハ都城町ニ小林宗兵衛ノ工場一アルノミナリ同工場ハ三十二年ノ創立ニ係リ爾來輸出羽二重ノ製産ニ勉メシカ現今織機十六臺ヲ据付ケ女工三十人ヲ使役シテ操業シツ、アリ女工ハ創業ノ當初ヨリ使役シ來リタルモノ多ケレハ老練ノモノ多ク製産上頗ル便宜アリテ年産額ハ大凡二萬圓内外ニ達シ製品ハ福井羽二重ト比シテ殆ント遜色ナシト云フ

七、製造費及損益

時期及物價ノ高低等ニ依リ多少ノ差アルヲ免レサレトモ三十七年中ニ於テハ一反ニ對スル製産費ハ約二圓八十錢ヲ要シ賣價ハ三圓五十錢ニシテ差引純益約七十錢位ナリシト云フ

八、荷造法及其費用運搬費

荷造ハ二十反ヲ一包トシテ箱ニ入レ其上ヲ遊ニテ覆フモノニシテ其費用ハ五十錢ヲ要シ福井迄ノ運賃ハ一圓内外ナリ

ト云フ

九、輸出状況

本工場製織ノ羽二重ハ悉ク海外ニ輸出セラル、モノニシテ多クハ福井機業家ノ注文ニ依リ製織セラル、者ナレハ製品ハ一旦福井ニ到達シ同地羽二重ト相混シテ横濱ニ廻送セラレ外商ノ手ヲ經テ英、佛、米等ノ諸國ニ輸出セラル、ト云フ

(三) 竹材

一、産額 (三十七年)

數量	價額
八萬六千九百五十束	二萬一千五十四圓

二、主要産地

東諸縣郡 兒湯郡 西白杵郡

三、原料ノ供給

竹ハ縣下各郡ニ産シ頗ル豊富ナレトモ現ニ竹材トシテ切出シツ、アル地方ハ東諸縣郡、兒湯郡、西白杵郡ニシテ其種類ハ苦竹、淡竹、江南竹、小山竹等トス

四、製産状況

本縣ハ竹ノ生産ニ適スルコト前述ノ如シト雖モ竹製品ノ製作ノ如キニ至リテハ未タ尠モ行ハレ居ラス苦竹、淡竹、江南竹、小山竹等ノ良材ハ七尺切、釣竿等ノ半製品ノ外ハ皆原形ノ儘竹器ノ原料トシテ神戸港ニ輸送セラル、ノ狀況ナリ而シテ従業者ハ何レモ農業ノ餘暇ヲ以テ之ニ従事シ現時ニアリテハ事業未タ盛況ナリト云フ可ラサルモ若シ當業者ニシテ本品ノ販路ト需用者嗜好ノ狀況トヲ知悉セハ本縣ニ於ケル本業ハ將來有望ナル一工業タルヘキヲ信ス

五、相場

三十七八年中ニ於ケル平均一束ノ相場大凡左ノ如シ

苦竹	三十五錢
淡竹	十八錢
江南竹	三十六錢
小山竹	十五錢

六、販路

本品ハ外國向輸出品ニシテ海外ニ於ケル本品ノ華客ハ米、英、獨、佛等トス

七、輸出状況

本縣ニ於ケル竹材ノ輸出ハ近年ニ始マリ未タ幼稚ノ域ニアリト雖モ其輸出額ハ年々秩序的ニ増進シツ、アリ三十七年ニ於テハ海外市場ニ於テハ前年度ノ輸出不況ノ後ヲ受ケ品薄ヲ感シツ、アリシト一面歐米商人ガ競争ノ爲メ運賃ノ騰貴ヲ豫想シ年初ニ於テ買意キヲ爲シタル結果一般輸出港ニ於テハ商況活潑ニシテ前年ニ比シ多額ノ輸出ヲ爲シ本縣産ノ如キモ賣行好況ナリシト云フ

八、荷造方法及其費用運搬費

荷造ハ苦竹ハ二十二本ヲ以テ一束トシ小山竹ハ五十本ヲ束トナシ釣竿ハ六十本以上二百本迄ヲ束トシ各繩ニテ結束シ竹根ハ千本ヲ以テ一束トシ繩ニテ結束シタルモノヲ莖包トナスニアリ一束ニ對スル荷造費用及神戸港迄ノ運搬費ハ三十七年中ニ於テハ大約左ノ如シ



名稱	荷造費用	運搬費
苦竹	五厘	十二錢
小竹	三錢	十五錢
山竹	三錢	五錢
釣竿	三錢	五錢
竹根	二錢	十錢

(ロ) 重要工産品

本縣産出ノ工産品中年産額五萬圓以上ニ上リ縣下ニ於ケル重要工産物トシテ縣下工業ノ命脈ヲ支持スルモノハ左ノ四種ニシテ以下各品目ニ就キ製産狀況等ヲ叙述スヘシ

- 一、清酒及焼酎
- 二、製茶
- 三、和紙
- 四、砂糖

一、清酒及焼酎

一、産額 (三十七年)  
 數量 二萬七千七百二十二石  
 價額 百六萬三千百九十四圓

清酒 一萬千六百七十六石  
 三十七萬八千五百三十圓  
 焼酎 二萬六千四十六石  
 六十八萬四千六百六十四圓

二、主要産地

宮崎郡、南那珂郡、東臼杵郡、兒湯郡

三、製造戸數

千四百五十戸

四、原料ノ供給

焼酎ノ原料ニハ縣下産出ノ薩摩芋ヲ用ヒ清酒ハ縣下ノ産米ヲ用ヒ何レモ供給充分ナリト云フ

五、販路

本縣ニ於ケル酒類需用ノ程度ハ縣下ノ生産ニテハ尙不足ヲ感シ年々縣外ヨリ輸入ヲ仰クノ状態ナレトモ焼酎ハ鹿兒島ト共ニ本縣地方ノ特産ナレハ大阪、名古屋、東京等ニ販送セラレ清酒ハ縣外輸出ノ餘力ナク専ラ縣下ニ於テ消費セラレツ、アリ

六、製産狀況

本縣ニ於ケル酒類醸造業中最モ發達セルモノハ焼酎ニシテ其産額ハ年々七十萬圓内外ニアリ之ニ反シテ清酒ノ醸造ハ比較的ニ發達セス其産額ハ常ニ焼酎ノ下位ニアリテ四十萬圓内外ニ過キス焼酎醸造ノ最モ盛ナルハ官崎郡ニシテ三十七年ニ於テハ四千百十四石ヲ出シ次ハ南那珂郡ニシテ三千二百九十一石之ニ次クモノハ兒湯郡ニシテ二千四百五十石ヲ

産シ一千石以上ノモノハ北、西、東諸縣ノ三郡ニシテ其他ハ何レモ産額多カラス清酒ニアリテハ東白杵郡ノ五千九百六十五石ヲ最多トシ西杵白ノ二千二百七十九石、宮崎ノ一千七百一十一石之ニ次キ其他ハ何レモ産額寡少ナリ

一、製 茶

一、産 額 (三十七年)

數 量	十三萬五千八百八十一貫
價 額	十七萬七千三百二十八圓

内

玉 露	二千八十貫
四 千 九 百 九 十 二 圓	
煎 茶	七萬三千七百四十四貫
十二萬五千三百五十九圓	
番 茶	六萬五十七貫
四萬六千九百七十七圓	

二、主要産地

北 諸 縣 郡、 西 白 杵 郡、 西 諸 縣 郡、 東 白 杵 郡

三、製造戸數

二萬九千十七戸

四、原料ノ供給

縣下ニ於ケル茶畑總反別ハ七百九十五町步余ニシテ此等茶畑ノ生産ハ製茶ノ原料トシテ供給セラル、ノミナラス野生山茶ノ原野ニ繁生スルモノ其量夥シク殆ト無盡藏ナルノ狀況ナレハ本縣製茶ノ原料ハ供給餘リアルノ狀況ナリ

五、販 路

本品ノ主ナル販路ハ大阪及福岡地方ニシテ産額ノ過半ハ同地方ニ販出セラレ他ノ一半ハ縣下ニ於テ消費セラル

六、製産狀況

本縣製茶ノ起原ハ其由來スル所遠シト雖モ特ニ本業發達ノ氣運ニ逢着シタルハ明治二十八年ノ交ニ屬ス當時縣當局者ハ團體ヲ督勵シ製法ノ革新及販路ノ擴張ヲ講究セシメ一面販賣組合等ノ設立ヲ促シ製茶器械ヲ備フルモノニ對シテハ其購入費ヲ補助スル等具體的ノ獎勵ヲナシタル結果現今ニテハ組合ノ設立セラレタルモノ十六ニ及ヒ粗揉器械ノ購入十八發ニ達シ製茶ノ品質漸ク革マリ新業ノ狀態ハ大ニ面目ヲ一新スルニ至リタルモ原料ノ豊富ニ對シ産額増進ノ度甚ク遅稱タルハ本業ノ爲メ惜ム所ナリ

三、和 紙

一、産 額 (三十七年)

數 量	十一萬四千三百五十二締
價 額	十四萬六千百十三圓

内

美 濃 紙	八千九百六十一圓
半 紙	四萬三千百三十二圓
應 紙	八萬二千四百二十九圓

宮崎縣 工 産 品

二、製品ノ種類

美濃紙、半紙、塵紙

三、主要産地

南那珂郡、北諸縣郡、東諸縣郡、兒湯郡、東白杵郡

四、製造戸數、職工數

戸數 九百六十一戸  
職工 二千三百七十九人

五、原料ノ供給

本縣産出ノ楮皮ハ山楮及本楮ヨリ得製紙ノ原料トシテ充分ニ豊富ニシテ剰余ヲ縣外ニ輸出ス

六、販路

縣内消費ヲ主トシ大阪及神戸地方ニ少額ノ販出ヲナス

七、相場

三十七年中ニ於ケル平均一締ノ相場ハ半紙二圓三十六錢、塵紙八十七錢位ナリシ

八、荷造法其費用及運搬費

荷造ハ地方ニ依リ多少ノ差アリト雖モ大抵六十束乃至百束ヲ以テ一個トナシ方形ニ束子紙ニテ覆ヒ其上ヲ藁蓆ニテ包ムモノ多シ

荷造費用ハ一個十四五錢位ニシテ運賃ハ一個平均大阪神戸迄二十四五錢位ナリ

九、製産狀況

本縣本業ノ状態ハ何レモ規模小ナル家内工業ニ屬シ農家ノ副業トシテ營マレ原料楮皮ノ産額ハ饒多ニシテ多クハ附近ニ於テ産出セララル、モノナレハ製産上頗ル便宜ノ地位ニアリト雖モ其製法ハ極メテ發達シ居ラス製産費尙ミ製品良好ナラサルカ爲メ販路ノ擴張頗ル困難ニシテ利益少ケレハ向後製法ノ上ニ一大刷新ヲ加フルニアラサレハ産額増加ノ見込ナキカ如シ

四、砂糖

一、産額 (三十七年)

數量 十一萬八千五百六貫  
價額 六萬七千七百一圓

内

白下糖

二萬四千八十三貫  
一萬三千四百八十六圓

白糖

千九百二十五貫  
千三百八十六圓

黑糖

九萬九百九十五貫  
五萬二千七百七十八圓

糖密

千五百三貫  
五十一圓

二、主要産地

宮崎縣 工産品

宮崎郡、南那珂郡、湯兒郡

百七十六

三、製造戸數及搾車數

戸數 八百九十戸  
搾車數 百三十九

四、原料ノ供給

原料ハ縣下產出ノ甘蔗ヲ以テ之ニ充ツルモノニシテ三十七年中ニ於ケル甘蔗ノ作付反別百七十五町步余ニシテ其收穫高百十三萬貫ナリシト云フ

五、販路

本品ハ産額饒多ナラス品質又良好ナラサルカ爲メ未タ縣外輸出ノ道開ケス專ラ縣内ノ需用ヲ充シツ、アリ

本縣製糖業者ノ多クハ自ラ甘蔗ノ栽培ヲナスカ故ニ製産上ノ便宜少カラサレトモ工場ハ何レモ規模小ナル家内工業ニ屬シ製法ハ舊式ヲ堅守スルカ故ニ製産費ヲ要スルコト多キニ拘ハラズ製品粗悪ニシテ價額モ比較的廉ナルカ爲メ年々輸入糖ノ爲メニ販路ヲ蠶食セラレ事業ノ發達ハ製法ノ改良ヲ爲スニアラサレハ到底得テ望ム可ラサルカ如シ

大分縣

(一) 産業概説

大分縣ハ其地理的關係ト交通機關ノ不完備トニ於テ商業ノ發展極メテ遅々タルヲ免レス隨テ現下生産力ノ主要ヲ占ムルモノハ農業ト水産トノ二者ニシテ農業ニ於ケル一ヶ年ノ生産ハ殆ント一千萬圓ヲ算シ其重ナルモノハ米穀ニシテ一ヶ年ノ生産約八十四萬石ニ對シ縣外輸出ニ係モノ大約三十萬石ナリトス其他農産物トシテ大豆、麥、七島餅、甘蔗、楡實、楮皮等ノ生産約一百万圓ヲ産シ更ニ農家ノ副業トシテ養蠶業ハ漸次發達進步ノ域ニ進ミ爾一ヶ年ノ生産額二萬石其價額七八十萬圓内外ニ達セリ農業ト駢立シテ水産物ハ其生産額約百七十萬圓乃至貳百萬圓ニシテ其漁業沿岸線百七十有餘里ニ及ヒ瀬戸内海ト外洋トニ瀕セルノ間一ツノ水道ヲ形成シ各種ノ魚族及貝藻類ノ生産極メテ多ク鰯、石決明、鱈等ハ大阪ヲ經テ清國ニ輸出セリ又本縣ニ於ケル遠洋漁業ハ古來著名ノ歴史ヲ有シ而カモ現時ニ至リ漸次其發展ヲ見去ル三十六年ニ於ケル出漁者二千二百五十一人ニ達シ其所得二十四萬八千餘圓ニ及ヒ尙ホ將來益々好望ヲ以テ迎ヘラル、ノ状態ニアリ

本縣ニ於ケル商業ハ前述ノ如ク未タ幼稚ノ時代ニアリ然レトモ其工産品中將來海外ニ需要ヲ求メ若クハ生産ノ發達ヲ見ルヘキ望ヲ有スル者ナキニアラス殊ニ工業品タルヘキ各種ノ原料ハ極メテ豊富ニシテ他日交通機關ノ設備完成スルノ曉ニ於テハ其發達ヲ見ルノ機アルヘキヲ信ス而シテ現在ニ於ケル輸出品ノ重ナルモノハ華苳、木蠟、生絲、清酒、綿絲、製茶、竹製品及竹材、ノ數種ニシテ其他ノ工産品トシテ青苳、醬油、紙類等ニ過キス今是等生産品ニ對シ概説スレハ華苳ハ本邦ニ於ケル岡山、廣島、福岡等ニ生セルモノト其趣ヲ異ニシテ彼ノ清國產ト原料相同キガタメ一種ノ特色ヲ有スルト同時ニ米國市場等ニ於テ支那產ト競争セル結果一時同國産ノ壓倒スル處トナリ大ニ衰運ニ嚮ヒタリシカ當業者

亦大ニ反省スル處アリ爾來製造法ニ改良ヲ加ヘ殊ニ染織法ニ就テハ組合ノ規程ヲ勵行シ大ニ見ルヘキ成績ヲ擧グルニ至リ隨テ需要地ノ信用ヲ恢復シ漸次輸出増加ノ好況ヲ呈スルニ至レリ木蠟ハ其品質全國中有數ノモノニ屬セリ去明治廿七年ノ頃縣事業トシテ巡回教師ヲ置キ専ラ之カ獎勵ヲ加ヘ一時其生産額増加セシカ海外ニ於ケル需要ハ其供給ニ伴ハサルカ爲メ價格暴落殆ント事業蹙跡ノ悲運ニ陥リタリシカ近來又需要増進ノ趨勢ヲ來シ目下一年約二十五萬圓ノ輸出ヲ見ルノ狀況ナリトス綿絲ハ一ヶ年百二十萬圓内外ノ生産ヲ見ルモ本縣ハ單ニ鐘紡ノ支社所在地ト言フニ過キスシテ綿絲ハ所謂特種ノ工産物トシテ數フルノミ竹製品及竹材ハ將來有望ノ輸出品ニシテ本縣ハ各地至ル處竹材ヲ生産セサルハナク其原料ノ豊富ナル殆ント無盡蔵ト言フヘシ明治二十七八年ノ交始メテ神戸商人ノ手ヲ經テ竹材ノ輸出ヲ企テタル以來漸次其輸出額ヲ増加シ明治三十三年以降益々輸出上進ノ趨勢ヲ呈シ一昨三十七年ニ於テハ其生産十四萬五千圓ニ及ヘリ而シテ竹製品ハ常業者一般手藝幼穉ナルト未タ海外ノ事情ニ通セサルカ爲メ其製品孰レモ内國向ニシテ海外輸出向ノモノヲ生産スルニ至ラス隨テ生産額僅ニ二萬圓内外ニ過キサルノ狀況ナリトス亦竹材ハ内地ノ需要トシテ尺器ノ原料ニ供スルノ目的ヲ以テ大阪神戸地方ニ多大ノ輸出ヲ見ルニ至レリト言フ清酒ハ九州各縣中福岡縣ニ亞ク主要生産地ニシテ目下全産額八萬石内外ナルモ各常業者ハ合同シテ同業組合ヲ設置シ専ラ品質ノ改良ヲ圖リ益々其販路ノ擴張ヲ企テ既ニ兩三年前ヨリ韓國方面ニ試賣ヲ行ヒ漸次輸出増加ノ狀況ニ向ヒツ、アルモ未タ其發展ヲ見ルニ至ラス尙ホ目下釀造試驗所ヲ設ケ且専門ノ技師ヲ聘シテ漸次改良ノ方法ヲ講究中ニ屬セリ麥稈真田ハ明治廿七年ノ頃ニ於テ始メテ其事業ノ創始ヲ見爾來縣ノ獎勵指導ニ依リ一時進境ニ向ヒ一ヶ年ノ生産約十萬圓内外ニ上リタルコトアリシカ常業者ハ海外ノ嗜好ニ通セサルカ爲メ其製品ハ流行ノ變遷ニ伴ハサルト且粗製濫造ニ流レタルトニ依リ價格低落收支償ハサル結果漸次萎靡不振ノ境ニ陥リ現時迄推移シ來リシカ昨年來軍人遺族ニ對シ生業扶助ノ目的ヲ以テ香川、岡山二縣ヨリ教師ヲ聘シ各地ニ麥稈及木真田傳習所ヲ設置シ専ラ精巧ノ品種ヲ製出スルノ方法ヲ講シツ、アルヲ以テ今後需要ノ道開始セラル、ニ

於テハ其生産ハ益々發展ヲ見得可キヲ信ス

以上ハ海外輸出品ニ付其概要ヲ述ヘタルニ過キサルモ本縣ノ工産品トシテ以上ノ外紙類醬油ノ二品ニシテ紙類ハ其生産額二十二萬圓内外ニ及ヒ現今ニ於テハ其製品僅カニ生漉紙ノ一種ニ過キサルカ爲メ販路狹隘依然舊態ヲ改メス爲メ營業者ハ改良紙(則チ混合紙)ノ製出ニ努メ漸次其生産ヲ増加スルニ至レリ元來本縣ハ製紙ノ原料豊富ニシテ將來其事業ノ勃興ヲ見ルニ於テハ原料ノ供給ハ殆ント無盡蔵ニシテ現今ハ單ニ農家ノ家内工業トシテ經營セルノミニ止マリ其發達速々トシテ見ルニ足ルモノナシ輸出先ハ重ニ大阪地方ニシテ専ラ内國需要ニ供セリ醬油ハ九州ニ於ケル主産地ノ一ニシテ其生産額五十萬圓内外ニ及ヒ品質亦佳良ニシテ頗ル聲價ヲ博セリ販路ハ多ク内地ノ需要ニ止マリ輸出ハ僅カニ韓國地方ニ於ケル本邦人ノ需要ニ供スルニ過キス

本縣商工業ノ狀態ハ以上縷述セルカ如ク極メテ微々トシテ振ハス其内國貿易ニ於テハ目下陸上交通ノ設備完カラサル今且單ニ海上運輸ヲ利用シ大阪及馬關ト接觸ヲ保テリ若夫九州延長線及豊肥線(肥後豊後ノ連絡)日薩線(日向薩摩豊後)ノ豫定鐵道線落成ヲ見ルノ曉ニ於テハ本縣ノ商工業ハ蓋シ一大革新ヲ見ルハ識者ノ首肯スル所ナルヘキヲ信ス

(二) 工産品

(イ) 輸出工産品

本縣産出ノ工産品ニシテ現ニ海外ニ販路ヲ有シ年々輸出シツ、アルモノハ左ノ六種ニシテ以下各品目ニ就キ其製産狀況

大分縣 産業概観

及販路等ヲ叙述スヘシ

- 一、清酒
- 二、綿絲
- 三、生絲
- 四、木蠟
- 五、竹材
- 六、花莖

(一) 清酒

一、産額 (二十七年)	数量	價額
	七萬三千九十四石	
二、主要産地		二百六十四萬四千五百七十八圓

縣下各郡共盛ニ醸造シツ、アリト雖モ就中最モ旺盛ナルハ速見郡ニシテ一萬石以上ノ産出アリ之ニ次クモノハ大野、大分ノ兩郡ニシテ何レモ九千石以上ヲ産シ其他ハ何レモ五千石内外ヲ醸造ス

三、製造戸數

三百六十二戸

四、原料ノ供給

原料米ハ縣下ニ産シ充分ノ供給力アレハ製産者ハ附近農家ヨリ玄米ヲ買取り之ヲ精米シテ醸酒ノ原料ニ充用ス

五、製産狀況

縣下ニ於ケル工産品中産額最も多額ヲ占ムルモノハ清酒ニシテ其年産額ハ二百五十萬圓内外ニ達シ九州各縣中福岡縣ニ次キ醸造盛大ヲ極ム品質ハ從來ニ於テハ醇良ナラサリシモ組合ヲ組織シ醸造試驗所ヲ設置シテ専門ノ技師ヲ聘シテ改良ニ留意スルニ至リタル以來今日ニテハ灘酒ト彷彿タルモノヲ醸造シ得ルニ至リ灘酒ノ代用トシテ縣外ニ輸送セラレ、モノ年々一萬一千石以上ニ達スルニ至レリ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ宮崎、熊本、福岡ノ諸縣下ニ販路ヲ有シ年々同地方ニ販送セラル、モノ一萬石以上ニ達シ海外ニ於テハ兩三年前ヨリ韓國ニ試賣ヲ行ヒ漸次輸出増加ノ狀況ニ赴キツ、アルモ未タ充分ナル發展ヲ見ルニ至ラスト云フ

七、販賣手續

縣外輸出ハ各縣下ニ特約店ヲ設ケ該店舗ニ卸賣スルカ又ハ注文ニ應シテ隨時販賣ヲナスノ方法ニ依リ代金支拂ハ凡テ現金勘定ナルガ如シ韓國へ輸出スルモノハ二三ノ製産者自ラ彼地ニ到リ各自小賣販賣ヲ爲シ管内販賣ハ醸造主各自ニ店舗ヲ設ケテ現金又ハ掛ニテ附近町村ニ卸小賣スルノ方法ヲ採リ居レリ

八、荷造方法及其費用、運搬費

荷造ハ四斗樽ニ入レ繩ニテ結束シ其費用約壹圓ヲ要シ運搬費海陸共十哩ニ付約五十錢ヲ要スト云フ

九、輸出狀況

本品ノ海外輸出ハ最近二三年前ニ於テ韓國ニ輸入試賣シタルヲ始トシ爾來彼地ニ向テ年々少額ノ輸出ヲ見ルニ至リタレトモ未タ充分ナル發展ヲ見ルニ至ラズ其輸出額ノ如キモ現今ニテハ極メテ僅少ニシテ四五千圓内外ニ過キズト云

フ然レトモ將來本邦人ノ彼地ニ移住又ハ往來スルモノ多キニ至リ本品ノ販路ハ漸次ニ擴張セラレ、ニ至ルベシ

(二) 綿 絲

一、産 額 (三十七年)

數 量 四十萬一千五百八貫

價 額 百二十四萬四千五百二十四圓

二、製産者

下毛郡豊田村鐘淵紡績會社中津分工場

三、職工數及馬力數

職 工 數 五百七十一人

使用馬力 三百五十馬力

四、原料ノ供給

原料棉花ハ鐘淵紡績會社本社ヨリ供給スルモノニシテ其種類ハ米棉、支那棉及印度棉等ナリト云フ

五、製産狀況

本業ハ本縣ニ於ケル特種ノ工業ニ屬シ只工場ヲ縣下ニ有スルニ過キスシテ其製産及損益計算ハ凡テ本社タル鐘淵紡績會社ノ主管ニ係リ縣下一般ノ工業トハ多少其趣ヲ異ニスト雖モ試ニ概略ヲ左ニ記述スヘシ  
本工場一日平均運轉ノ鐘數ハ約一萬餘鐘ニシテ一日ノ生産高ハ一萬二千貫内外ナリ一ケ年ニ於ケル原棉ノ使用高ハ五十萬貫以上ニ上リ之ニ要スル燃料石炭ノ消費高ハ一ケ年約七百萬斤ニシテ番手ハ十六手及二十手多ク製品ノ四分ハ内國ニ販路ヲ有シ六分ハ清國ニ輸出セラレ品質良好ニシテ年々販路ノ擴張ヲ見製品ハ常ニ品不足ノ有様ナレハ追年事業

盛大ニ赴キツ、アリ

六、販出品仕向先

内地ニアリテハ九州各縣中國、四國及大阪ニ販路ヲ有シ海外ニアリテハ清國ニ輸出ス而シテ其割合ハ内地向四分ニシテ外國向六分ナリト云フ

七、販賣手續及輸出狀況

本工場ハ鐘淵紡績會社ノ分工場ナルカ故ニ輸出及内地販賣共ニ凡テ本店ノ指揮ノ下ニ立テ本店ト同一ノ手續ヲ踏ミ内地及清國ニ販賣シ清國ニテハ鐘淵藍魚ノ名ハ大ニ清人ノ唱導スル所トナリ販路ハ年々擴張セラレツ、アリ輸出ハ神戸清商ノ手ヲ經テ之ヲ爲シ内地販賣ハ大阪、廣島等ニ特約店ヲ設ケ之ト特約販賣ヲ爲シツ、アリ

三、生 糸

一、産 額 (三十六年)

數 量 一萬七百一貫

價 額 四十五萬千七百六圓

二、主要産地

大分、北海部、速見、大野、下毛、宇佐ノ六郡

三、製造戸數

製 造 所 二十二ヶ所

自 宅 六千四百四十一戸

四、原料ノ供給

大分縣 工 産 品

本縣ニ於ケル繭ノ年産額ハ春、夏、秋三期ノ生産ヲ合シテ大約一萬七千石内外ニシテ繭ノ生産最モ盛ナルハ大野、大分ノ二郡ニシテ各三千石以上ノ産額アリ之ニ次クモノハ宇佐郡ニシテ年産額約二千石其他一千石ニ達スルモノハ西國東、直入ノ兩郡ニシテ以上諸郡ノ外ハ何レモ産額少ク五百石内外ニ過キスト雖モ之ヲ生糸ノ産額ニ比スレハ決シテ原料不足ト云フヘカラス寧ロ餘剰ヲ生スルノ有様ナレハ年々原料ノ儘愛媛縣ニ買收セラル、モノ少カラスト云フ

五、主ナル製産者

縣下製糸工場中職工四十人以上ヲ使役スルモノハ左ノ如シ

- 下毛郡 豊中製糸株式會社
- 宇佐郡 同上柳浦分工場
- 同 馬城製糸場
- 大分郡 富岡製糸場
- 同 大分製糸場
- 大野郡 豊後製糸合資會社
- 同 大野製糸場
- 直入郡 四山株式會社
- 速見郡 日出製糸場
- 北海郡 平松製糸場
- 同 蠶絲株式會社

六、製産狀況

本縣ハ原料蠶繭ニ富ムヲ以テ製糸事業盛ニ行ハレ其年産額ハ九千貫ヨリ一萬貫ノ間上下シ操業ノ状態ハ工場組織ノモノ二十ニク所アリテ職工百人以上ヲ使役スルモノ下毛及宇佐ニ豊中製糸及同分工場アリテ器械製糸ノ年産額ハ六千五百貫内外ナリ工場組織ニアラサルモノハ何レモ農家ノ副業ニ屬シ座繰器械ヲ使用シテ製産ニ従事シツ、アルモノニシテ其産額ハ約三千五百貫内外ナリ本業ノ最モ盛ナルハ宇佐郡ニシテ二千貫以上ヲ産シ之ニ次クモノハ大野大分ノ兩郡ニシテ何レモ二千貫ニ近シ次ハ下毛郡ニシテ一千貫ニ達シ北海郡ハ八百貫速見ハ五百貫ヲ産シ其他ハ何レモ産額多大ナラス本業ハ産額ノ劇増ヲ見ルコトナシト雖モ極メテ健全ニ發達シ品質ハ年々改良進歩シツ、アリ

七、販出品仕向先

内地ニアリテハ福井、京都等ニ販路ヲ有シ海外ニテハ米國ヲ始メトシ伊、佛、英ノ歐州各國ニ輸出セラル而シテ輸出ノ内地販賣ニ對スル割合ハ八分ヲ輸出トシ内國ハ二分ノ割合ナリト云フ

八、輸出狀況

本縣産品ノ海外ニ輸出セラル、モノハ直接ニ横濱ニ輸送セラル、モノ少ク多クハ一旦地方仲買人ノ手ヲ經テ横濱ニ送ラレ夫ヨリ輸出仲買商ニ賣込マレ外商ノ手ヲ經テ海外ニ輸出セラル、モノニシテ二十七年中ニ於テハ一般ニ價格低廉ナリシモ商況ハ極テ活潑ナリシガ爲メ本縣産ノ輸出モ頗ル好況ニシテ四百九十捆ノ輸出ヲ見ルニ至リ其輸出先ハ依然トシテ米國ヲ主位ニ置キ佛、伊、英等順次之ニ次ク

四、木 蠟

一、産 額 (二十七年)

數 量 十五萬一千八百八十六貫

價 額 二十五萬六千三百四十八圓

大分縣 工産品



二、主要産地

百八十六

西國東郡、日田郡、宇佐郡、東國東郡、速見郡、下毛郡、大分郡

三、製造戸數及職工數

戸數 百九十五戸

職工數 四百六十一人

四、原料ノ供給

縣下ニ於ケル原料蠟質ノ年産額ハ約百六十萬貫ニシテ就中最モ産額ノ多キハ西國東郡ニシテ五十九萬貫ヲ産シ宇佐郡ノ四十八萬貫、日田郡ノ十六萬貫順次之ニ次キ其他五萬貫以上ノモノハ下毛、速見、東國東ニシテ三萬貫以上ノモノハ大分、北海部、南海部ノ三郡ナリ此等ノ生産ハ本蠟ノ現在生産ニ對シテハ敢テ不足ヲ感スルコトナク塚口剩餘ヲ生スルノ有様ニテ年々福岡縣下ニ輸送セラル、モノ生産ノ二割乃至三割ニ及ブガ如シ

五、販出品仕向先

内地ニアリテハ阪神地方及中國ニ販路ヲ有シ海外ニ於テハ香港、比律賓、獨乙、自耳義、西班牙及北米合衆國ニ輸出ス而シテ其割合ハ輸出八分ヲ占メ内國向ハ二分ノ割合ナリト云フ

六、製産狀況

本蠟ハ本縣ニ於ケル重要工産品ナルノミナラス本縣産本蠟ハ全國中有數ノ位置ヲ占ムルモノナルガ事業ノ狀態ハ重ニ農家ノ副業ニ屬シ何レモ規模小ナル家内工業ニシテ職工十人以上ヲ使役スルモノハ僅カニ日田郡ニ草野忠右工門、森千藏、大原伊平二ノ三人アルノミ本業ノ最モ盛ナルハ三十七年ノ調査ニ依レハ西國東ノ六萬三千圓ヲ最多トシ宇佐ノ

五萬七千圓之ニ次キ日田ノ五萬六千圓下毛ノ三萬五千圓速見ノ二萬二千圓等順次之ニ次キ其他ハ年産額一萬圓ニ達セ

本縣ニ於テ本蠟ノ産額最モ多ク事業隆盛ヲ極メタルハ二十八年ノ交ニシテ當時ノ年産額ハ數億ノ上ニ於テハ現今ノ倍數ニシテ約三十萬貫ヲ産出セシガ其後海外ニ於ケル需用ハ其供給ニ伴ハス價額暴落殆ント事業蹙蹙ノ悲運ニ陥リシカ三十六年以來價格騰貴シタル爲メ再ヒ本業ノ活氣ヲ見ルニ至リ數量ニ於テハ前日ノ半ヲ産スルニ過キザレトモ價額ニ於テハ前日ト殆ト同等ノ産額ヲ見ルニ至レリト云フ

七、販賣手續

製産者ハ神戸港ニ於ケル輸出仲買商ト直接取引ヲナスモノト地方仲買人ニ(本蠟製産ヲ兼業トスルモノ)現金取引ヲ以テ販賣ヲナスモノトアリ

八、輸出狀況

三十八年中ニ於ケル本品ノ輸出ハ數量三百十五萬八千八百八十八斤價格八十萬四千二百九十九圓ニシテ前年ニ比スレハ數量三十五萬九千三百七十七斤價格二十九萬八千六百九十七圓ノ減少ヲ示セリ其輸出先ハ香港ノ二十一萬一千五百六十圓ヲ最多トシ獨乙ノ十一萬九千二百六十九圓之ニ次キ英國八萬九千五百三十二圓佛國八萬二千六百五十二圓關領印度二萬七千九百九十二圓、自耳義二萬一千五百九十六圓、比律賓一萬六千十七圓、英領海峽殖民地一萬三百六十圓等順次之ニ次クノ狀況ナルガ本縣産モ亦海外市場不振ノ影響ヲ受ケ其輸出額ハ前年ニ比シ大ニ減退シ十五六萬圓内外ナリシカ如シ

五、竹材

一、産額 (二十七年)

大分縣 工産品

百八十七

數量  
價額

三十七萬六千三百七十五束  
十四萬五千圓

二、主要產地

速見郡、大分郡、東國東郡、西國東郡、日田郡、玖珠郡、宇佐郡

三種類

苦竹、淡竹

四、製竹ノ方法及種類

六五竹

淡竹ヲ長七尺宛ニ切り炭火ニテ炙リ油抜キヲナシ布巾ニテ能ク拭ヒ去リ彎曲ノ部分ヲ矯正シタル後日光ニテ乾燥ス  
輸出ノ際六尺五寸ニ切り揃フルヲ以テ此ノ名アリ

釣竹

淡竹ノ尖頭迄枝ヲ打落シタルモノヲ六五竹ト同法ニテ油抜キヲナスニアリ魚釣竿ニ類似セルヲ以テ此名アリ  
籬竹

長物

淡竹ノ一間半乃至二間位ノ長サノモノヲ内肉ヲ除キ幅二三分位ニ細割スルモノトス  
長物ニハ苦竹、淡竹等アリテ油抜ヲナスコト六五竹ト同様ニシ長二間乃至三間ニ切りテ輸出ス

五、製産狀況

原料ノ山地切出シハ初メ當業者實地ヲ見分シ區割ヲ定メテ立材ヲ買取り必要ニ應ジテ切出シヲナスモノト農家ヨ  
リ切出シタルモノヲ買求ムルモノトアリ本業者ノ多クハ專業ニ屬スト雖モ製産上ノ技術尙幼稚ナルカ故ニ原料竹ハ單  
ニ油拔ヲナスノミニシテ神戸其他ノ貿易港ニ搬送セラレ焼付ノ如キハ縣下ニ一人ノ從業者ナク專ラ神戸ニ於テ焼付セ  
ラル、ノ狀態ニテ無盡藏ノ原料ヲ有シナカラ空シク製産上ノ利益ヲ遺棄シテ願ミザルノ感アリ尙從業者ノ多クハ資本  
薄弱ナルカ故ニ資金ノ運轉自由ナラス之カ爲メ商機ヲ失スルコト多ク輸出商又ハ居留地仲買商等ノ爲メニ常ニ利益ヲ  
壟斷セラレ製産者ハ却テ窮狀ニ陥ルカ如キ場合少カラスト云フ之カ救済ノ方法ハ組合又ハ有力ナル團體ヲ組織シ合同  
ノ力ニ依リテ一方資金薄弱ノ上ヨリ來ル種々ノ不利ヲ防キ一方不正品ノ監督ニ勉ムルト同時ニ竹製品ノ製作ニ從事ス  
ルニ至ラハ竹材ハ本縣ニ於ケル將來有望ノ一富源タルヘキヲ信ス

六、主ナル製産者

大分郡西大分町	安部ミネ
速見郡別府町	長井喜平
全町	武田綾太郎
全町	日名子重太郎
全町	濱脇町
全町	村田源次郎
全町	日出町
全町	中原平八
全町	神納幸太郎

七、重ナル輸出商

神戸市	長田太介
大分縣	工産品

八、販出品仕向先

内地ニアリテハ馬關、廣島、福岡、備後、神戸等ニ販路ヲ有シ海外ニアリテハ米國ヲ主トシ英國之ニ次キ其他獨、佛、白國及漳州等ニ輸出ス而シテ其割合ハ内國約二萬圓内外ニシテ外國十二三萬圓位ナルカ如シ

九、輸出先ニ於ケル用途  
海外ニ於ケル用途ニ就キテハ詳カナラサルモ外人ハ之ヲ以テ茶棚、額縁、花臺、椅子等ノ如キ裝飾品及日用器具ノ製作ニ充シ大ナルモノヲ要スル部分ニハ六五竹ヲ用ヒ小ナルモノヲ要スル部分ニハ釣竹ヲ用ヒ籐竹ハ籐簾下等ニ用ユルカ如シ

十、荷造法其費用及運搬費

本品ハ運搬中毀損スルノ恐少キカ故ニ荷造ハ極メテ簡單ニシテ唯一丸ツ、ヲ束テ個々ニ離脱セサル様數個所ヲ箇細ニテ結束スルニアリ其費用ハ關ト稱シ不正品ヲ撰出シ一丸ノ本數ヲ算シ結束スル爲メニ一束ニ付一錢ノ賃金ヲ要シ細代トシテ外ニ五厘ヲ要スト云フ

本縣ヨリ神戸ニ輸送スルニハ六五竹及釣竹ハ多ク和船積トナシ籐竹及六五竹等ノ急送ヲ要スルモノニ限り汽船ニテ輸送ス運送費ハ船積スル迄ノ仲仕賃一束ニ付約一錢神戸迄運賃和船ニテ六五竹十錢、釣竹十二三錢、籐竹七錢内外ヲ要シ汽船ニテハ籐竹十二錢其他之ニ準シ多額ヲ要スルモ籐竹以外ハ汽船積トナスコト殆ント稀ナリ而シテ神戸着港ノ際荷揚賃其他ニテ二錢内外ヲ要スルヲ以テ關へ及運搬費總計六五竹ニ於テハ一束十五六錢、釣竹十八九錢、籐竹十二三錢位ヲ要スト云フ

十一、販賣手續

從來ニアリテハ製産者ハ神戸迄出荷シテ輸出商ニ賣渡スノ習慣ナリシカ輸送販賣ニ依レハ神戸商人ノ狡智ニ依リ一束

ノ内ヨリ不正品ト稱シテ不合格品ヲ振キ出サル、コト多ク且良品ノモノモ安價ニアラサレハ買受ヲナササルノミナラズ商況不振ニ際シ久シク貯藏シ置ケハ倉敷料等ノ損失アルカ爲メ已ムヲ得ス手放シ遂ニ商機ヲ失スル等ノ不利益アリシカ故ニ二三年前ヨリハ買手ヲ來縣セシメ地賣ノ方法ニテ輸出商又ハ仲買商ニ賣込ムノ方法ヲ取ルニ至レリト云フ

十二、輸出狀況

三十八年中ニ於ケル本邦竹材ノ輸出ハ二十九萬八千七百七十七圓ニシテ前年ニ比シ約一萬圓ノ増出ナリ其輸出先ハ米國ノ十一萬五千六百一十一圓、最多トシ英ノ四萬八千七百七十圓佛ノ一萬九千二百四十五圓之ニ次キ漳州一萬五千四百三十四圓、白耳義一萬一千五十一圓、和蘭九千二百九十三圓、獨乙八千三百十三圓、露國二千三百六十五圓ナリシカ本縣産ノ輸出ハ約十三萬圓ニシテ全輸出額ノ四割強ヲ占メ其種類ハ燒竹及白竹ノ類ニシテ米國ヲ主ナル華客トシ英國及漳州之ニ次キ其他獨、佛、白等ノ諸國ニモ少額ノ輸出ヲ爲シタルカ如シ

六、花 蕙

一、産 額 (三十七年)

數 量	二萬六千七百八十二本
價 額	十萬一千八百九十六圓

二、主要産地

東國東郡、 大分郡、 速見郡、 西國東郡

三、製造戸數

一千百五十三戸

四、製品ノ種類

大分縣 工産品

脊高、並花、綾織、細織ノ四種トス

本縣産花産ノ原料ニハ蘭草ヲ使用セスシテ七島蘭ヲ用ユ七島ハ本縣ノ特産ニシテ其質強軟耐久力ニ富ム支那及臺灣ノ一部ニ之ト同種ノモノヲ産スルモ品質本縣産ニ及ハスト云フ三十七年中ニ於ケル七島ノ産額ハ二百二十八萬九千三百三十貫ニシテ其作付反別ハ一千三百五十三町五反歩ナリ之ヲ郡別スレハ左ノ如シ

東國東郡	六百五十二町歩	百三十五萬二千貫
速見郡	三百五十二町一反歩	五十七萬一千五百七十貫
大分郡	二百九十六町九反歩	二十六萬七千三百五十五貫
西國東郡	五十二町五反歩	九萬八千二百五貫

上述ノ如ク七島ハ花産製織ノ原料トシテ使用セラル、ト雖モ青産ノ原料トシテモ亦之ヲ使用スルカ故ニ一見原料ノ不足ヲ告クルカ如キ感アルモ實際ニ於テハ原料饒多ニシテ加フルニ花産業者ノ多クハ青産業ト兼業ノモノ多キ爲メ花産盛況ナルトキハ青産ノ原料ハ花産製織ノ原料トナリ花産不況ナルトキハ花産ノ原料ハ却テ青産ノ原料トナリ兩業互ニ原料ヲ利用シ得ルヲ以テ原料ノ不足ヲ感スルコトナキノミナラス却テ製産上ノ便宜多シト云フ

六、製産狀況  
本縣ニ於テハ花産業ハ青産業ト兼營セラル、モノ多ク何レモ農家ノ副業トシテ家内の工業ニ屬シ毎戸ノ婦女子ハ原料七島ノ作付ヲ爲シ自家生産ノ原料ヲ以テ花産ノ製織ニ従事シツ、アリ製品ハ岡山、廣島等ノ生産トハ全ク其趣ヲ異ニシ寧ロ原料同シキ清國産ト相似ノモノナルガ故ニ米國市場ニ於テハ常ニ支那産ト競争ノ地位ニ立チ之レカ爲メニ販路ノ擴張頗ル困難ナリト云フ三十三年以來本縣花産業ノ衰退セシハ全ク清國産ト競争ノ結果同國産ノ爲メニ壓倒セラレ

タルニ外ナラスンテ爾來從業者大ニ反省スル所アリ製織及染色ニ注意スルニ至リタル結果未タ當時ノ如ク盛ナラスト雖モ三十七年以來漸次盛況ヲ見ルニ至リタルハ本業ノ爲メ悦ブベキコトナリ

七、製造費及損益  
時期ニ依リ多少ノ差アルヲ免レザレトモ三十八年三月及十二月ニ於ケル一本ノ製造費及損益計算ハ概要左ノ如シ

原料	一圓九十五錢五厘	四圓六十錢
染色料	一圓七錢	一圓七錢
織賃	五十錢	五十錢
製産費計	一圓七十錢	一圓七十錢
賣價	五圓二十二錢五厘	七圓八十七錢
差引	五圓三十錢	六圓二十錢
益	七錢五厘	損一圓六十七錢
並花	三 月	十二 月
原料	一圓七十錢	四 圓
染色料	八十四錢	八十四錢
織賃	二十錢	二十錢
製産費計	一圓四十錢	一圓四十錢
大分縣	四圓十四錢	六圓四十四錢
工業品		百九十三